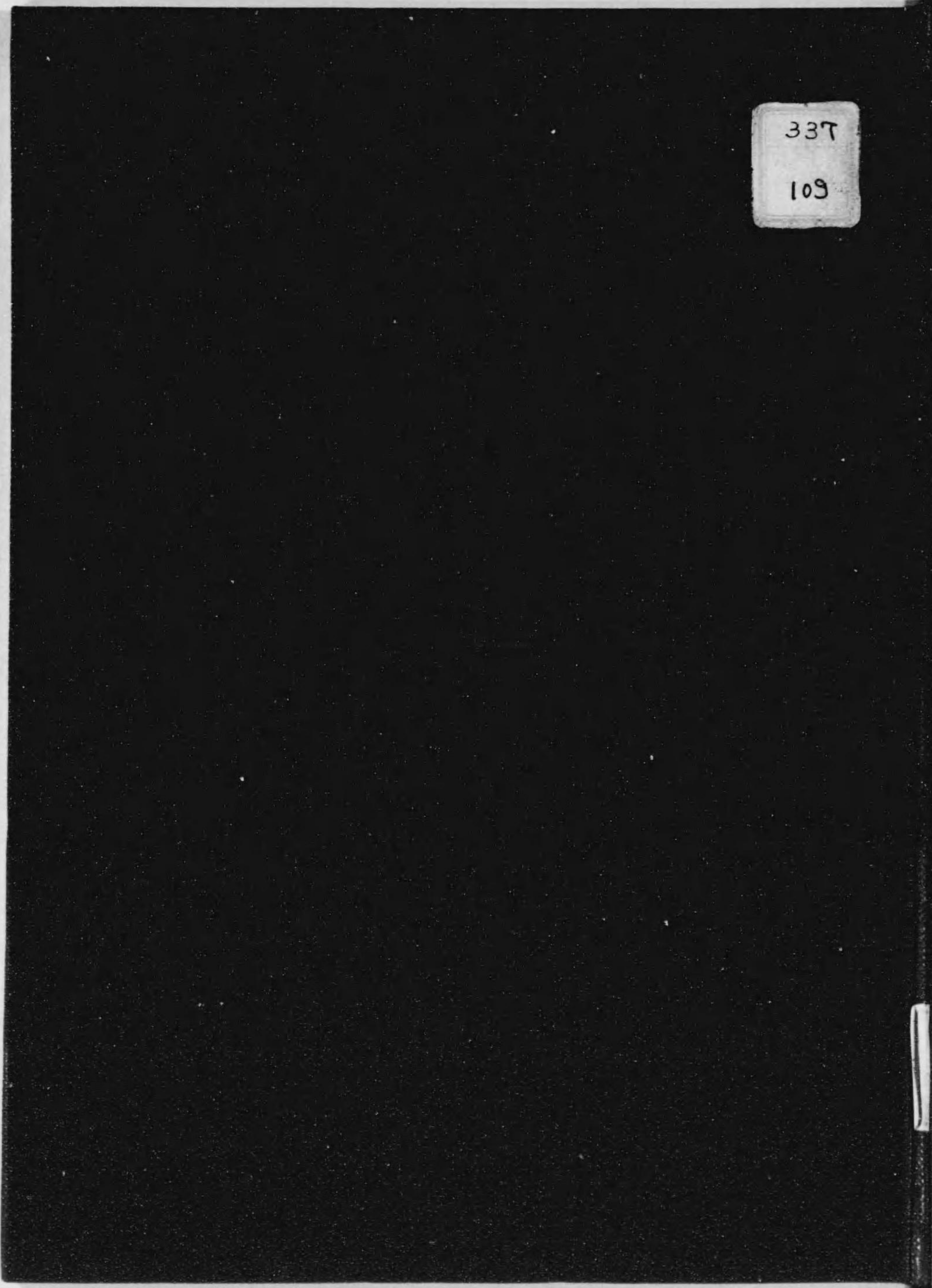


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

337  
109

始



11-399

334  
109

南洋諸島林況視察復命書

✓

南洋諸島林況視察復命書

小官南洋諸島林況視察ノ命ヲ奉シ明治四十四年十一月十一日神戸市解纜ノ歐洲通汽船ニ乗シ門司上海香港ノ諸港ヲ經テ同年同月二十七日新嘉坡ニ着シ此處ニ旅裝ヲ整ヘ先ツ瓜哇島ニ渡航シ次ニホルネオ島、スマトラ島ヲ順次視察シテ再ヒ新嘉坡ニ歸リ明治四十五年三月二十日神戸市ニ上陸歸京ノ途ニ就キタリ此間約一ヶ月餘ナリト雖トモ諸島間ノ定期汽船ノ航行稀ニシテ南洋全諸島ヲ受命期間内ニ旅行スルコト能ハス例ヘハ新嘉坡又ハ瓜哇島ヨリセレベス島ニ渡航セントセハ往復ノミニテ一ヶ月餘ノ日子ヲ要シニユギニヤニ到ラントセハ約二ヶ月ヲ要ス故ニ所定ノ期間内ニ旅行シ得ル程度ノ範圍ニ止メセレベス及ニユギニヤニ島ノ視察ヲ省略シタリ以上ノ狀況ニ付瓜哇島、ホルネオ島及スマトラ島ノミノ森林狀態森林ノ經營、林產物ノ種類、木材市場及販路其他參考トナルヘキ諸項ヲ取調ヘ之レカ視察ノ要領ヲ別記シ謹テ復命候也

明治四十五年五月三十一日

青森大林區署在勤  
林務技師 千本 停三郎

農商務大臣 男爵 牧野 伸顯殿



目次

第一章 總論.....

第二章 南洋諸島ノ位置、面積、人口、道路、河川、農産物  
林政ノ概要.....

第三章 森林官廳ノ組織、森林官吏ノ官名及人員  
氣候地勢、森林ノ分布及林況概要.....

第四章 氣溫、雨量、森林帶、チーク林(林況、經營、造林、運材、賣却、市場、輸出先、瓜哇チークノ  
特徵、利用)  
利用樹種各木竹材ノ特性及用途.....

第五章 チーク、鐵木、ラサマラ、ブリスバ、シヨレヤ屬、竹類、藤類  
森林副産物.....

第六章 護謨類、椰子類、沈香類(主産物ニ屬スルモ  
便宜上此處ニ入ル)  
勞働者ノ狀態並ニ勞銀.....

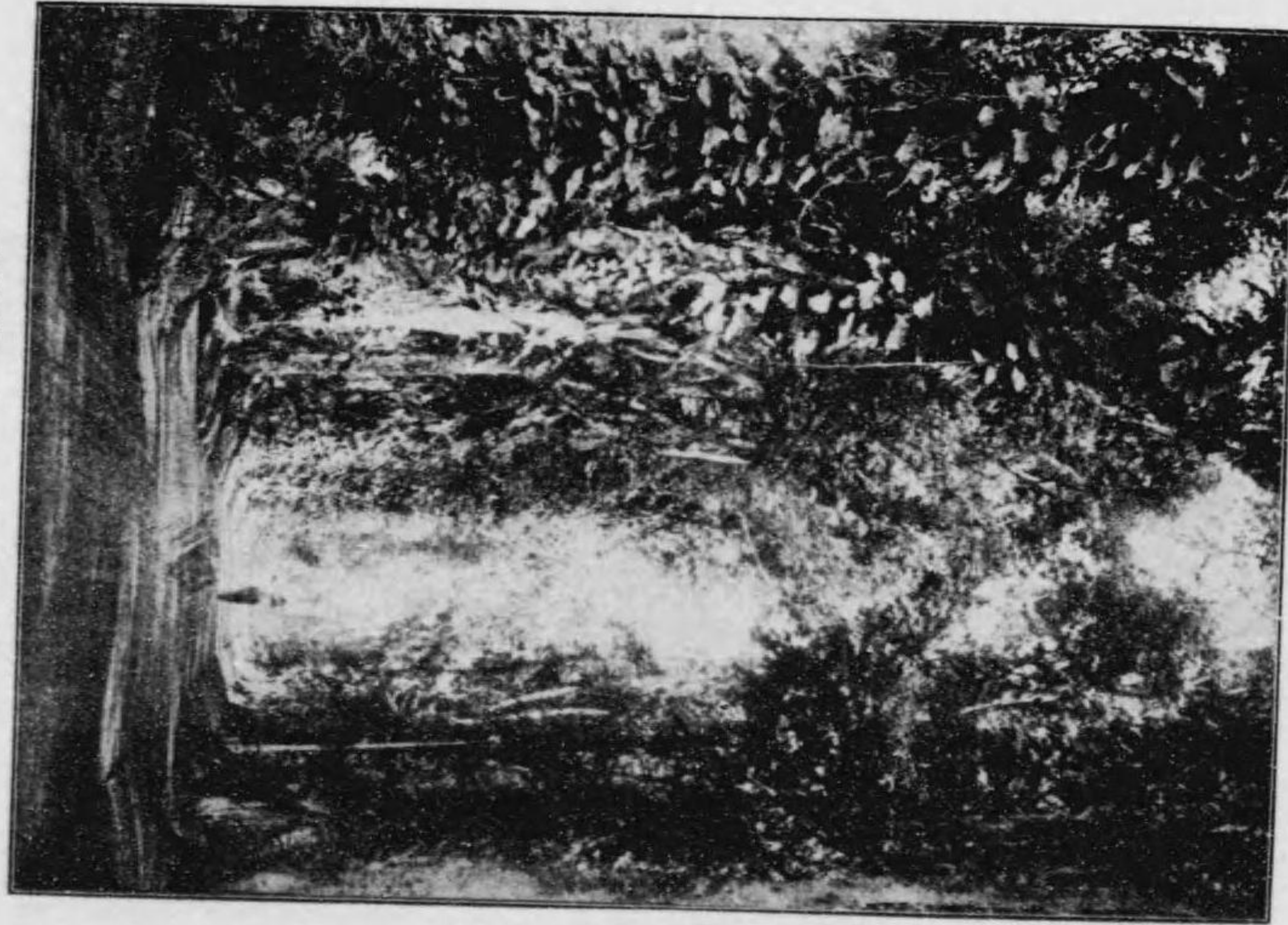
第七章 土地貸與方法.....

第八章 輸入木工品.....  
鱗寸ノ輸入

第九章 白蟻船蟲ニ對スル豫防法並ニ之レニ抵抗強キ樹種.....



館物博アルゴズンテイポ

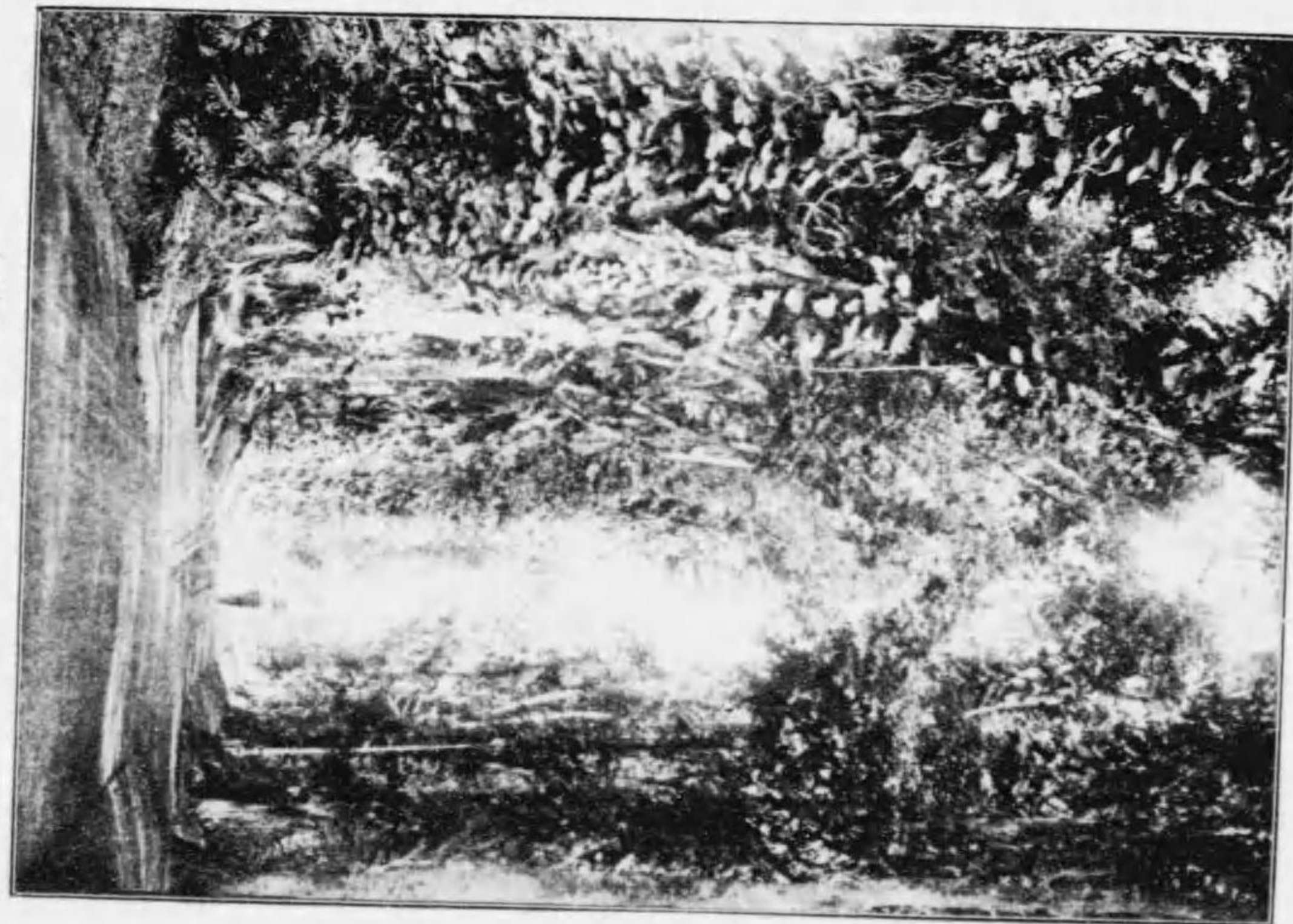


木並樹ーリナカ内園物植同

第十章 電柱、鐵道枕木、木道、棧橋、燐寸、製紙等ニ關スル木材利用ノ  
 狀況……………二  
 第十一章 木材市場ノ狀況……………  
 第十二章 結論……………



館物博グルゾンテイボ



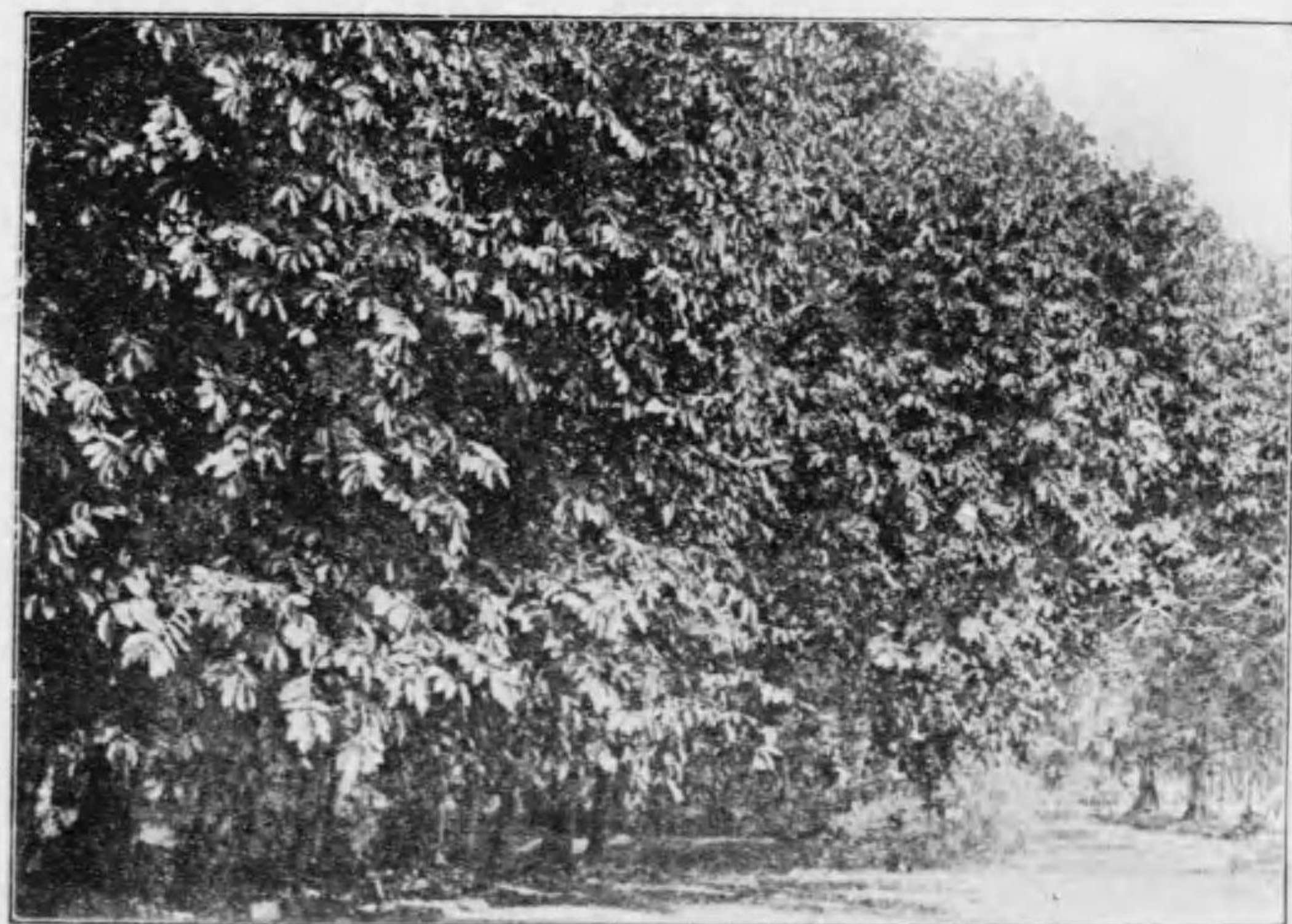
木並樹一リナカ内園物植同

第十章 電柱、鐵道枕木、木道、棧橋、燐寸、製紙等ニ關スル木材利用ノ  
 狀況……………

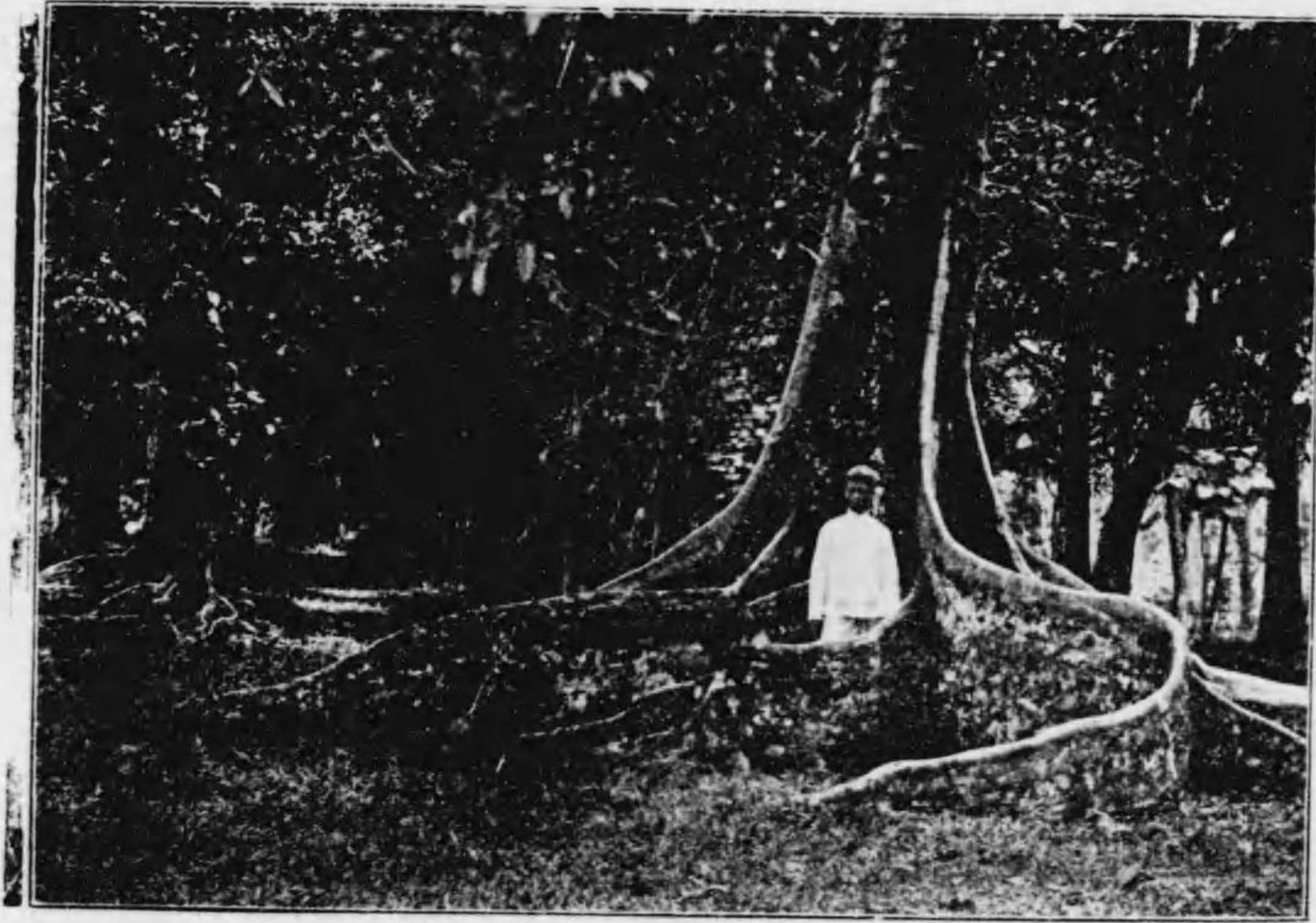
第十一章 木材市場ノ狀況……………

第十二章 結 論……………

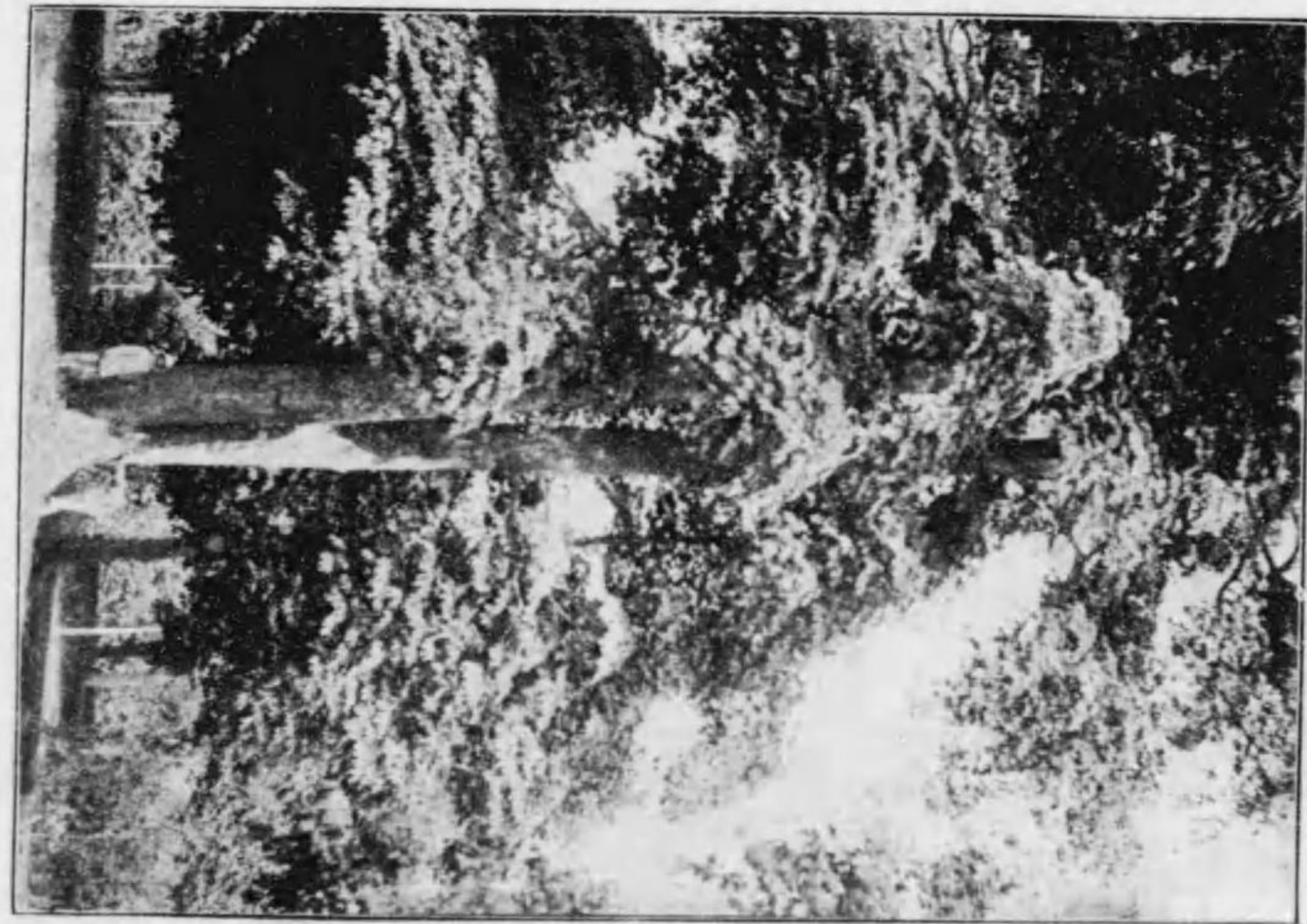
樹花菓無



木 鐵

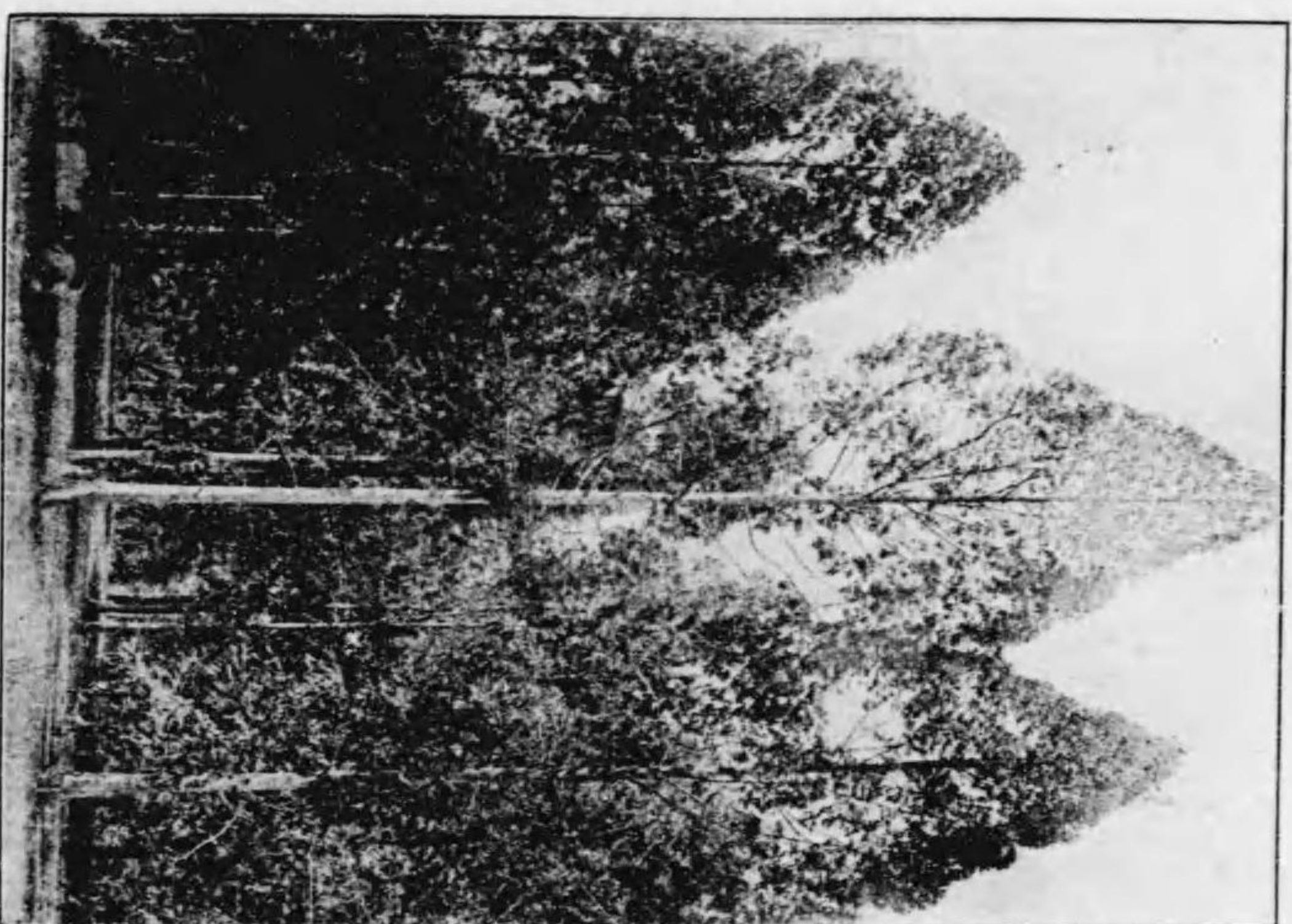


樹 - ニマグヱウ

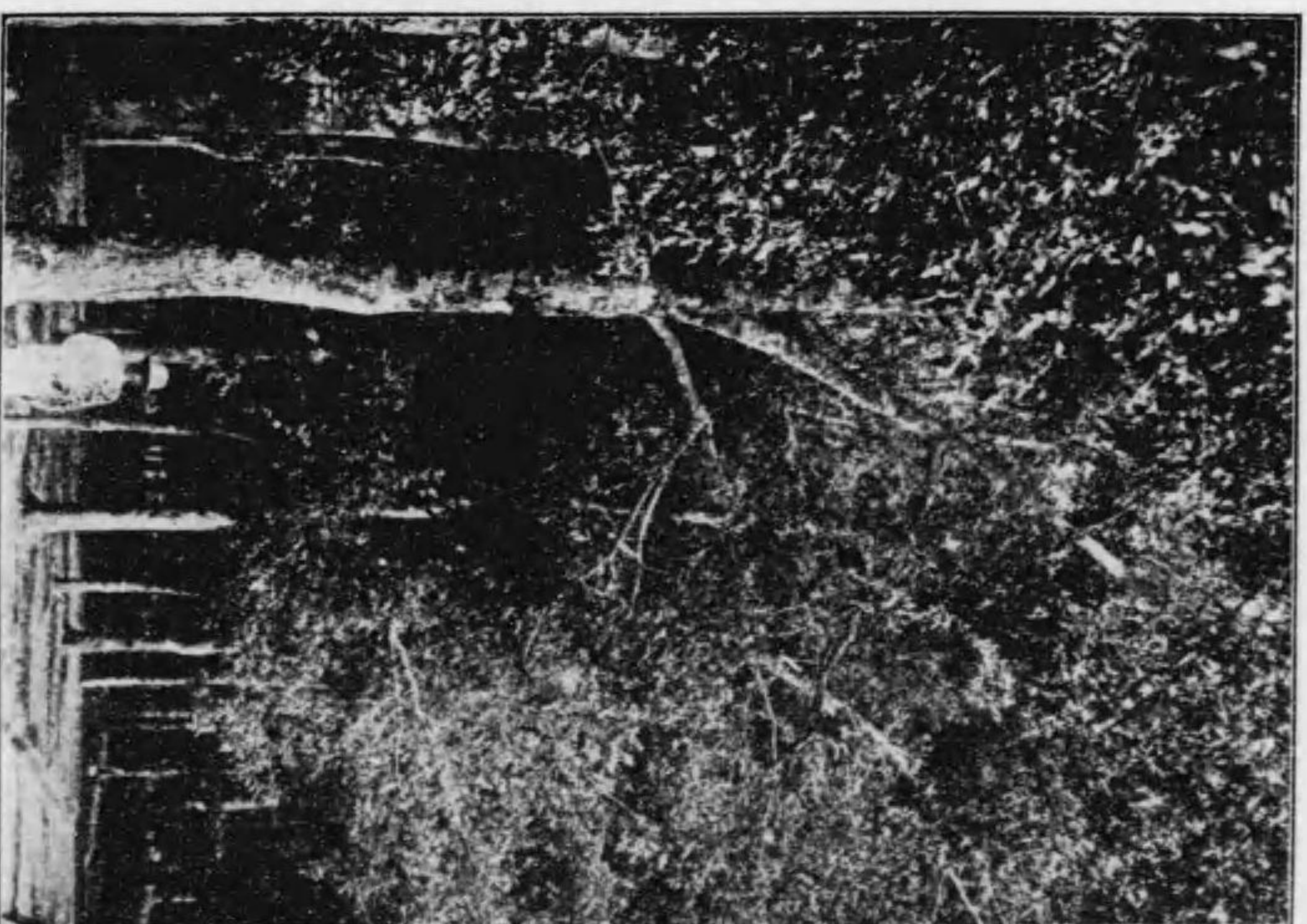


ニマグヱウ

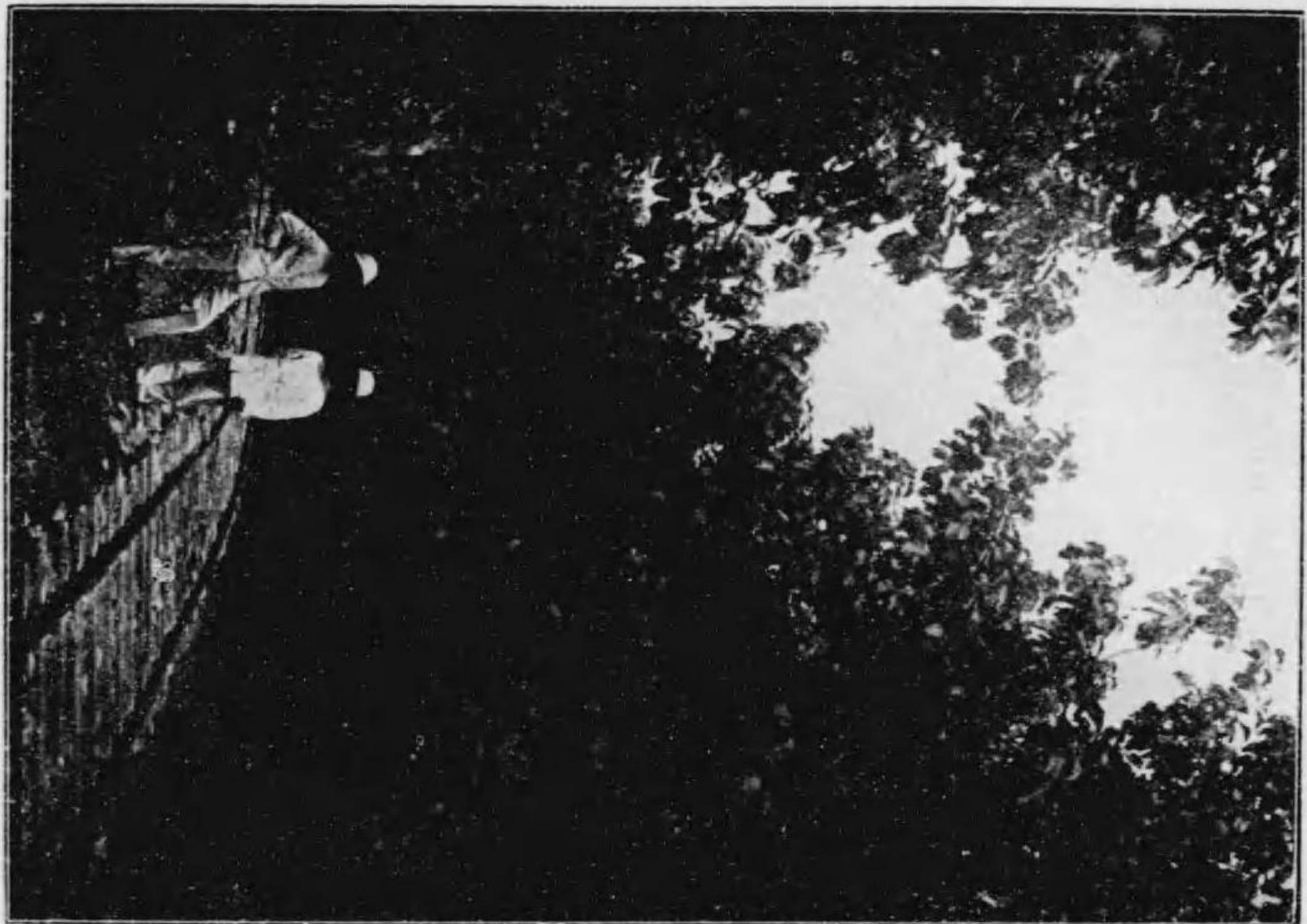




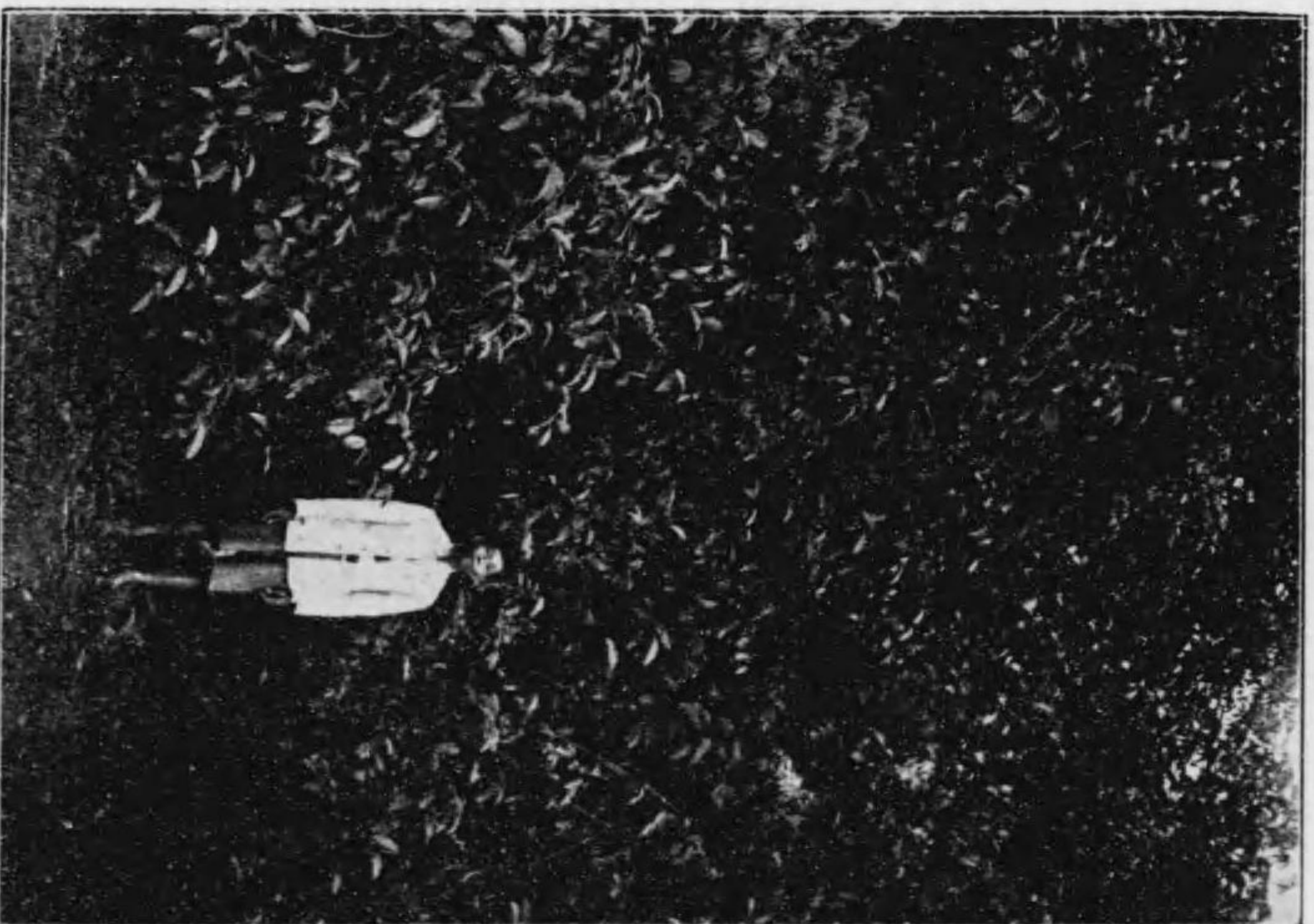
樹 腦 龍



樹 一 ニ ガ ホ ヲ

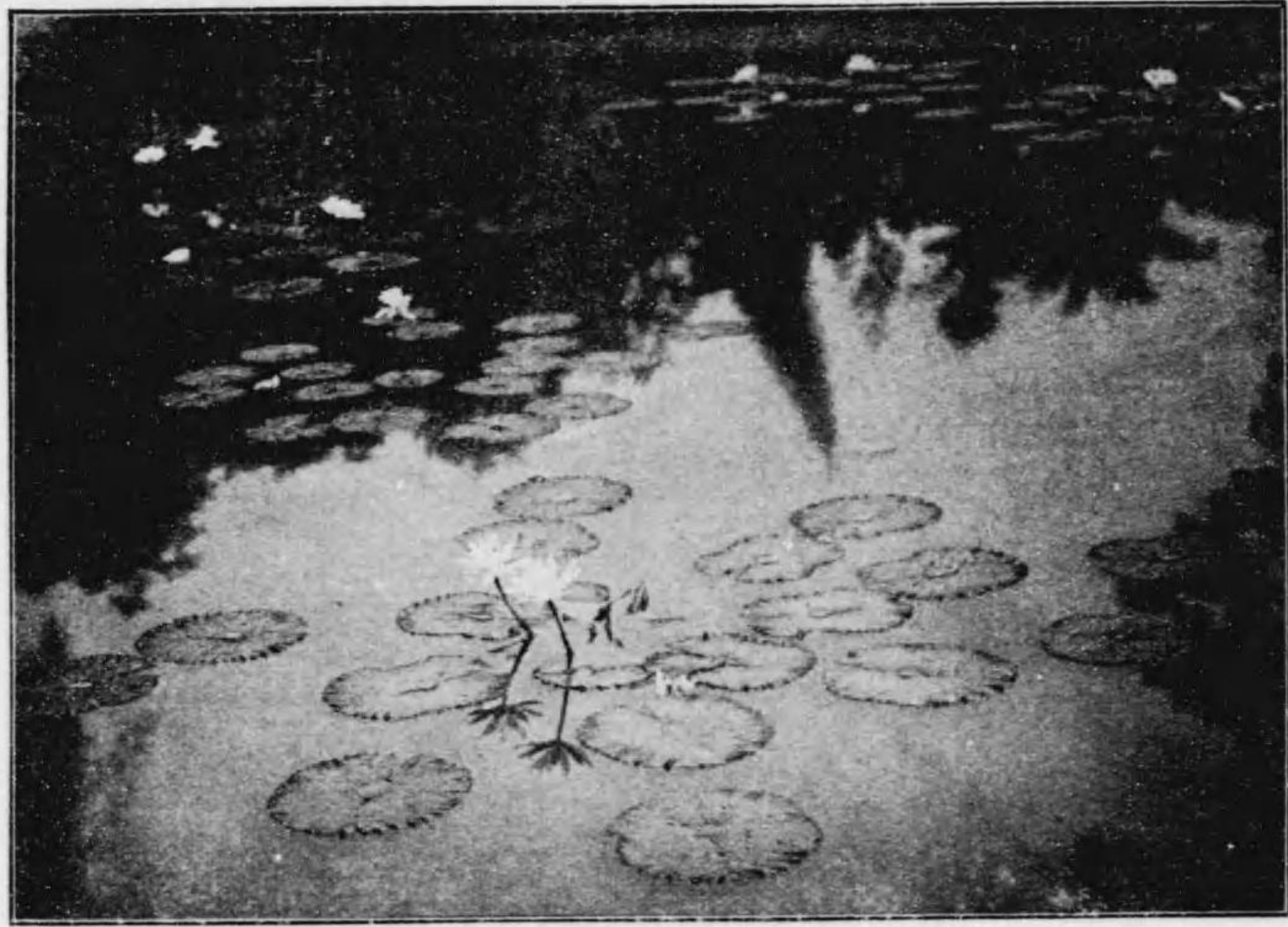


林ノ生年十ノ一チ

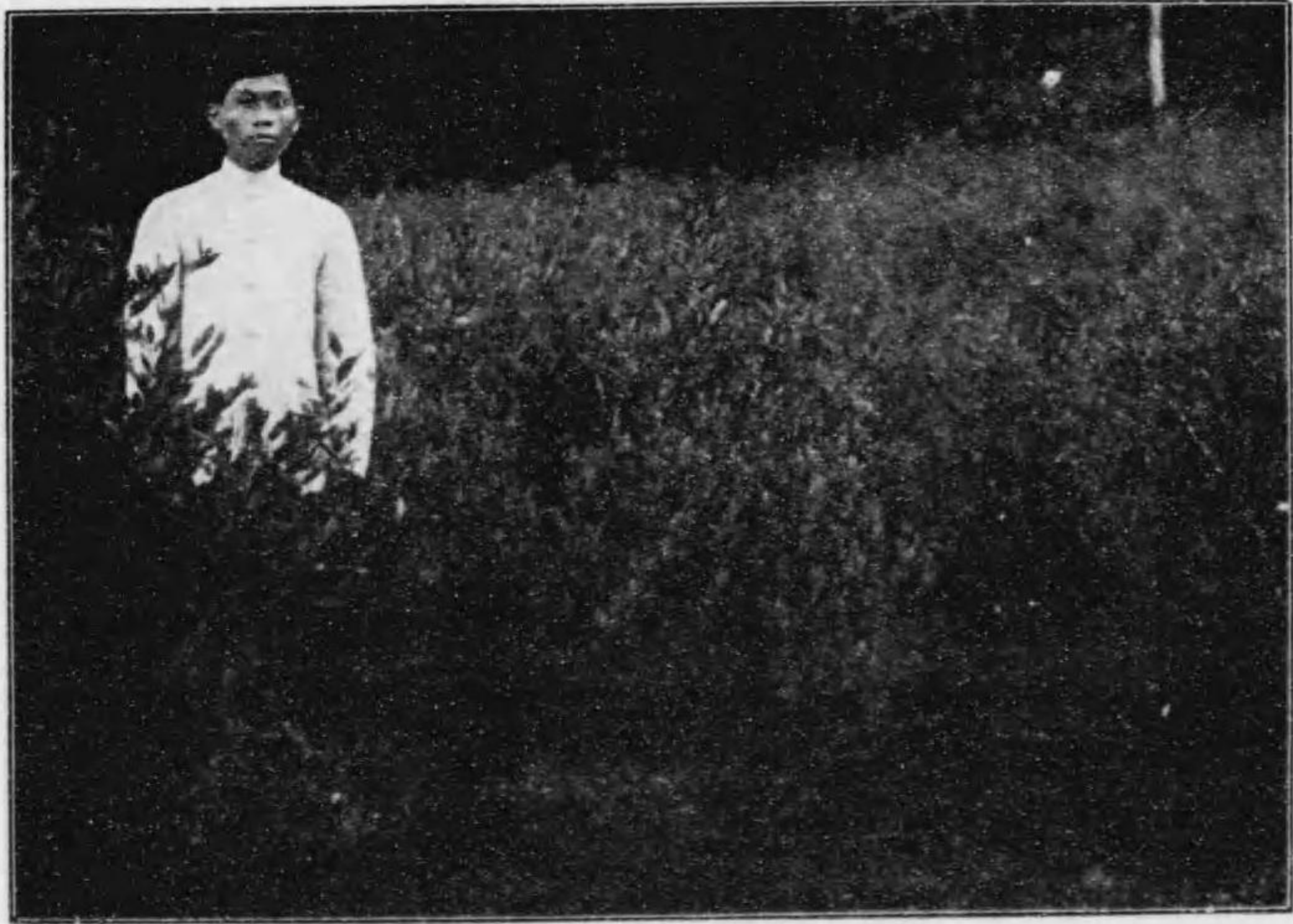


郷ノイニシルル

蓮  
鬼



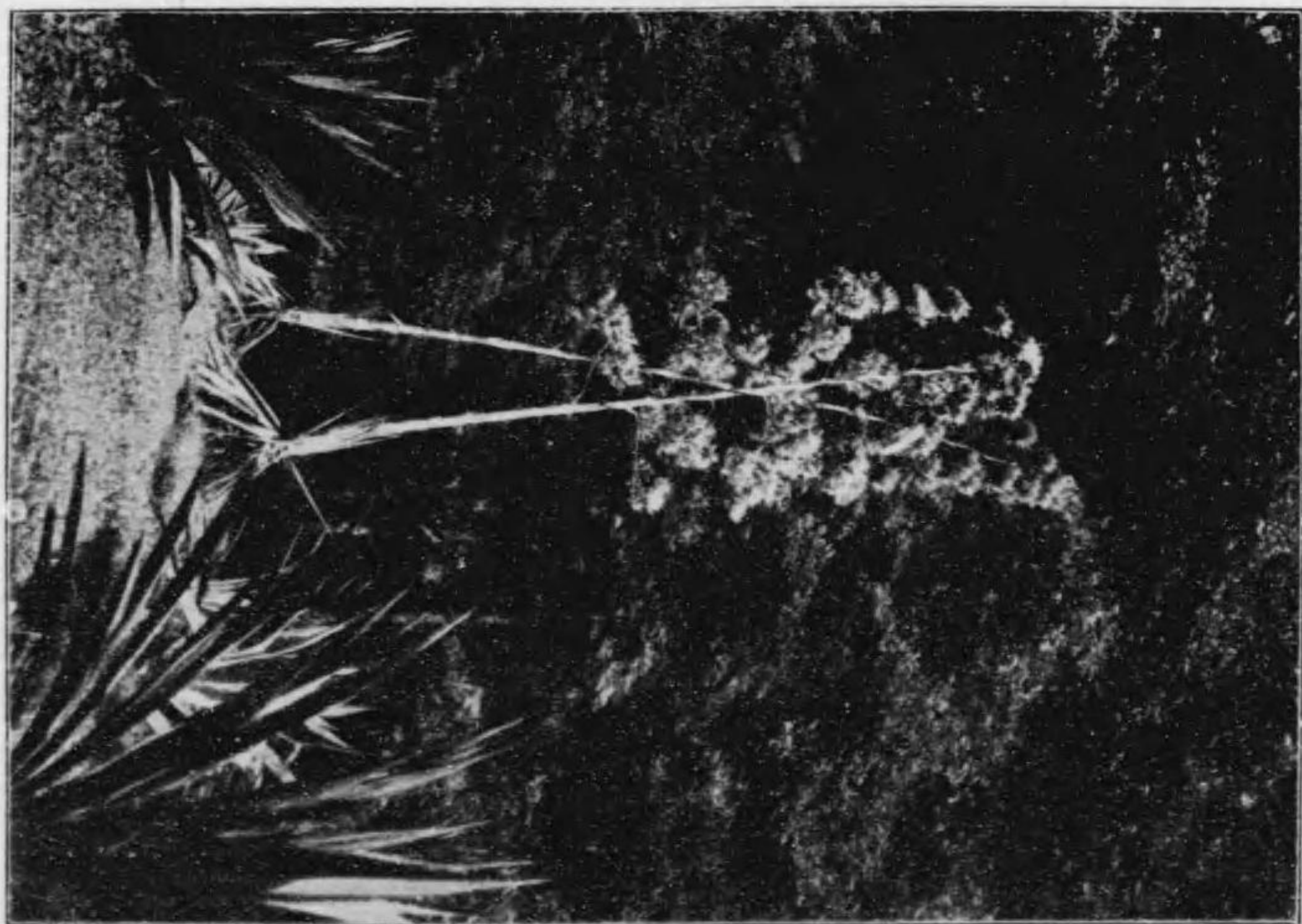
蓮 池



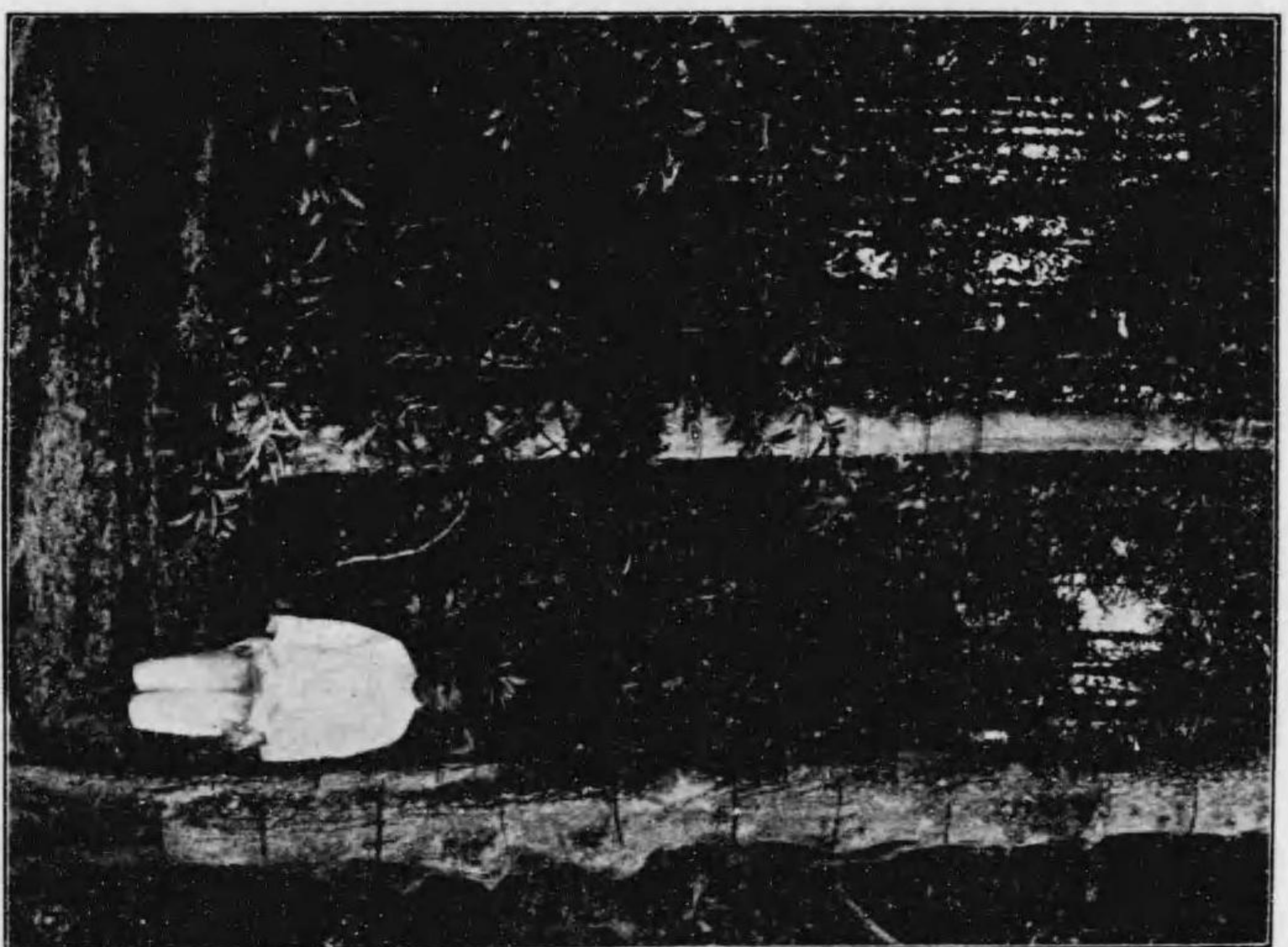
樹 カ コ



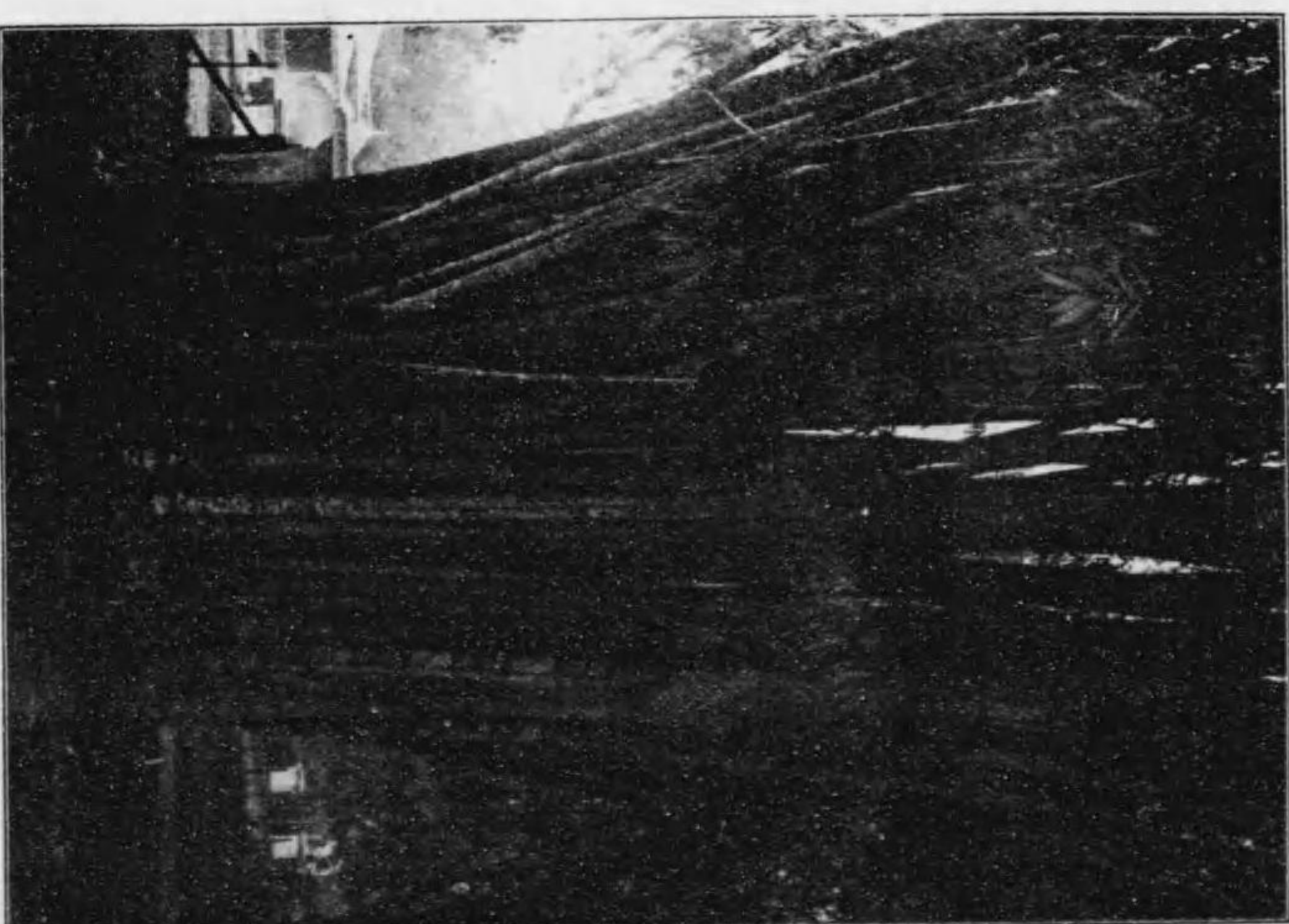
ラ ニ ッ ヅ



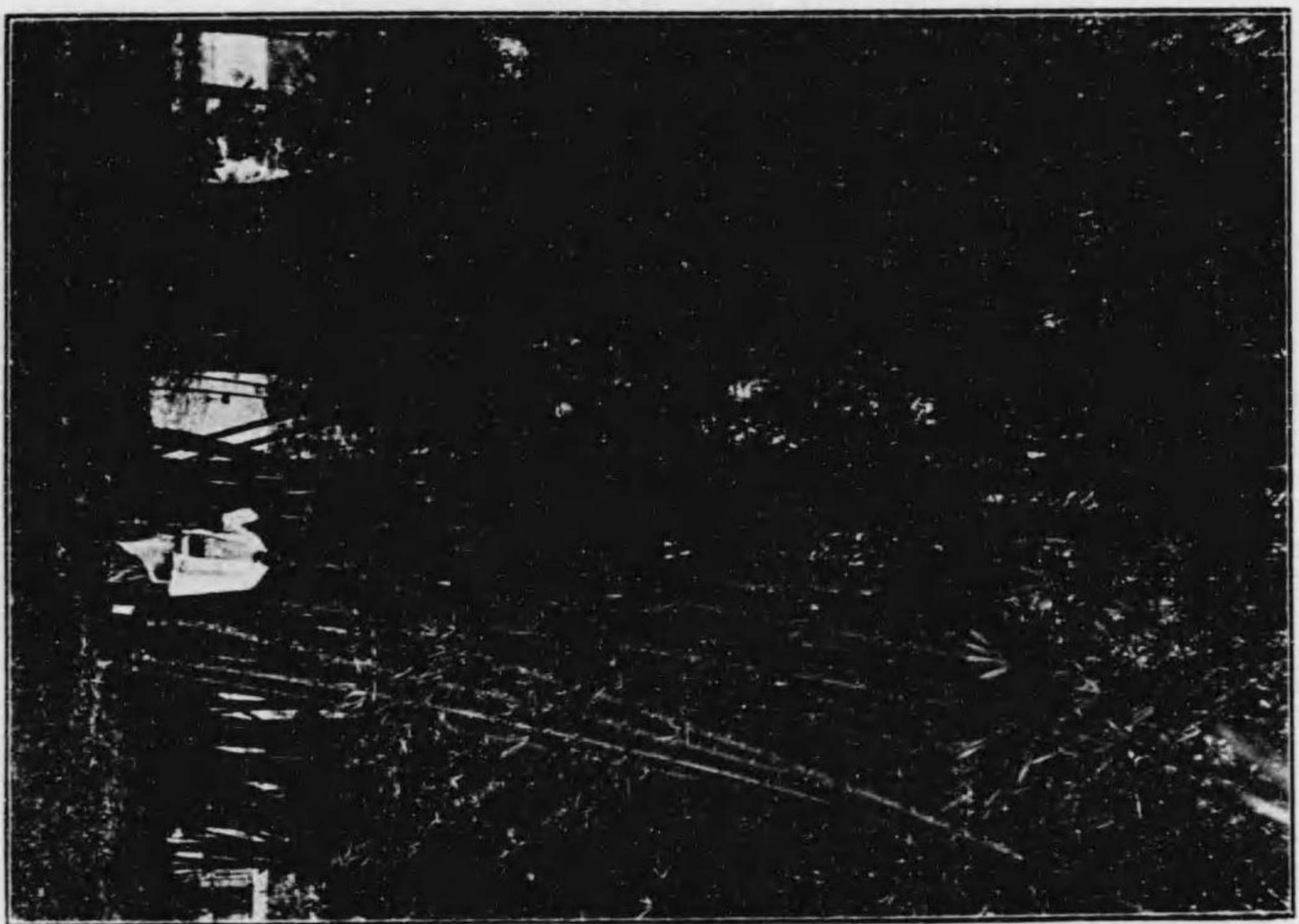
ハ  
サ  
シ



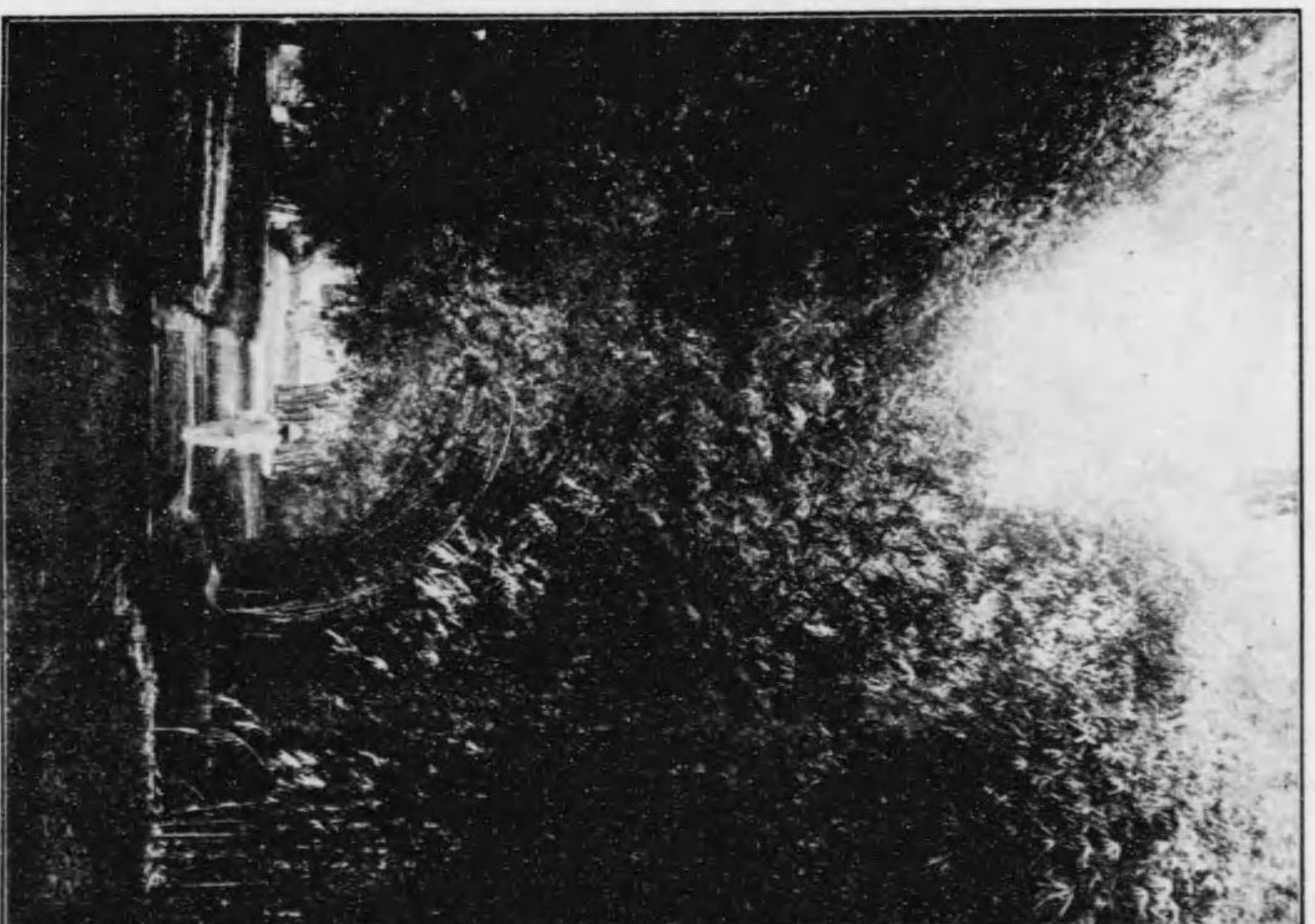
昔カールムタダグ



スウェーデン、スウェーデン、スウェーデン



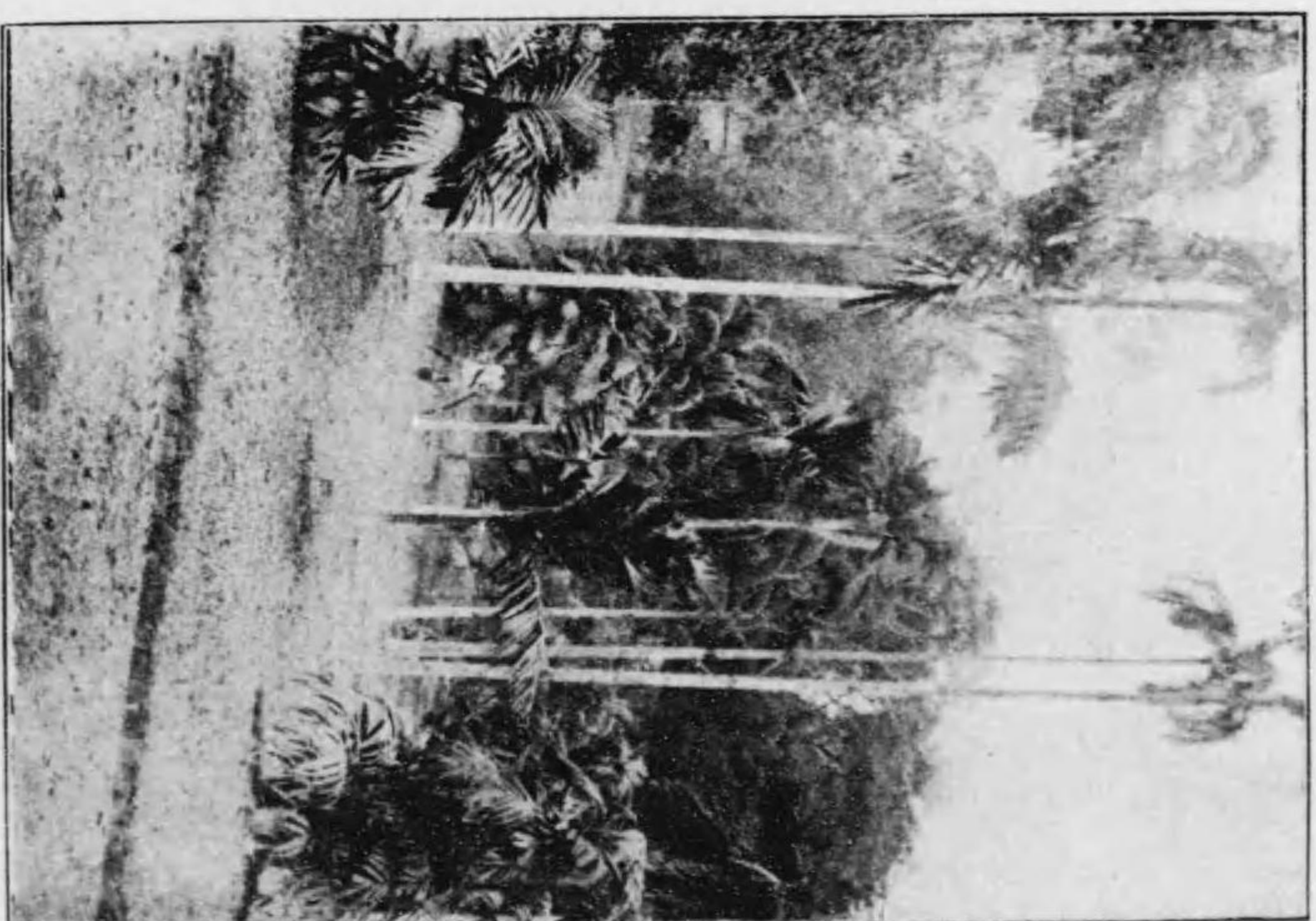
ラベスア、チロクトシガキ



類 竹

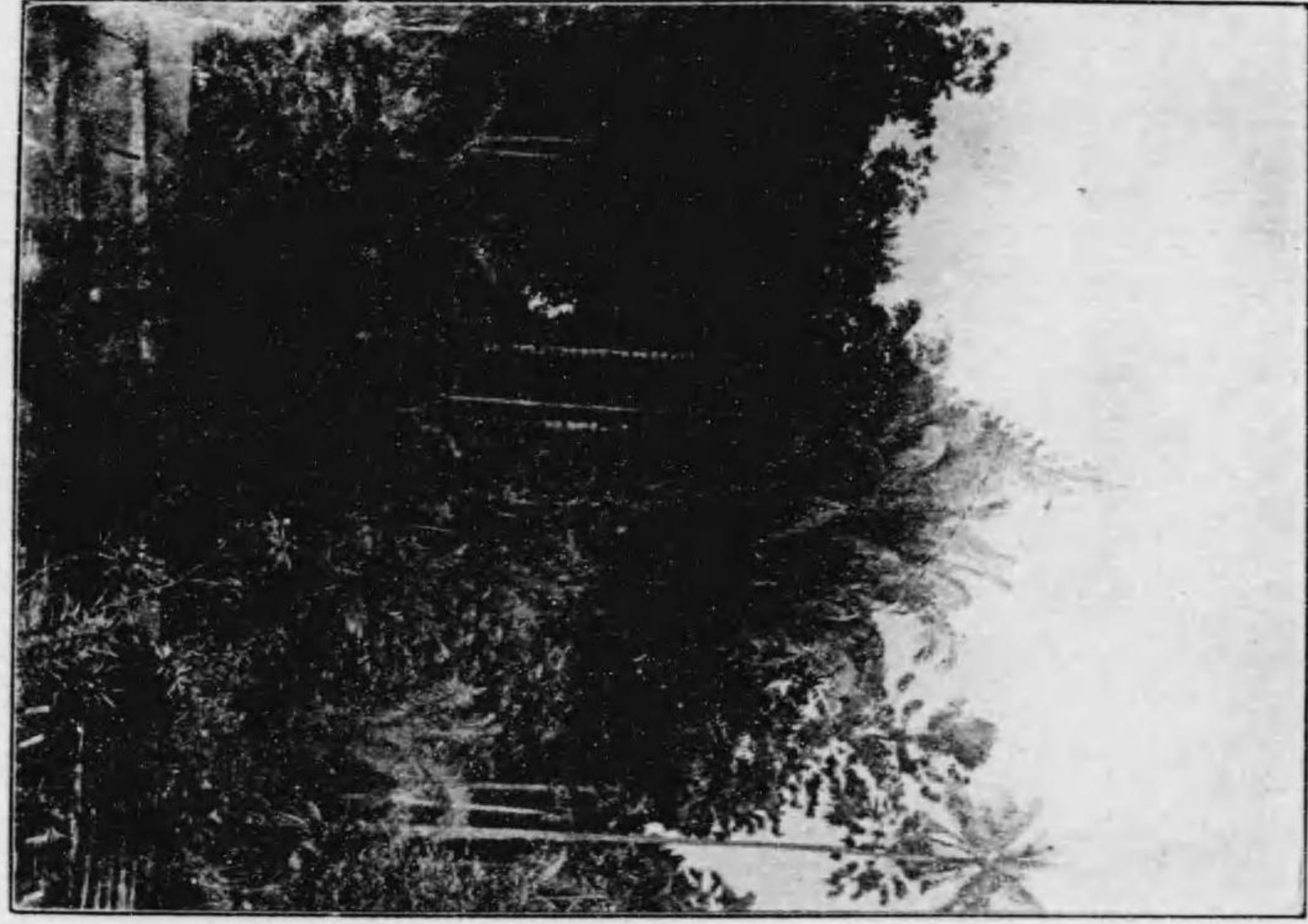


子 椰 シ ス ト イ



類 子 椰

類  
子  
椰



類  
子  
椰



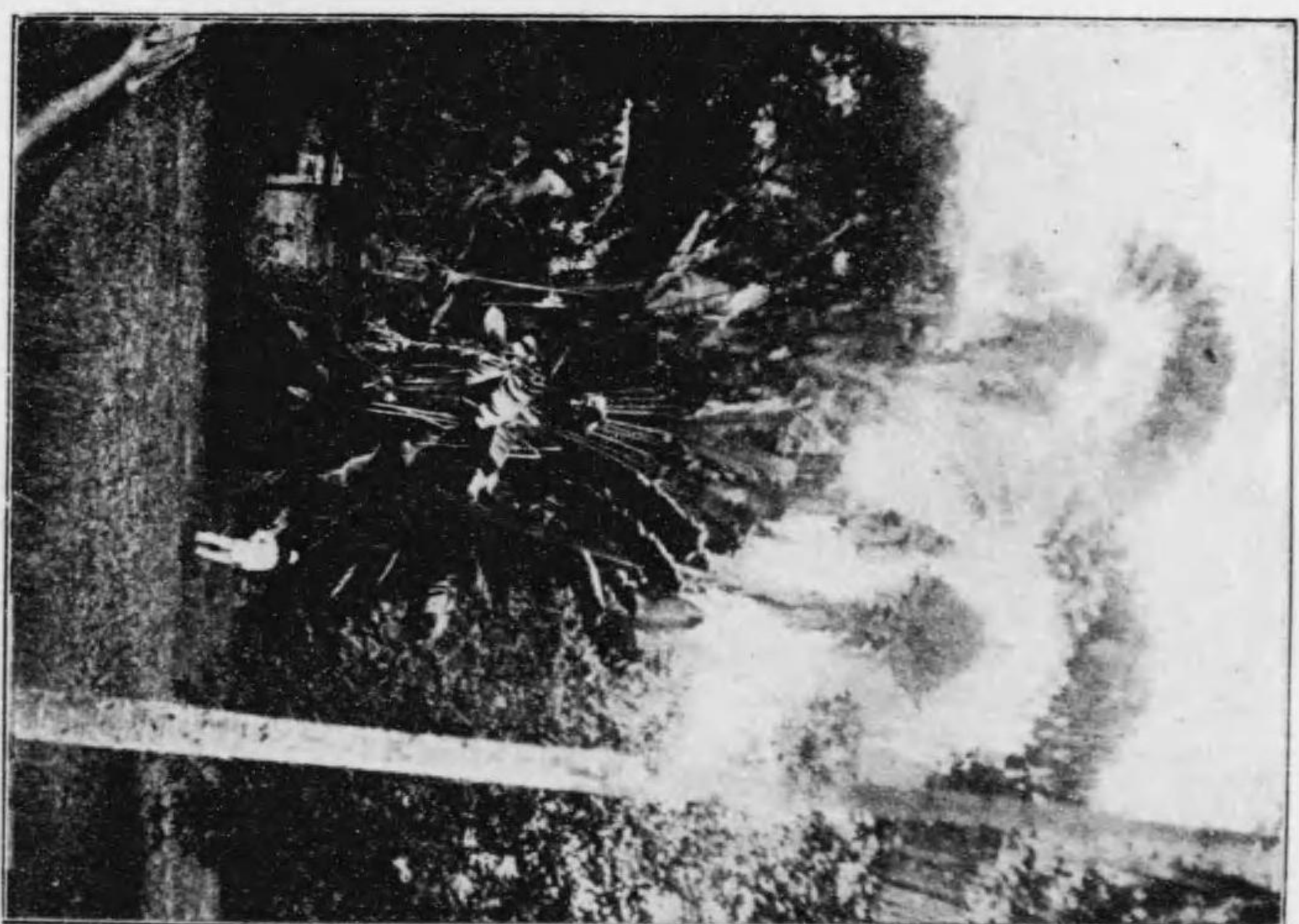
類  
子  
椰



藤

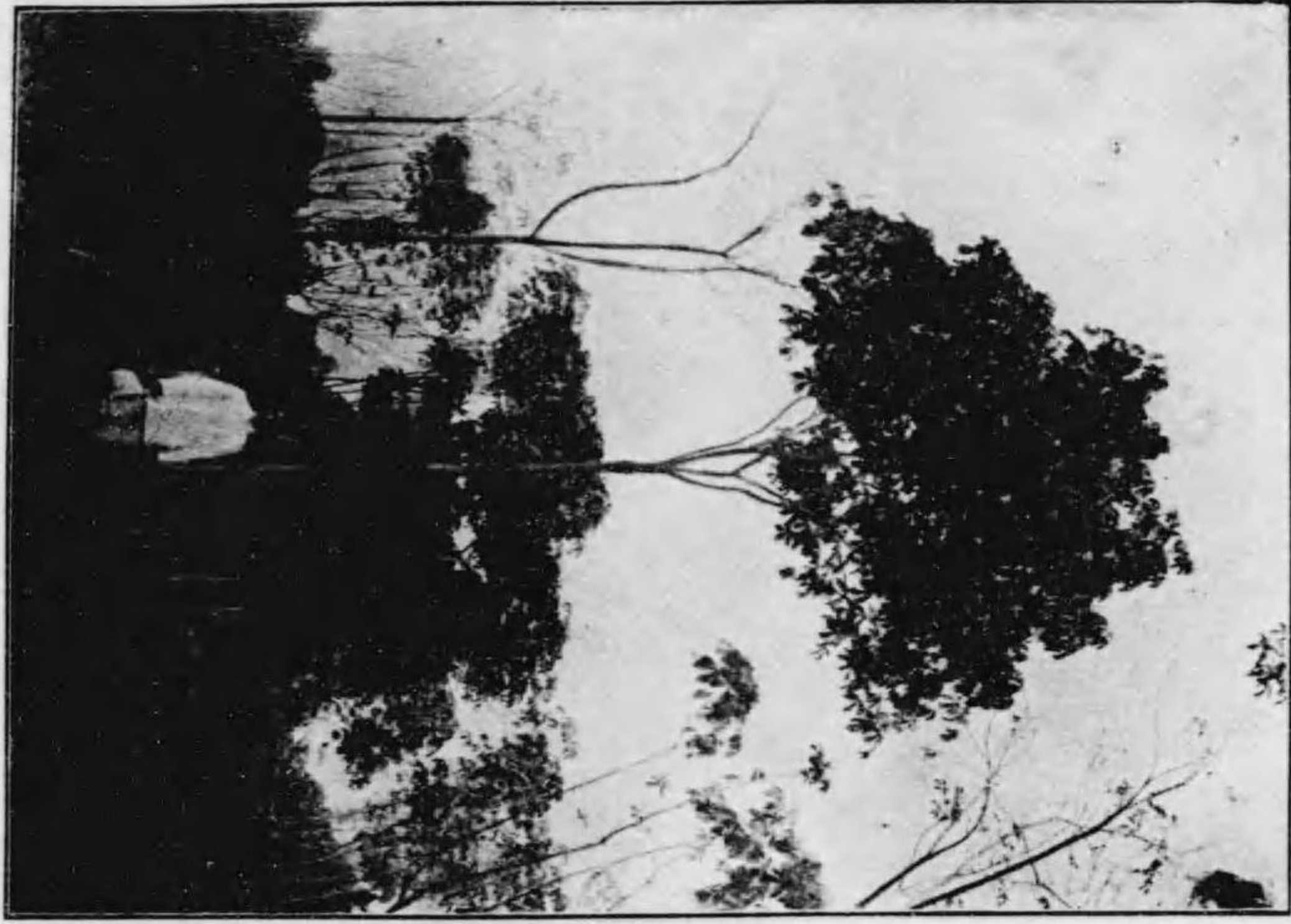


木ノ嶋

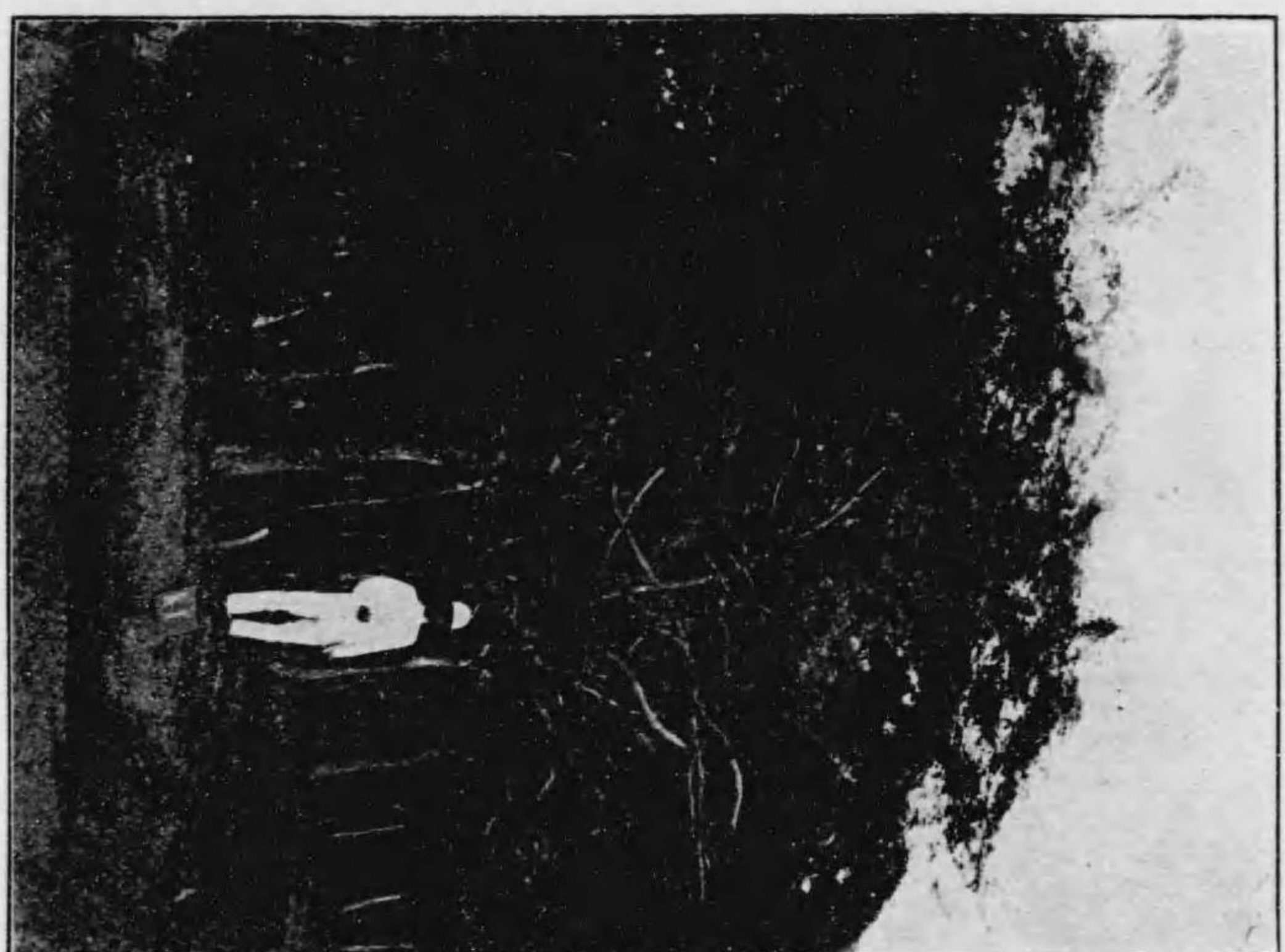


蕉芭扇

ア  
エ  
シ  
ア  
サ



木 儼 ラ マ サ ラ



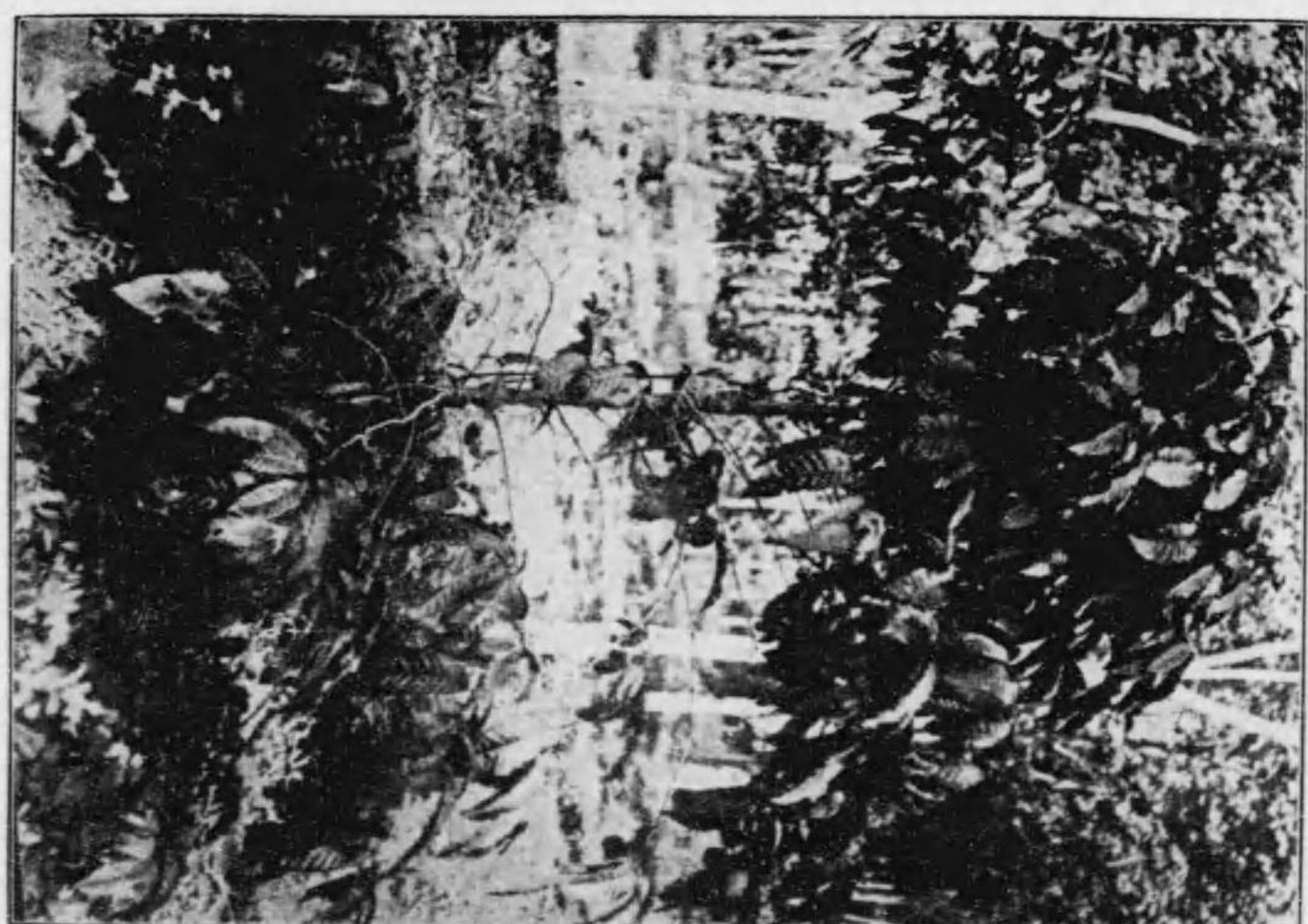
木ノ豆ソコニタ



護カリンア



マユノ、アノノ、アノノ

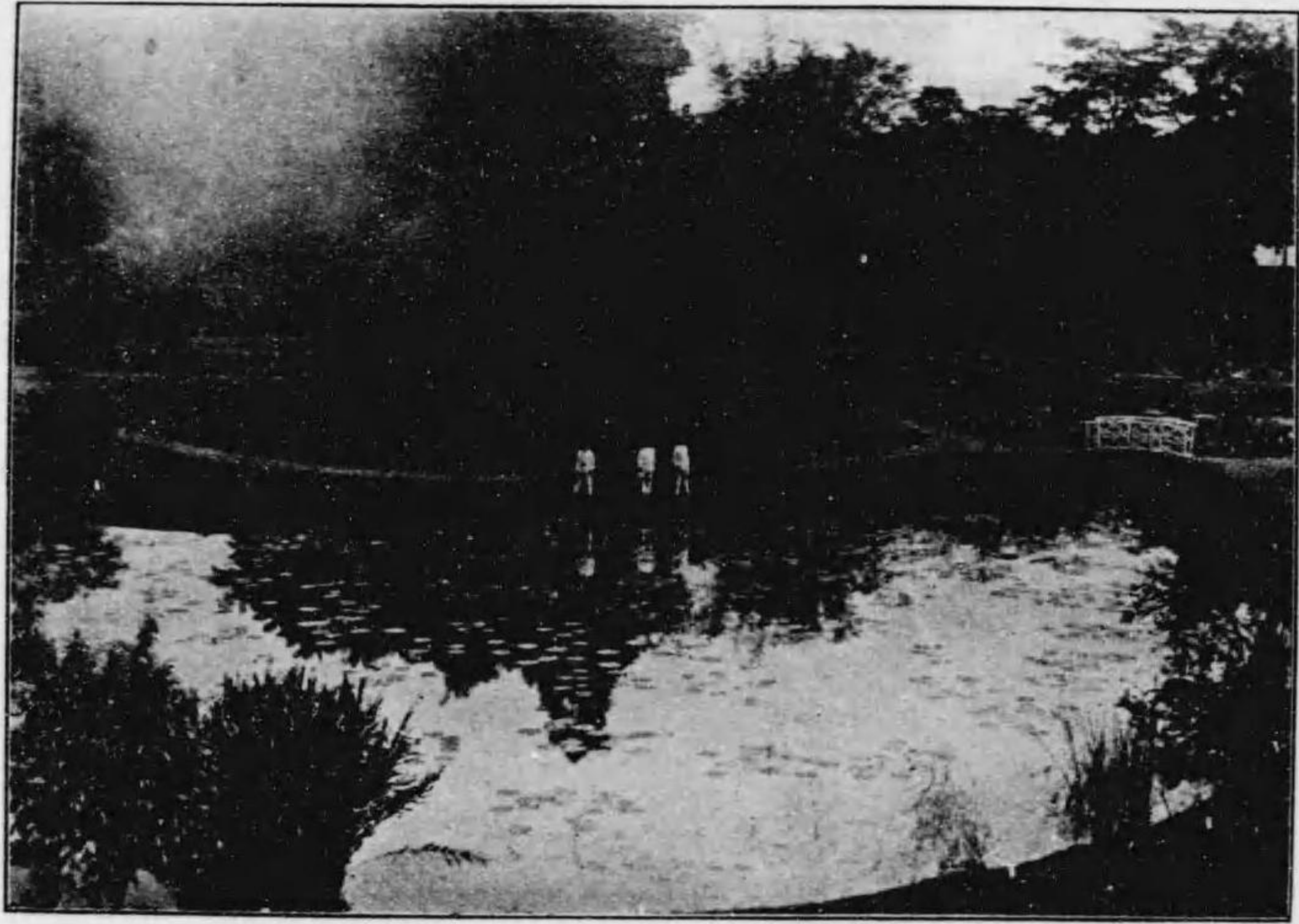


班加タスノ

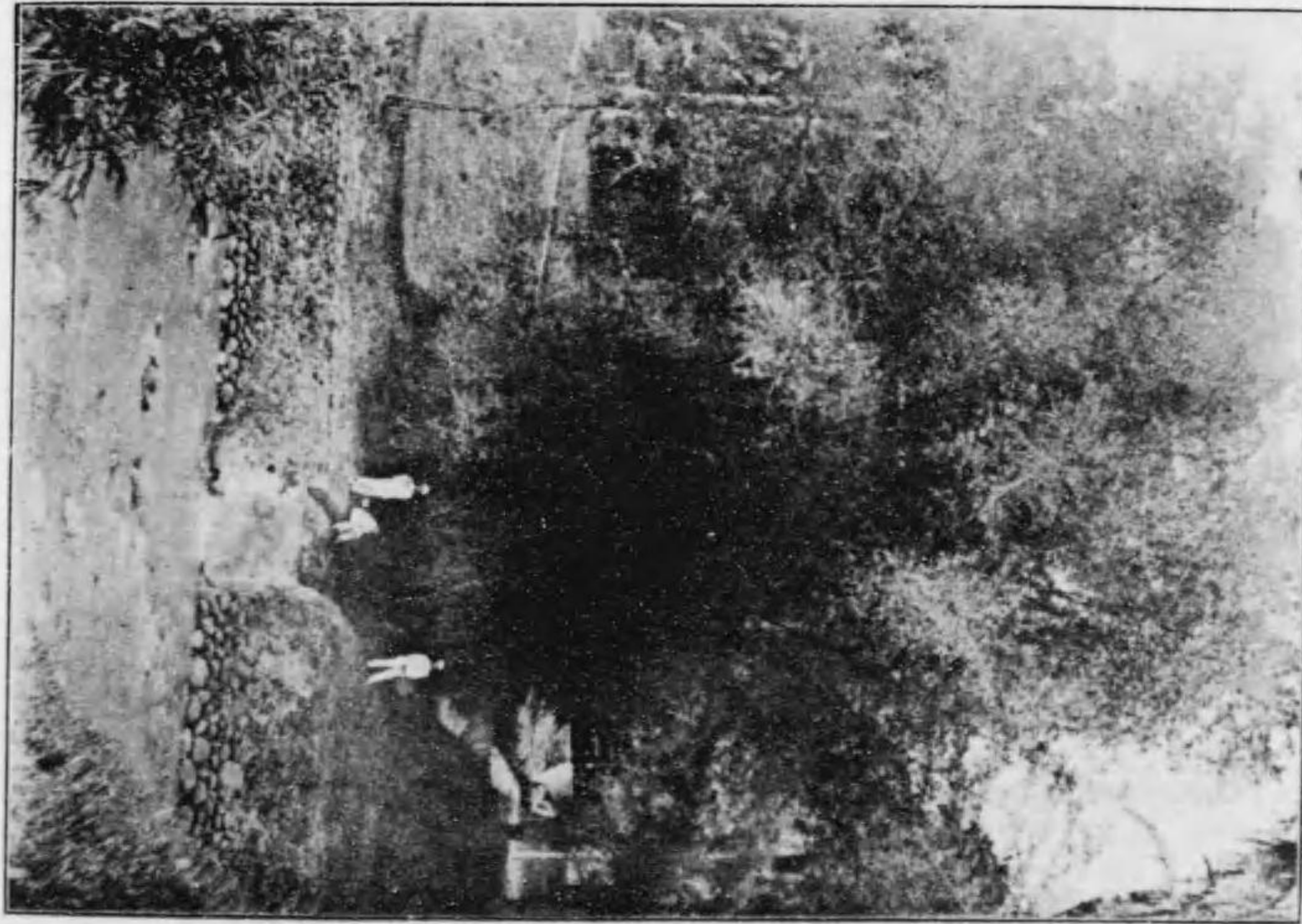
班加蘭



榕 樹



景ノ邊池内園物植グロソステイボ



類

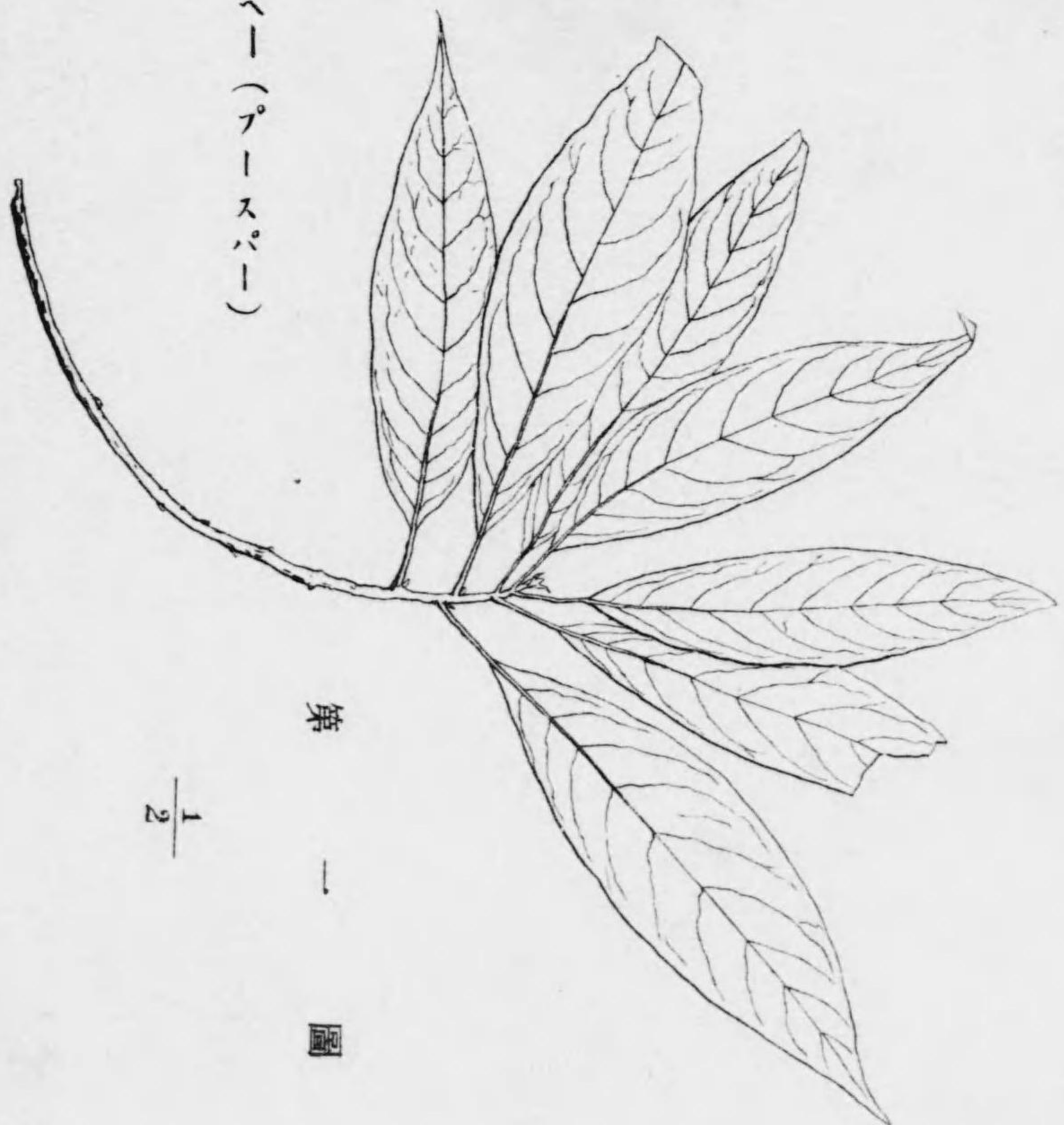
竹



橋假道林內林森



シマノロシヘー(プースパー)

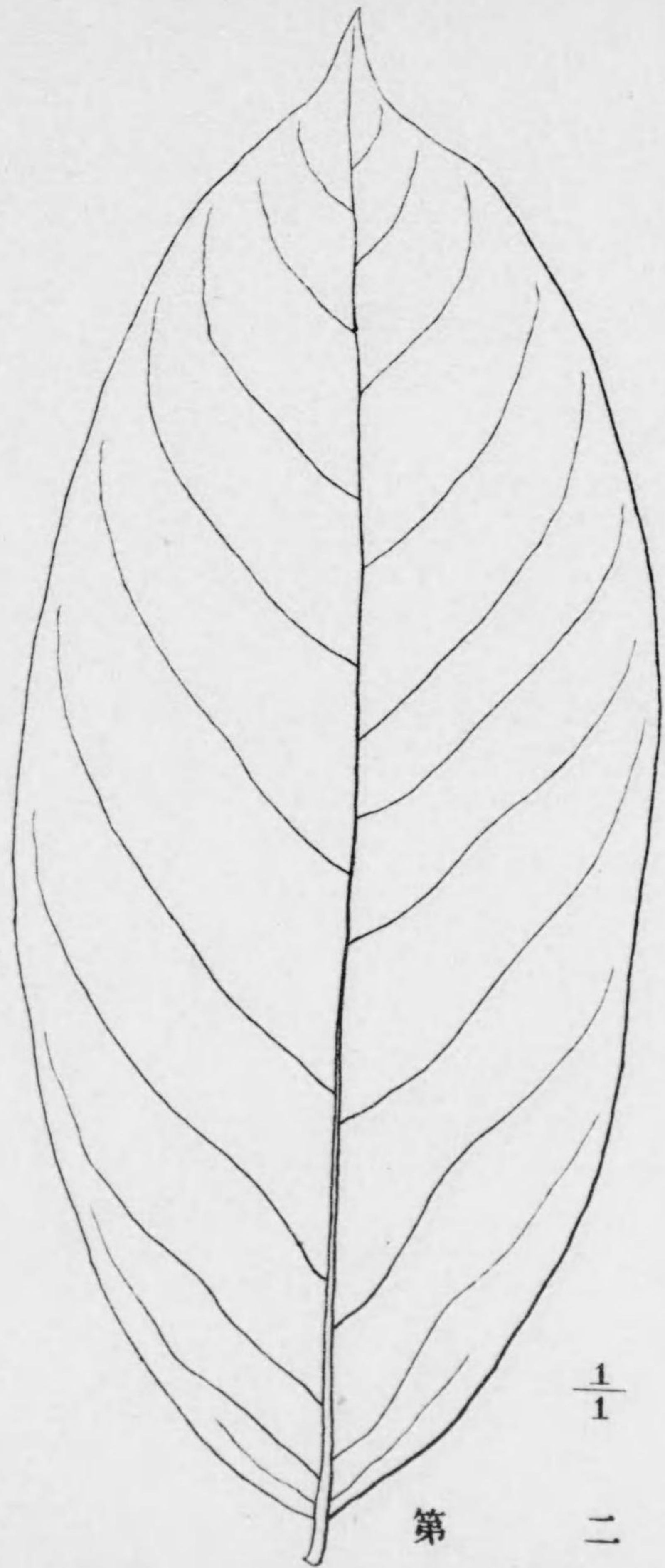


第一圖

$\frac{1}{2}$

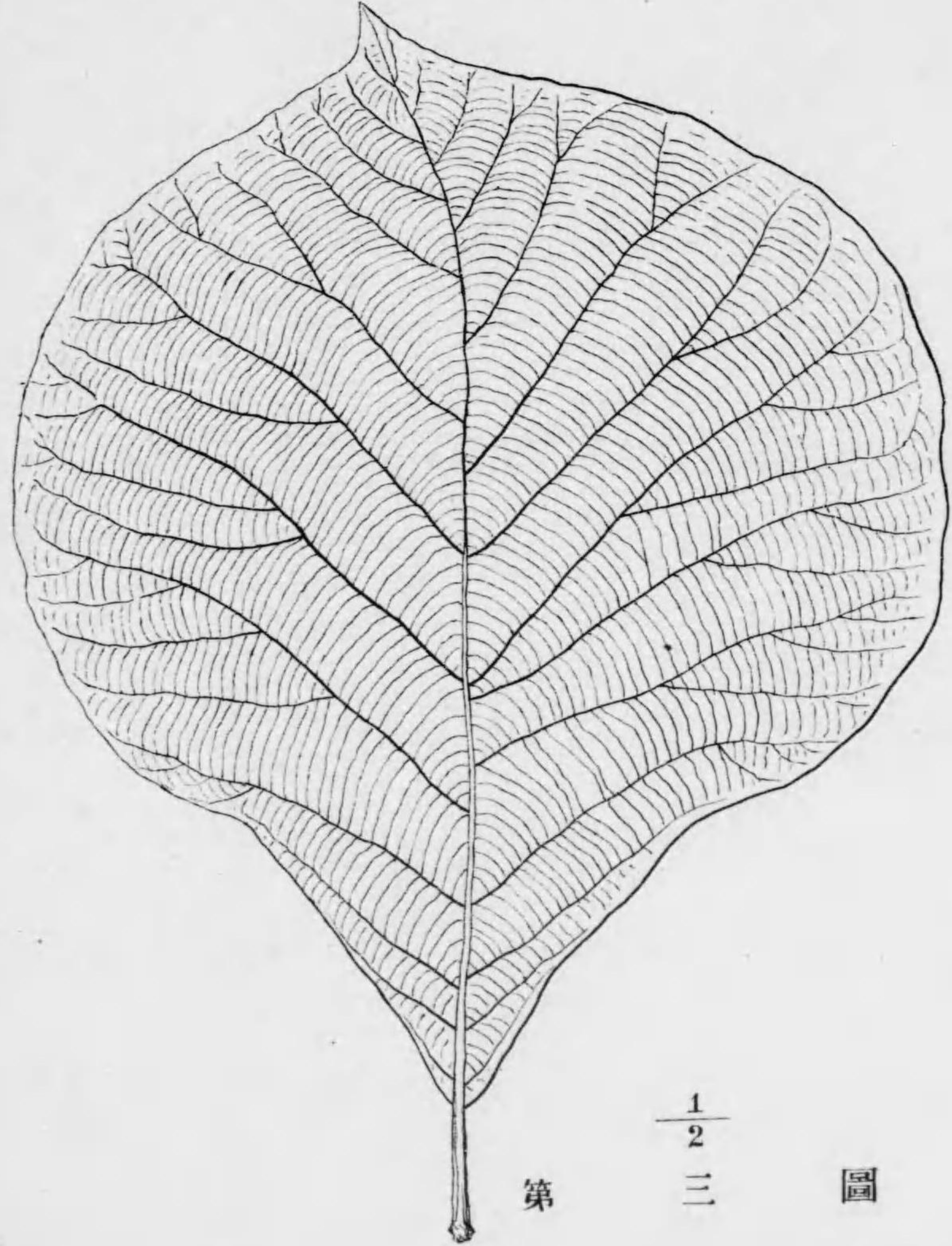
3

ユーシデロキシロン、ツワゲリー（鐵木）



第 二 圖  $\frac{1}{1}$

チ  
ー  
ク

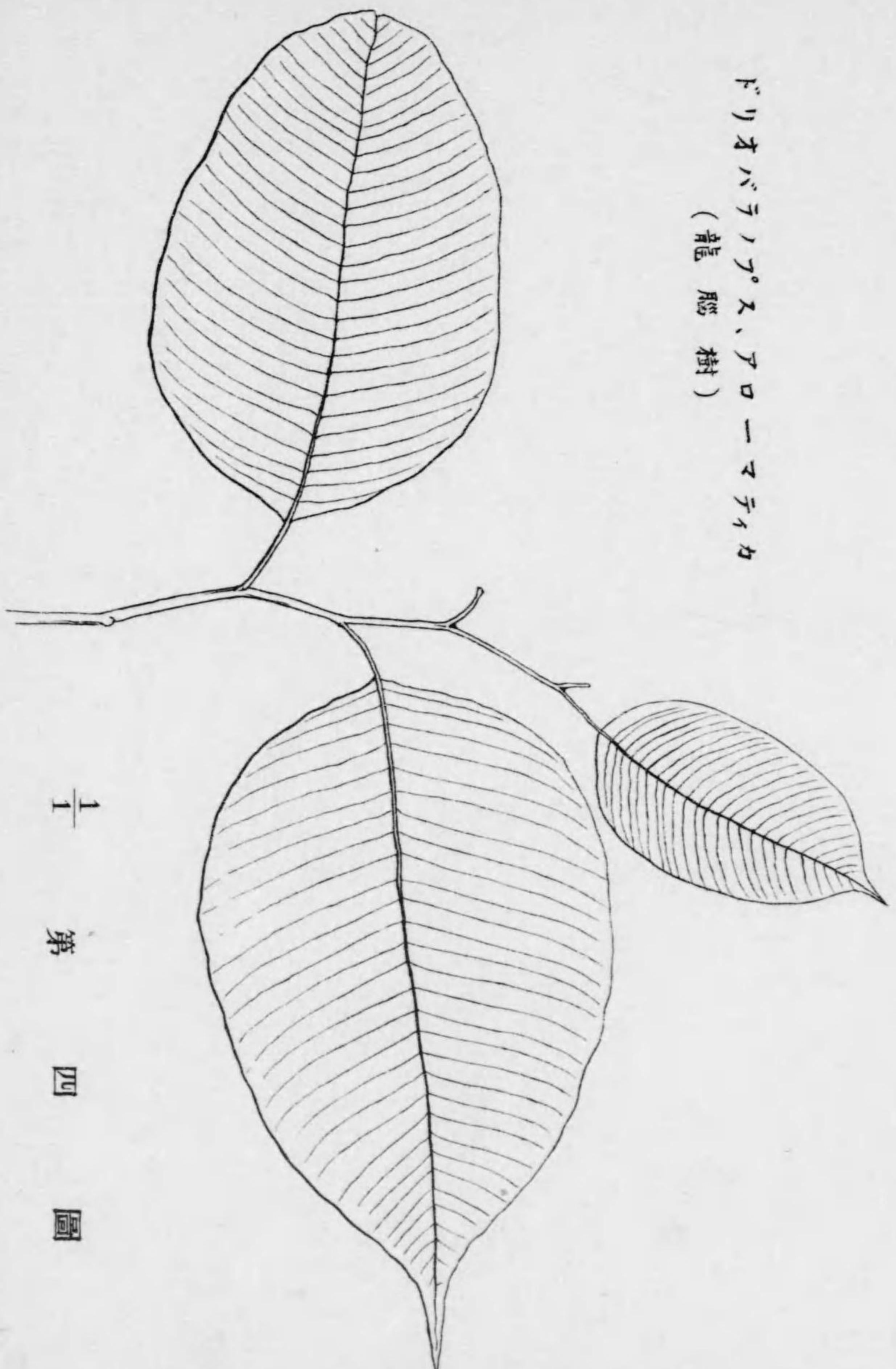


第

$\frac{1}{2}$   
三

圖

ドリオバラノブス、アローマテカ  
(龍腦樹)



第十四圖

アルテイギヤ、エキセルサ(テサマ)



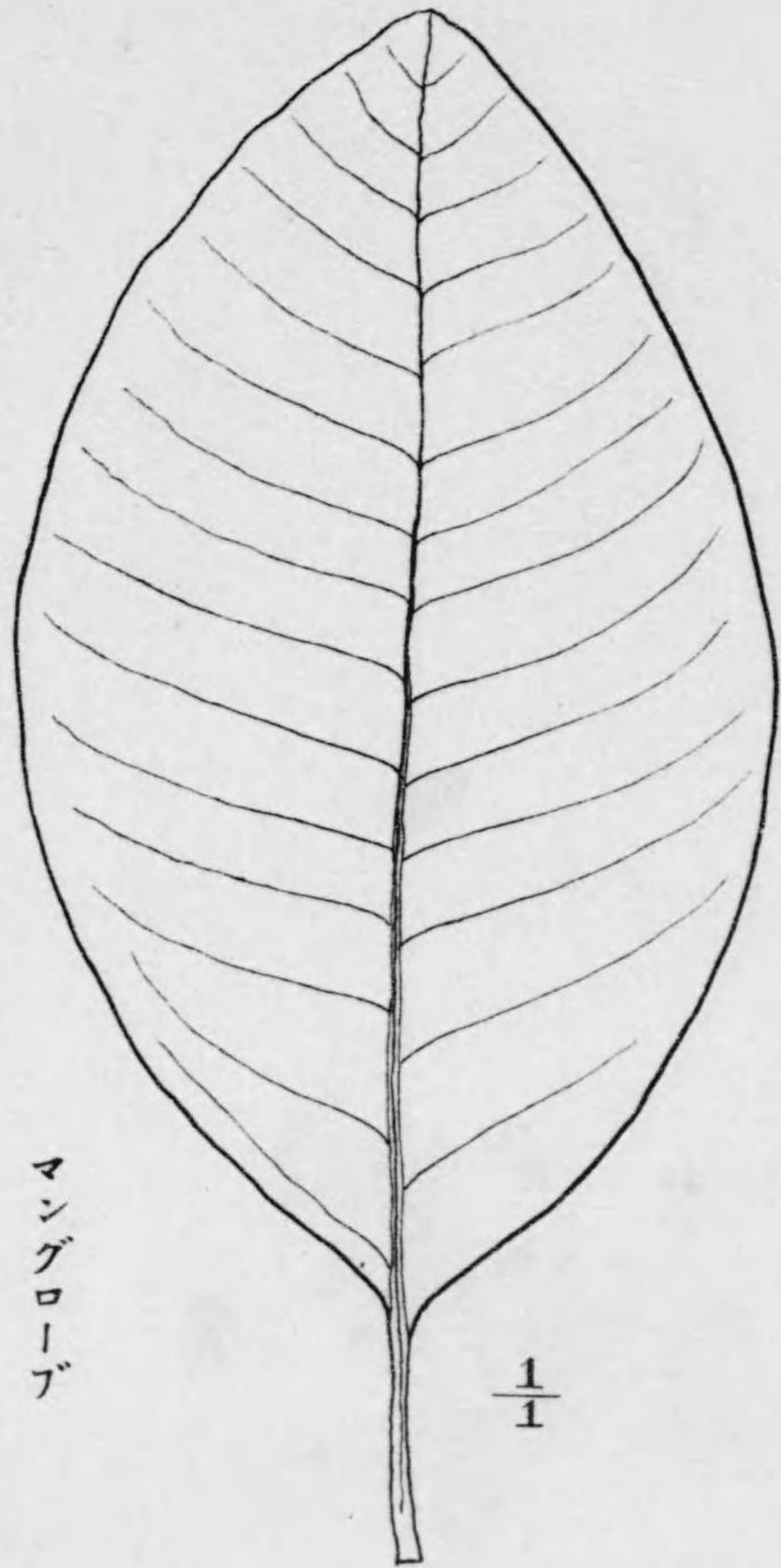
第五圖

$\frac{1}{1}$



マングローブ実

$\frac{1}{2}$



マングローブ

$\frac{1}{1}$

第六圖

# 南洋諸島林況視察復命書

## 第一章 總論

南洋諸島ハ東經九十五度ヨリ百五十一度北緯六度ヨリ南緯十一度ノ間ニ據ル所謂熱帶圈內ニアル五大島及之レニ屬スル幾多ノ小島嶼ノ總稱ニシテ最西ニ位スルモノヲスマトラ島ト云ヒ其南東ニ長ク横ハルモノヲ瓜哇島ト云ヒ瓜哇島ノ北部ニ種ノ鼓腹スルカ如キ形ヲナスモノヲボルネオ島ト云ヒ其東ニ怪物ノ立チ舞フカ如キ形ヲナセルモノヲセレベス島ト云ヒ最東ニ位シ此怪物ヲ食ハント欲シ大ナル口ヲ開キタル臘肭臍ニ似タルモノヲユギニヤ島ト云フ此等五島ノ總面積ハ八十六萬八千九百九方哩ナルモボルネオ島ノ東北部英領ニ屬スルモノ三萬千六百六方哩及ニユギニヤノ東端部獨領ニ屬スルモノ九萬九千九百方哩ト英領ニ屬スルモノ九萬五百四十方哩トヲ除キタル六十四萬八千六百六十三方哩ハ盡ク荷蘭國領ナリトス而シテ之レヲ我日本帝國ノ總面積ニ比スレハ樺太ヲ除キタル日本帝國領土ノ約四倍ニ當リ又之レヲ荷蘭本國ノ面積ニ比スレハ實ニ五十倍ノ大サトナル

蘭領各島ノ面積ニ付テ述フルトキハ瓜哇島ハ其屬島マドウヲ合シテ五萬五千五百五十四方哩、スマトラ島ハ十六萬千六百十二方哩、ボルネオ島ハ二十一萬二千七百三十八方哩、セレベス島ハ七萬千四百七十方哩、ニユギニヤ島ハ十五萬千七百八十九方哩ナリ故ニ瓜哇ハ日本ノ約三分ノ一ノ面積ニ當リスマトラハ日本ト略同一ノ面積ヲ有スルモノト謂フヘシ

此ノ如ク擴大ナル南洋諸島ノ大部分ハ蘭領ニ屬スルヲ以テ荷蘭語又ハ土人ノ間ニ用フルマレー語ヲ解セサレハ孰レノ調査モ充分ニ之レヲ遂行スルコト難シ森林ノ調査ノ如キハ殊ニ其困難ヲ感ス杜選ノ議ナキヲ保セサルハ遺憾措ク能ハサル所ナリ

人口ニ付テ述フルトキハ瓜哇島ハ三千九萬八千三人ヲ有シ内歐洲人六萬四千九百十七人、支那人二十九萬五千九百九十

三人、亞刺比亞人二萬九千四百八十八人其他ノ東洋人二千八百四十二人、土人二千九百七十一萬五千九百八十八人ナリ其他ノ東洋人中ニ日本人約三百人ヲ含ム

スマトラ島ハ四百二萬九千五百三人、ボルネオ島ハ百二十三萬七千六百五十五人、セレベス島ハ八十五萬九千九百五人ニユキニキ島ハ二十萬人ヲ有ス

故ニ一平方哩内ノ人口ハ瓜哇島五百九十五人（我日本ハ一平方哩ニ付二百九十人）スマトラ島二十五人、ボルネオ島六人、セレベス島十二人、ニユキニヤ島一人ニシテ瓜哇島ヲ除キテハ人口頗ル稀薄ナリト謂フヘシ

此ノ如ク瓜哇島ハ其面積最少ナルニ拘ハラズ人口最夥多ニシテ從テ開明ノ度モ他ノ諸島ニ比シ著シク進リ其他ノ諸島ニ至リテハ人口稀少ニシテ只海岸樞要ノ地ノミ稍稠密ナリト雖トモ其内部ニ入りテハ全ク野蠻ノ状態ニシテ獐犷ナル土人林中ノ各所ニ割據シ部落間ノ鬭爭今ニ絶ヘスト云フ

零スルニ南洋諸島ノ蘭領トナリタル歴史ハ古クシテ今ヨリ約三百年前ニアリ其以前ニ於テハ支那ニ朝貢シタル時代アリタリ蘭領トナリテ以後佛國革命ノ頃一時英國ノ占領ニ委ネタルコトアリタルモ兎ニ角荷蘭國カ南洋諸島ヲ領シタル以來支那及印度ニ依リテ已ニ多少文化ヲ齎ラサレタル瓜哇島ニ全力ヲ注キ交通ノ便ヲ開キ殖産ノ道ヲ講シ之レカ爲メニハ莫大ノ資金ヲ惜マス投下シタルノ結果今日ニ於テハ道路ノ構造完全ニシテ河川ノ改修已ニ其業成リ鐵道ハ島内ヲ縱斷シテ千三百四十九哩ニ達シ市街ノ道路ノ如キハ盡ク「アスファルト」ヲ以テ固メ市外田舎ノ道路ト雖トモ常ニ修理ヲ絶タズ殊ニ排水ニ注意スルカ故ニ雨後路上ニ滯水ヲ見ルコトナシ河川ノ改修ニ至リテハ亦最モ能ク意ヲ用ヒ勾配強キ箇所ハ必ス「セメント」ヲ以テ兩岸及河底ヲ固メ槽狀トナス之レ只ニ大ナル河川ノミナラス僅カニ三尺ノ川流ト雖モ此構造ヲ用フバタビヤ市中ヲ通スル運河ノ如キハ兩岸悉ク「セメント」ニテ造ラレ所々石段ノ設ケアル等土木ノ事業ニ於テハ歐洲ニ讓ラサルモノ、如シ

交通ノ便ハ生産事業ヲ發達セシムルノ原理ニ從ヒ田畑能ク開カレ種々貴重ナル農産物ノ耕作盛ニシテ二十一億ポント

ノ砂糖、三千五百六十五萬ポントノ珈琲、九千二百萬ポントノ煙草、二千八百萬ポントノ茶、三百二十萬ポントノ「コ、ア」ノ年收穫ヲ瓜哇島ノミニテ生産ス其他土人ノ耕作ニ係ル水田百十六萬町歩アリ森林業モ亦之レニ準シテ發達ス然レトモ民有森林一ツモナク皆國有林ナリ之レ蘭國政府ニ於テハ蘭領印度ノ土地ヲ外國人ハ勿論土人ニサヘモ所有セシムルコトヲ禁シ從來ノ歴史ニ由リ土人ノ所有ニ移リタル少許ノ地積ヲモ盡ク國ニ買收セント企テツ、アル程ナレハ森林ニシテ民有ノ現存セサルコト敢テ怪ムニ足ラス

瓜哇島以外ノ諸島ニ在リテハ荷蘭政府ノ行政未タ至ク行ハレス從テ産業ニ於テモ一小部分ノ外ハ著シキ發達ヲ見ス況ンヤ森林業ニ於テヤ此ノ如キ地方ニ於テハ森林ハ蠻人ノ巢窟ニシテ我臺灣ノ生蕃地ノ如キ状態ニ放置セラレ利用未タ開カレス森林ノ調査ハ勿論未タ着手セラレス故ニ林地ノ面積並ニ林木ノ種類及蓄積等ヲ知ルニ由ナシ

### 第二章 林政ノ概要

總論ニ於テ述ヘタル如ク蘭領政府ノ行政ハ瓜哇島ニ於テノミ治クシテ其他ノ諸島ニハ未ダ普及ノ域ニ達セス從テ總テノ生産業モ瓜哇島ニ於テノミ能ク發達シ林業ノ如キモ同島ニ於テハ著々整理進捗シツ、アリ

瓜哇全島ヲ四十七箇ノ林區ニ分テ之レヲ統轄スル最上級官廳ヲ「ボイテンツルク」ニ置ク之レ所謂山林局ニシテ山林局ハ西曆千九百零六年ニ初メテ設ケラレ其製前ニアリテハ農務局内ノ山林課ニテ山林事務ヲ掌レリ

山林業務ニ執掌スル官吏ノ官名及人員ハ次ノ如シ

官名	人員	備考
フリードリッヒ、インスマクトール	一	我國山林局長ニ相當ス
インスベグト、トール	五	内三人ハ大林区署長一人ハ施業監督官一人ハ瓜哇以外諸島ノ森林監督官
フートヴ、エスデル	五五	内二人ハ山林局在勤、三十四人ハ大小林区署、七人ハ施業監督官等ノ實地事業ニ従事、一人ハ植物園、二人ハゴム園、一人ハセレベス島、八人ハ缺員



アスピラント、フットヴェステル アツヂヤンクト上級 フットヴェステル上級	同 上下級	フットヴェステルノ候補者ニシテ内六人ハ小林區署ニ在勤一人ハ實地事業ニ従事ス
フットヴェ、オプ、チー、ネル	一〇	内九人ハ大小林區署、三人ハ缺員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一一	内八人ハ大小林區署、二人ハ實地事業ニ従事、二人ハ缺員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一二	内九人ハ大小林區署、一人ハセレス島事業監督主席
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一三	内八十八人ハ大小林區署、四人ハ實地事業ニ従事、二人ハ缺員、和蘭人ノ事業監督員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一四	内四十八人ハ大小林區署、三人ハ實地事業ニ従事、和蘭人ノ事業監督員補助
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一五	大小林區署ニ在勤スル土人ノ事業監督員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一六	土人ノ事業監督員補助
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一七	實地事業ニ従事スル事業員主席
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一八	和蘭人ノ事業員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一九	和蘭人ノ事業員補助
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二〇	土人ノ事業員補助員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二一	土人ニシテ事業人夫ノ取補役
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二二	大小林區署在勤スル保護區員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二三	大小林區署ニ在勤スル土人ノ森林哨會員
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	二九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	三九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	四九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	五九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	六九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	七九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	八九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九〇	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九一	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九二	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九三	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九四	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九五	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九六	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九七	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九八	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	九九	
ユーロベシエ、オプ、チー、ネル	一〇〇	

インスベクトツール以下アツヂヤンクトフットヴェステルノ上級マテハ高等官ニシテアツヂヤンクトフットヴェステル下級以下インランドシエ、オプ、ネ、メル迄テ判任官トス、インスベクトツールハ山林局ニ在勤スルモノト大林區署ニ在勤スルモノトアリ大林區署ニアル者ハ大林區署長ニシテ我國ノ林務官又ハ技師ニ相當ス

フットヴェステルハ山林局ニ在勤ノモノト大小林區署ニ在勤スルモノトアリ小林區署ニ在勤スルモノハ小林區署長ナリ其他一人ハボイテンブルグ植物園ニ二人ハ官營護謨園ニ一人ハセレス島ニ派遣セラル我國ノ林務官又ハ技師ニ相當ス

アスピラントフットヴェステルハフットヴェステルノ候補者ニシテ大小林區署ニ在勤シ小林區署ニアルモノハ小林區署長タリ我林務官補ニ相當ス

アツヂヤンクトフットヴェステルハ大小林區署ニ在勤シ小林區署ニアルモノハ小林區署長タリ我林務官補ニ相當ス

大林區署ハ「バタバヤ」州「ボイテンブルグ」ニ一ヶ所「ジヨグジャカルタ」州「ジヨグジャカルタ」ニ一ヶ所及「ストラバヤ」州「ストラバヤ」ニ一ヶ所計三ヶ所アリ「ボイテンブルグ」ニアルモノハ西瓜哇全體ノ小林區署ヲ監督シ「ジヨグジャカルタ」ニアルモノハ中央瓜哇全體ノ小林區署ヲ監督シ「ストラバヤ」ニアルモノハ東瓜哇全體ノ小林區署ヲ監督ス然レトモ我國ト林區ノ組織ノ異ル所ハ大林區署ニアリテハ一ツノ小林區署ヲ管理シ同時ニ管下ノ他ノ十數ノ小林區署ヲ監督スルニアリ

蘭領印度ノ森林官廳内事務員ハ驚クヘク小數ニシテ山林局ニ於テサヘモ局長ノ下ニ高等官タルフットヴェステル三人及判任官兩三名ニシテ總テノ事務ヲ整理ス大林區署ニ於テハ事業ノ多キ箇所ハ署長ノ下ニ五六名ノ職員アルモ事業開ナル所ハ大林區署長ト共ニ兩三名ニ過キス小林區署ニ至リテハ署長ノ下ニ一人或ハ署長ノ下ニ一人ニテ事務ヲ掌ル所アリ尤モ大小林區署ニテハ和蘭官吏ノ外ニ瓜哇人ノ雇兩三名ヲ使用シ製圖及記帳ヲナサシム之レ事務上ノ組織甚簡單ナルニ歸因スルモノニシテ林區署内事業上ノ報告ハ其概要ヲ月一回上廳官署ニ提出スルニ止マリ輕微ノ事件ハ一切署長ニ委任セラレ署長ノ專斷ニヨリテ遂行シ得大小林區署長ノ机上ニハ机上電話ト「ダイブライタイ」トヲ必ス備付ク故ニ他官廳トノ仕事ノ連絡並ニ上廳ヘノ照會往復ハ大抵此電話ニ依リテ處辨ス

### 第三章 氣候地勢森林ノ分布及林況概要

#### 第一節 氣候

蘭領東印度諸島ハ北方ニ亞細亞大陸南方ニ濠洲ヲ控ルヲ以テ氣象ハ常ニ兩者ノ影響ヲ受ク

風 一月ハ濠洲ノ盛夏ナルヲ以テ北風多ク三月ハ風ノ轉換期ニシテ風位一定セス四月ヨリ五月ニハ南風トナリ風少

シク強キモ七八月ニ至レハ漸次風力ヲ減シ十一月ニハ風位一定セス十二月ニ再ヒ北風トナル一年ヲ通シ強風又ハ烈風ヲ見ルコト甚稀ニシテ一日中ヨリ云フトキハ一般ニ午前ハ海風午後ハ陸風吹ク

温度 温度ハ四季ヲ通シ變動少ク海岸地方ハ年平均攝氏二十六度乃至二十七度ナリ之レヲ我臺南ノ年平均二十三度ニ比スレハ三四度高シ又一年中ノ最高温度ノ平均ハ三十五度ニシテ最低温度ハ二十二度ナリ而シテ一日中ノ温度ノ變化ノ平均差ハ旱燥期ニハ攝氏ノ六度乃至七度ニシテ降雨期ニハ四度乃至五度ナリトス

雨量 蘭領東印度諸島ハ雨量ノ多少ニ依リ一般ニ之レヲ旱燥期及降雨期ノ二ツニ分ツ然レトモ地方ニ依リテハ一様ナラススマトラ島ノ北部ニテハ八月ニ降雨最モ多ク赤道直下ニ在リテハ一年ヲ通シ常ニ降雨ヲ見ルモ瓜哇ノ西部及スマトラ南部ハ瓜哇東部ノ乾燥期中却テ雨多シ

一箇年ノ雨量ハ千ミリメートル以下ノ地ナク瓜哇西部スマトラ及ボルネオノ全部ニ於テハ二千ミリメートル以上ニ及フ又瓜哇ノ或ル部分ニハ五千乃至七千ミリメートル以上ニ達スル箇所アリ我日本國ニテハ最多雨ノ地ナル八丈島ニテモ四千八百ミリメートルニシテ最少雨地ナル宗谷ノ如キハ僅カニ七百八十二ミリメートルニ過キス以テ南洋地方ノ多雨ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ瓜哇島ニ於テハ十月ヨリ翌年四月マテテ降雨期トシ五月ヨリ九月マテテ乾燥期トス然レトモ此區別ハ中部又ハ東部ニ於テノミ着シクシテ西部瓜哇ニ於テハ劃然タル區分アルコトナク乾燥期ト雖トモ降雨ルコト割合ニ多シ

降雨期ニ於テハ一日中降雨アルコトアルモ概シテ午前ハ晴天ニシテ午後一時頃トナレハ一天俄カニ黒雲ヲ以テ掩ハレ忽ニシテ大雷風トナリ午後四時時トシテハ夕方マテ降雨ヲ續ク而シテ其降雨ノ量雨滴ノ大ナルコト實ニ我カ國ニテハ想像シ能ハサル所ナリトス

### 第二節 地 勢

瓜哇島ニ於テハ其中央部ヨリ少シク南ニ偏シテ脊髓ノ如ク西ヨリ東ニ長ク大山脈連リ其支脈ノ一部ハ西瓜哇ブレアング州ニ於テ擴カル此等山脈中ニ高千尺ヨリ一萬二千尺ニ至ル活火山約二十一箇アリ火山地方ハ一般ニ土地急峻ナレトモ其ヨリ續キタル高原及海岸地方ハ土地緩傾斜又ハ平擔ナリ川流ノ大ナルモノハ主ニ北海岸ニ注ク海岸地方ハ一般ニ斷岩絶壁甚少ク陸ハ自然ニ浮キ上リタル如キ狀ヲナススマトラ島ニ於テハ西海岸ニ山脈連リ東海岸ハ平坦地多シ又ボルネヲ島ニ於テハ北ヨリ南ニ大ナル山脈連リ其支脈ハ東南方及西南方ニ擴ル

### 第三節 森林ノ分布及林況概要

瓜哇島ノ森林ヲ分チテ三帶トス第一帶ハ海岸平地ヨリ海拔二千尺ニ至ルマテトシ氣温攝氏ノ二十四度ヨリ二十七度ニ至ル間トス第二帶ハ二千尺以上四千五百尺以下ニシテ氣温十八度ヨリ二十四度ニ至ル間トス又第三帶ハ四千五百尺以上七千五百尺以下ニシテ氣温十三度ヨリ十八度ニ至ル間トス第三帶ニ至レハ多少濕帶地方ノ風光顯出シ夫ヨリ以上ハ灌木雜草ノミヲ生ス

第一帶ニ屬スル森林ニシテ海岸及河邊ノ濕地ニ存在スルモノハマングローヴ林及ニバ椰子林ニシテ海岸ノ砂地ニハコ、椰子林ヲ見ル夫ヨリ漸次海岸ヲ遠カルニ從ヒ砂糖椰子、サゴ椰子、油椰子、檳榔子等ノ椰子、竹林、榕樹林其他種々ノ雜木混生林ヲ形成ス此帶ニ屬スル森林ハ最重要ニシテ殆ント總テノ有要ナル林木及副産物ノ種類ハ皆此處ニ生シ彼ノ有名ニシテ必要ナルチーク林モ亦此帶ニ存在ス

第二帶ニ入りテハ高サ百八十尺直徑四尺ニ達スル「ラサマラ」木ノ林及之レニ次ク所ノ大サヲ有スル「ブリスバー」ノ林アリ無花果屬ノ多クモ亦此帶中ニ雜木ト混生シテ生ス

第三帶ニハ年齢三十年ニシテ已ニ直徑二尺高百尺ニ達スル「ジャマラ」カスアリナクエタイシテイブオリヤ樹ノ林アリ此附近ニハ椰屬ノ樹木雜木ニ混シテ生スルヲ見ル一般ニ熱帶地方ノ樹木ハ其成長頗ル迅速ニシテ上長生長肥大生長

共驚クヘキ大サニ達スルモノアリ之レ温度ノ高キト濕氣ノ充分ナルトニ基因スルモノニシテ樹木ハ己レノ欲スル所ニ從ヒ自由ナル生育ヲナスモノ、如シ例ヘハ榕樹ノ如キハ一二丈ノ高サヨリ太キ氣根ヲ無數ニ下シ此氣根ノ地中ニ入りタルモノヨリ又新シキ株ヲ生ス、「ステルキユリヤ、ウケグマニ」ノ如キハ壯大ナル偏平ノ盤根ヲ生シ其根間ニ立ツトキハ肩ヲ隠スニ至ルモノアリ、竹類ハ凡テ密生シテ株形ヲナシ決シテ一本ツ、孤立セス其株ノ大サ徑二三間ニ至ルモノ珍シカラス「ギガントクローラ、ロブスタ」ト稱スル竹ノ如キハ高サ百二十尺直徑七寸ニ達ス、籐ノ種類ハ葉ト莖トニアル刺ヲ以テ他ノ樹木ノ枝ニ懸リ蟻トシテ幾十丈ナルヲ知ラス又前記「ジサマラ」(アルチンギア、エキセルサ)ハ枝下百尺以上アリテ樹幹圓筒形ニ直立スルアリ

前述ノ如キ狀況ナルヲ以テ天然林ハ頗ル複雑ニシテ林木ハ二段或ハ三段林ヲ形成シ下ニハ荆棘ノ類密生シ籐類ハ鐵條網ノ如ク張りテ林ヲ閉鎖ス故ニ道ナキ箇所ニハ一步タリトモ林中ニ進ミ入ルコト能ハス

氣候ノ節ニ於テ述ヘタル如ク瓜哇島ハ西部ト東部トニ由リ降雨ノ量ニ差別アリ西部ニ於テハ一年ヲ通シテ雨多キモ中部ヨリ東部ニ至リテハ降雨期ト乾燥期トノ間ニ劇然タル區別アルカ故ニ森林ノ樹木ノ種類モ亦自然差違ヲ生ス即チ西部ニ在リテハ濕氣ヲ多ク好ム處ノゴム樹類能ク生育シ中部ヨリ東部ニ至リテハ「チーク」、「ラサマラ」、「ブリスバー」、「ジャマラ」ノ類生育ス

チーク林 チーク林ハ南洋諸島ニ於テハ瓜哇島及其屬島「マドッラ」島ニ在ルノミニシテ他ノ諸島ニハ嘗テ之レアラス只近時セレベス島ニ少面積ノチーク林ヲ發見シタルニ止マルノミ瓜哇島ニテハ同島中部ノ東ヨリ東部ニ互リテ存在シ西部ニアリテハ「バタビヤ」州ノ東部地方ニ少許アルノミナリ瓜哇島及マドウラ島ヲ通シ其總面積ハ六十七萬九千九百十三「ヘクトアール」(「ヘクトアール」ハ我「町二十五歩ニ當ル」)ニシテ内測量及施業案ノ濟ミタル所謂整理セラレタル面積ハ九萬七千七百五「ヘクトアール」未ダ整理ノ付カサル面積五十七萬四千八百三十八「ヘクトアール」ナリ而シテ其郷土ハ海面上約三百尺ヨリ一千八百尺ノ間ニアル地域ニシテ地質壤土ノ緩傾斜地ヲ好ム

「チーク」ハ毎年七八月ノ交即チ乾燥期ニ於テ落葉シ十月雨期ノ初メニ新葉ヲ生ス十二月ノ終リヨリ一月ニ開花シ夫ヨリ實ヲ結フ木ノ生長頗ル盛ニシテ十年生ニ至レハ已ニ高サ十間内外直徑五六寸ニ達ス伐期ニ達シタルモノハ往々ニシテ高サ二十間直徑三尺ニ至ルモノアリ孤立ノモノハ樹幹屈曲シ下方ヨリ枝ヲ多ク分支ス樹幹ハ我國ノシデノ如ク凹凸多ク樹皮ハ淡灰色ヲ呈シ外皮薄ク剝クル性質アリ

チーク林ノ林相、熱帶地方ニ於ケル天然森林ハ頗ル複雑ニシテ幾十種ノ林木混淆シテ成立スルモノナルモチーク林ハ殆ント單純林ノ形ヲ存ス之レ如何ニ「チーク」カ此國ニ適スルカラ知ルニ足ル奇ナル現象ナリトス

チーク林ノ經營 蘭領印度政府ハ自己ノ領地内ニ在ルチーク林ノ利用ヲ總テ官營トナシ私人ノ庭園ニアルチーク樹タリトモ之レカ伐採ニハ必ス政府ノ特許ヲ要ス又チーク林ニ對シテハ獨乙式ニ則リ施業案ヲ編成シテ植伐ノ方法ヲ建テ輪伐期ヲ百年ト定ムルモ地味ノ良好ナル箇所ハ八十年ヲ以テ輪伐期トス作業種ハ皆伐喬林作業ニシテ年伐量ハ材積及面積ノ平分法所謂折衷法ヲ用フ

「チーク」ノ伐採ニ先ツコト五六年前ニ皆伐區域内ニ在ル「チーク」ヲ一本毎ニ斧ヲ以テ地上ニ一尺許ノ根部ヲ廻リテ傷ヲ付ケ我國ノ剝枯ニ類似シタル方法ヲ施ス而シテ此傷ハ亞皮部ヲ通シテ深ク心材マテ達セシム故ニ伐採ニ近キタル林分ハ蟲害ニ罹リタル林ノ如ク枯木林立シ遠方ヨリ明カニ之レヲ認メ得ヘシ此方法ハ立木ノマ、林木ヲ充分乾燥セシメ運搬ニ便ナラシムルト共ニ其運搬費ヲ節減シ併セテ製材後ノ日割レ又ハ狂ヒヲ防クカ爲ニ用フモノナリ然レトモ此方法ハ單ニチーク林ニノミ施シ得ルモノニシテ若シ之レヲ他ノ林ニ行フトキハ忽チ白蟻ノ害ヲ受クルニ到ルヘシト云フ

チークノ造林 チーク林ノ伐採跡地ニハ必ス造林ヲ行フ造林ハ天然ト人工トニ分チ往年良木擇伐ヲ行ヒタル跡ニハ手入ヲナシ下木雜草ヲ刈リ拂ヒ殘存木ヨリ自然ニ種ヲ下サシメ又切株ヨリ萌芽シタルモノヲ撫育シテ天然造林ヲ施ス(萌芽力強クシテ直徑三尺以上ノ切株ノ運返) (サレタルモノヨリ盛ニ萌芽スルヲ見タリ)

皆伐跡地ハ丁寧ニ林地ノ掃除ヲナシ枝葉ハ之レヲ集メテ集燒ヲナシタル後林地ニ人工播種ヲナス床地ニ苗木ヲ養成シ

テ人工植栽ヲ行フコトナシ人工播種ノ方法ハ雨期ノ初十一月頃ニ種子ヲ林地ニ取播キスルモノニシテ列狀ニ規則正シク一メートル毎ニ小ナル穴ヲ掘リ此中ニ種子二三粒ヲ蒔ク列間距離ハ二メートルニシテ其中間ニ荳科ニ屬スル「アルビチャ」屬ノ種子ヲ同時ニ列狀ニ播種ス之レ「チーク」ノ被蔭木タラシムルモノニシテ此木ハ「チーク」ニ比較シ成長旺盛ニシテ枝葉細ク能ク被蔭ノ目的ヲ達シ得ヘシ蓋シ熱帶地方ニ於テハ常ニ日光劇烈ニシテ如何ナル木モ其幼時ニ於テ必ス日光ヲ遮ルヲ要ス

チークノ種子ハ約二週間前後ニテ發芽ス故ニ其成長盛ニシテ強大ナルモノヲ殘シ他ヲ伐リ去リ切り株ヨリ萌芽シタルモノト共ニ生育セシム

此荳科植物ハ五年後ニ於テ伐リ除カレ爾後ハチークノ單純林トナリ十年生ニ達シ初メテ第一回ノ間伐ヲ行フ

チークノ伐採 當該年度ノ伐採區域ハ一年間ヲ通シテ伐木作業ヲ行ヒ我國ノ如ク伐採時期アルコトナシ伐リ倒シタル木ハ皆之レヲ丸太材ニ造材シ劣等材又ハ稀有ノ大材ノ外ハ角材ニ造ルコトナシ枝ハ之レヲ薪材ニ供ス此薪材ハ二部ハ鐵道機關車ノ燃料トナシ一部ハ公賣ニ附ス伐採器具ハ總テ歐洲製ノモノヲ用フ

チークノ運材 「チーク」林中ニハ森林鐵道敷設セラレ此鐵道ノ沿線マテ林道ヲ牛車ニ依リ搬出セラル鐵道ノ「ゲージ」ハ「メートル」ニシテ二十「ボンドレル」ヲ用フ荷車一臺ノ積載量五立方「メートル」即チ我約十五尺ニ當ル森林鐵道ニ依リテ運ハレタルモノハ官設又ハ私設ノ本鐵道沿線ニ至リ此處ニ貯木場ヲ設テ集積ス

チークノ貯木場 「チーク」ノ貯木場ノ大ナルモノハ五、六町歩小ナルモノハ僅カニ一二反歩ニ過キス集積シタル材ハ屋根アル大ナル小屋中ニ收メテ日割ヲ防ク簡單ナル貯材地ニシテ若シ附近ニ林アルトキハ之レヲ林中ニ積ミ置クチークノ賣却 賣却法ハ總テ公賣ニ依ルモノニシテ貯木場ニ搬出セラレタルモノヲ二箇月毎ニ公賣ニ附ス然レトモ此公賣ハ整理セラレタルチーク林ニシテ伐採造材運搬トモ總テ官業ヲ營ム所ノ林産物ニ行フモノニシテ未ダ整理ノ着手セラレサルチーク林ハ「スマラン」市又ハ「ストラバヤ」市中ノ有力ナル製材業者ニ立木ノマ、三年期限ノ年期特賣ヲナ

ス

チーク市場 「チーク」ノ大市場ヲ「スマラン」州「スマラン」市及「ストラバヤ」州「ストラバヤ」市トナス此二市ニハ和蘭人、英人、支那人及「アラビヤ」人ノ木材商數多居住ス「スマラン」市ニアル蘭人木材商ニシテ會社組織ヲナシ政府ヨリ「チーク」ノ年期特賣ヲ受クルノ特許ヲ有スルモノハ「ジャバシエ、ボッシュエキスプロイタデー、マースカッビー」及「ネーデルランツ、インデイシエ、フータンカッ、マースカッビー」トス此二會社ハ孰レモ大ナル製材工場ヲ有シ丸鋸數臺暨鋸機二臺ヲ以テ盛ニ「チーク」ノ板材及角材ヲ製作ス又「ストラバヤ」市ニハ「セ、ボルネオコンパニー、リミテッド」及「フートハンデル、マースカッビー、オーストジャバ」二大會社アリテ前者ハ英人ノ經營後者ハ蘭人ノ經營ニ係ルモノナリ之等ハ又「スマラン」市ニアル二大會社ト同シ資格ヲ有スルモノニシテ製材所ノ大ナルモノヲ有シ盛大ニ製材事業ヲ營ム故ニチーク材ノ注文ヲサントスルトキハ以上四會社ヘ交渉スルヲ便利ナリトス

チーク材ノ市場相場 「ストラバヤ」市場ニ於ケル角物一立方「メートル」ノ價格ハ次表ノ如シ、但シ表中「ハ」ギルダ「」ニシテ「ギルダ」ハ我八十錢六厘ニ當ル

長 (メートル)	角ノ大サ (センチメートル)						
	19 以下	20—24	25—29	30—34	35—39	40—49	50 以上
1. 以下	8. 23.	8. 24.	8. 29.	8. 29.	8. 29.	8. 30.	8. 30.
1. — 1.35	〃 25.	〃 27.	〃 31.	〃 31.	〃 31.	〃 32.	〃 32.
1.40 — 1.90	〃 27.	〃 29.	〃 34.	〃 36.	〃 37.	〃 38.	〃 40.
2. — 2.40	〃 29.	〃 31.	〃 34.	〃 36.	〃 40.	〃 41.	〃 44.
2.50 — 2.90	〃 32.	〃 34.	〃 39.	〃 41.	〃 45.	〃 46.	〃 48.
3. — 3.40	〃 37.	〃 39.	〃 41.	〃 44.	〃 51.	〃 52.	〃 55.

3.50	3.90	45.	47.	47.	50.	57.	58.	60.
4.	4.40	45.	47.	48.	52.	57.	59.	62.
4.50	4.90	50.	53.	55.	60.	65.	67.	70.
5.	5.90	50.	53.	55.	70.	75.	78.	82.
6.	6.90	57.	60.	65.	80.	85.	88.	93.
7.	7.90	66.	70.	75.	90.	95.	98.	105.

十一

備考 七、九〇「メートル」以上ノ長物ハ各大小共其價格ニ一〇「ギルダ」ヲ加フ  
チークノ枕木ノ價格ハ次ノ如シ

長	幅	厚	物	一挺ニ付
二、二一〇	二二、	一一、	物	一一、一〇
〃	二、〇〇	〃	〃	一、〇〇
〃	一、二一〇	〃	〃	〇、八〇

チーク材ノ輸出先 瓜哇チーク材ノ輸出先ハ主トシテ印度ノ「ボンベイ」及伊太利「ゼノア」ニシテ主トシテ船造用材ナリ而シテ「スラバヤ」ヨリ「ゼノア」迄ノ運賃「トン」ニ付七五「ギルダ」ヲ要スト云フ日本ニハ未タ嘗テ輸出シタルコトナキモ兩三年前「スラバヤ」市三井出張店ニテ見本トシテ若干ノチーク材ヲ我國ニ運送シタルトキ取調タル運搬費ハ同市ヨリ横濱市マテ一立方「メートル」ニ付九「ギルダ」半ヲ要シ千「ギログラム」ヨリ二千「ギログラム」マテハ此運賃ニ一割ヲ増シ二千乃至三千ナルトキハ二割、三千乃至四千ナルトキハ七割五分、五千乃至八千ナルトキハ十割、八千以上ナルトキハ二十割ヲ増スト云フ

チークノ産額 「チーク」ノ伐採量ハ年々約三十萬立方「メートル」ニシテ其收入總額六百萬「ギルダ」ナリ

瓜哇チークノ特徴 瓜哇チークハ之レヲ暹羅ノチークニ比スレハ材色少シク黒味ヲ帯ヒ堅クシテ工作シ易カラス恰モ我國ノ樺ト視トノ差アルカ如シ故ニ「シンカポール」ニ住ム支那人ノ建具師ハ暹羅「チーク」ヲ好ンテ用ヒ瓜哇「チー

ク」ヲ嫌フノ傾アリ

瓜哇チークノ利用 外國ニ輸出サル、モノハ主トシテ船造材ナルモ瓜哇島内ニ於テハ家屋建築用材、電柱用材、橋梁用材、鐵道枕木用材、家具用材ニ用ラル元來熱帶地方ニ於テハ白蟻ノ害非常ニシテ總テノ木材殆ント此害ニ罹ラサルモノナシト謂フヘシ然ルニチーク材ハ少シモ白蟻ノ被害ナキノミナラス伸縮少ク腐朽ニ對シ耐久力強キ故木材ヲ要スル工事ニハ必ス此材ヲ費用ス又蘭領政府ニ於テハ法令ヲ以テ市ノ如キ人家稠密ノ箇所ニ一建築材及家具材トシテ此材ヲ用フルコトヲ強ユ若シ家屋建築材ニシテ「チーク」以外ノ木ヲ用フルコトアラハ蘭領政府ハ建築ノ檢査ヲ通過セシメス之レ單ニ白蟻ノ蔓延ヲ防クノ主旨ニ外ナラス實ニチークハ熱帶地方ニ於テハ有要缺クヘカラサルノ用材ナリトス

#### 第四章 利用樹種各木竹材ノ特性及用途

南洋諸島ニ於ケル樹木ノ種類ハ實ニ千五百種ノ多キニ及フト云フト雖モ利用サルヘキモノハ甚少ニシテ左ノ數種ニ過キス

##### 一、チーク

南洋ニテハ方言ヲジャテイー(Datu)ト稱ス學名ハテクトナ、グランデイス(Tectona grandis)ニシテ其用途及特性ハ前記セルヲ以テ茲ニ略ス

##### 二、カユ、ブシー

方言ヲカユブシー(Kayu Basi)ト云フカユハ木ノ意ニシテブッシーハ鐵ノ意ナリ所謂鐵木之レナリ學名ハユーシデロキシロン、ツワゲリー(Eusideroxylon Zwageri)ト稱スボルネオ島ノ山中ニ多ク産スル闊葉樹ニシテ材質極ノテ硬ク堅ニ切り又ハ割ルコトハ比較的容易ナルモ横ニ切ルコト困難ナリ材色ハ新シキトキハ黃褐色ヲ呈スルモ日光風雨ニ曝ラサルハトキハ表面鐵ノ如ク黒色トナル「チーク」ノ如ク白蟻ノ害ニ犯サル、コトナシ又船蟲ノ害ヲ被ルコト少キヲ以テ

水邊ニ住スル土人ハ水中ニ此木ノ杭ヲ立テ其上ニ家屋ヲ造ル水中ニテハ二十五年陸上ニテハ百年ヲ保ツ故ニ又機橋ニ多ク用ユル建築材トシテハ家ノ梁柱又ハ土臺ニ用ヒ保存力永シ又ボルネオ島「バンジャルマシ」地方ニテハ此木ヲ堅ニ剝キテ屋根板ヲ造リ瓜哇島「スラバヤ」市ニ輸出ス「バンジャルマシ」地方ノ家屋ノ屋根ハ蘭人土人ノ差別ナク皆此板ヲ用フ保存期頗ル永クシテ熱帶地方ニ於テサヘモ最初二十五年ヲ保チ次ニ之レヲ天地シテ替キ返セハ又二十五年ヲ保ツ即チ前後五十年ヲ支ヘ得ヘシ土人ハ又此木ヲ以テ小舟ノ底ヲ造ル

「バンジャルマシ」ニ「エヌ、シー、メツスケールト」(N.C. Messchaert)ナル蘭人ノ木材商アリ此店ニ就キテ取調ヘタルニ「カユブシー」ノ角材ニシテ長六「メートル」八「インチ」角物(普通ノモノ)一本十五「ギルダ」(一「ギルダ」我八十錢六厘)長十五「メートル」平二十九「インチ」角物ノ如キ大材ニ至リテハ一本二百「ギルダ」ナリ又此木ノ屋根板ハ五十枚ヲ一束トシ千枚ニ付一等品十二「ギルダ」五〇仙二等品ハ十一「ギルダ」五十仙三等品ハ十「ギルダ」五十仙ナリト云フ

此等級ノ區別ハ長ノ長短ニ由ルモノニシテ一等品ハ長一尺六寸二分二等品ハ一尺五寸八分三等品ハ一尺五寸三分幅ハ孰レモ二寸七分厚サハ二分トス

二、ラサマラ

方言ヲ「ラサマラ」(Rasamala)ト云フ學名ハ「アルナンギヤ、エキセルサ」(Altingia excelsa)ニシテ瓜哇島西部ノ「チウエデー」附近ノ林ニ産ス西瓜哇ノ特産ナリ頗ル長大トナルニ依リ有名ナル潤葉樹ニシテ葉ニ香氣ヲ含ム蒸餾シテ香油ヲ採リ得ヘシト云フ樹皮ハ平滑淡灰色ナリ樹高百廿尺枝下百尺ニ餘リ圓筒形ノ直幹ヲ有ス直徑三尺以上ニ達ス材色赤褐色ニシテ日本ノモクコクニ似ル質堅シ蘭領政府ニテハ官營ニテ此木ヲ擇伐シ直徑三尺ニ達シタルモノヲ伐採ス長サ二「メートル」ヨリ七「メートル」ニ至リ大サニ「インチ」ヨリ二十五「インチ」ニ至ル各種ノ角材ヲ作ル長材ハ桁、短材ハ柱ニ用フ小角ハ家ノ垂木トナス山中ヨリ街道迄ハ人肩ニ依リ運搬シ街道ニ至レハ牛車ニテ「バンドン」町ニ搬出ス「バンドン」町ニテ平均一立方「メートル」ノ市場價格四十「ギルダ」ナリ地方ニ住ム土人、支那人ノ家屋建築用材ニ供ス

ルノミニシテ産額多カラス林中ノ樹下ニ少許ノ苗圃ヲ諸所ニ設ケ苗木ヲ養成シテ伐リ跡ニ人工造林ヲナシ以テ天然更新ヲ助ケツ、アリ

四、プースバー

方言ヲ「プースバー」(Poospa)ト云フ學名ハ「シマ、ノロンノ」(Schima Noronhae)ニシテ前記樹種ト共ニ西瓜哇ノニ産ス樹皮ハ褐色ニシテ裂ケ目ヲ存ス新葉ハ紅色ヲナシテ美麗ナリ前者ニ次ク生長ヲナス材色前者ニ似テ少シク淡シ材ノ用途又前者ニ同シ

五、シヨレヤ屬

此屬ノ種類二十種アリ南洋諸島各方面ノ山林ニアリ材色淡紅ノモノアリ白キモノアリ材質軟カクシテ細工シ易シ護謨ノ輸送箱、煙草箱ニ多ク用キラル白蟻ノ害ニ懼リ易キ故ニ建築材又ハ家具材ニ用フルコト能ハス板ニ製シテ「シンカポール」ニ多ク輸出ス五寸幅二間物一枚ニテ十五仙位ナリ「シンカポール」ノ安價ナル建築ニハ床板トシテ多ク之レヲ用フ然レトモ二三年ニシテ取換ヘサレハ盡ク白蟻ノ害ヲ被ルニ至ルト云フ

以上ハ多ク利用サル、主ナル樹種ニシテ此他ニ紫檀黒檀ノ如キ重要ナルモノアリト雖トモ紫檀ハ其量甚尠シ此木ハ方言ヲ「カユ、セナ」(Kajie Sena)又ハ「サナ」(Sana)ト稱シ學名ヲ「プデロカルプス、インディクス」(Pterocarpus indicus)ト云フ香港ニテハ南洋ヨリ出ツル紫檀ヲ萬倫ト稱シ大ニ珍重シ價モ亦從テ甚高シ然レトモ稀ニ出ツルト云フ黒檀ノ真正ノモノハ南洋諸島ニナシセレベス島ニ偽黒檀多シト云フノミ

六、竹類

南洋諸島ニ産スル竹類ハ十八種餘ノ多キモ實際利用セラル、モノハ少数ナリ其内著名ナルモノヲ「ギガントク、ロラ、ロプスタ」(Gigantochlorarobusta)ニシテ土語ヲ「バンブー、イテム」ト稱シ高百二十尺直徑七八寸ニ及フ瓜哇地方ニテハ建築材料ニ用キラル土人ハ此竹ヲ以テ家ノ柱トシ又ニツニ割リテ屋根トス「ギガントク、ロラ、アスベラ」(Gigantochloraspera)ト稱スル竹ハ前者ニ次キ大ナリ之レ亦建築用材トナス「バンブーサ、アプス」(Bambusa apus)ハ土語ニテ「バン

「ブーダリ」ト稱シ大サ前者ノ半ニ過キス然レトモ表皮強靱ナルヲ以テ物ノ結束用ニ供セラレ又瓜哇産有名ナル竹帽子ヲ造ル原料トナル此竹ハ節間約二尺内外アリテ肉厚ク青竹ノ時其表皮ヲ剝キ用フルトキハ頗ル強クシテ之レヲ足代ノ組立ニ用フルトキハ能ク數月ノ久シキニ堪ユ此竹ヨリ竹帽子ヲ造ルニハ其ノ原料ノ新鮮ナルモノヲ選ミ其外皮ヲ洗ヒテ汚點ヲ去リ小刀ヲ以テ其表皮ヲ剝キ三四日日光ニ曝シ間節ヲ切り放シ幅三寸乃至四寸ノ小片トシ尙手ヲ以テ之レヲ割キテ帽子ニ編ム瓜哇ノ「バタバヤ」及「バングム」ニ州ニ於テ此製造殊ニ盛ナリ歐洲各國ニ多ク輸出ス婦人用トシテ大ニ賞用セラル又瓜哇バタバヤ地方ニ於テハ兵士カ此竹ニテ造リタル帽ヲ冠ルヲ見ル歐洲向婦人帽ヲ造ルニハ其原料ヲ最モ精選シ水中運搬ヲ避ケテ其汚損スルヲ防ク而シテ此帽ハ二重ニ編マレ裏面ニ竹片ノ先端ノ出テサルコトニ注意ス之レカ輸出ノ年額實ニ三百萬圓ニ上ルト云フ

七、籐類

學名ヲ「カラムス、ロタン」(Calamus Rotang)ト云ヒ土語ニテ「ロタン」ト稱ス南洋諸島到處ニ多キモ殊ニボルネオ島及スマトラ島ニ多シ其種類六十餘種ノ多キニ及フ椰子類ニ屬シ葉ハ羽狀ヲナス莖ハ蔓狀ニシテ細ク長シ莖莖共ニ刺ヲ有シ他ノ樹木ニ懸リ生育ス多ク利用サル、主ナルモノハ次ノ如シ

「ロタン、タマン」 此種ノモノハ莖細ク三分内外ノ直徑ニシテ淡黃白色ノ光澤アル内皮ヲ有ス籐類中最モ良好ナル物ニシテ上等ノ椅子ヲ編ムニ用フルボルネオ島、バンシヤルマシシニテ百斤十六「ギルダ」ヲ價ス

「ロタン、エルレー」 品質前者ニ次キ用法同シ百斤ニ付八「ギルダ」ナリ

「ロタン、ブーヨン」 前二種ヨリ少シク太シ曲ルトキハ折レ易キ性質アル故ニ割リトシ絲ヲ以テ簾ノ如ク組ミ床ノ敷物トス百斤七「ギルダ」ナリ

「ロタン、タバパン」 物ノ結束用ニ供ス又筏ヲ組ムニ用フル土人ハ此レヲ以テ炭籠ヲ製ス百斤四「ギルダ」ナリ

「ロタン、スマンブー」 籐類中最モ太キ種類ニシテ直徑五分ヨリ一寸ニ至ル「スマトラ」ニ多ク産ス同島「パレンバ

ン」ニテハ「ロタン、ラジャ」ト云フ學名ハ「カラムス、スベシオヌム」(Calamus speciosum Lour)ト稱ス杖ニ製シ又籐椅子ノ足ニ用フル百斤二「ギルダ」半ナリ

「ロタン、ウータン」 内皮ヲ剝キテ籠ヲ造リ又ハ紐ヲ製ス強クシテ保存水シ學名ヲ「カラムス、ディディモフキルス」(Calamus didymophyllus Becc)ト云フ

此籐ノ實ハ之レヲ壓搾セハ赤色ノ染料ヲ得所謂(Dragons blood)ト稱スルモノニシテ細工物ノ色付ニ用フルボルネオ島ノ土人「ダイヤック」ハ「ロタン、タマン」ニテ籐製ノ敷物ヲ編ミ「ドラゴンスブラッド」ヲ以テ染メタルモノヲ組ミ合シテ赤色ノ模様ヲ編ミ出ス

第五章 森林副産物

森林副産物ノ種類數多クシテ枚舉ニ遑アラスト雖其主ナルモノヲ略記セハ次ノ如シ

護謨類 天然林中ニアル野生ノ護謨類ハボルネオ島及スマトラ島ノ未開林中ニ多シ土人之レヲ採取シテ市場ニ出ス其内較良好ナルモノヲ「バラム、ス」(Balau seose)ト云ヒ學名ヲ「バラギユーム、アクミナト」(Palauinum acuminatum)ト稱ス之レニ次クモノヲ「タバパン、プティ」(Taban Poctih)學名ハ「ラギユームオボヴァート」(P. obovatum)最下等ナルモノヲ「バラム、メラ」(Balau mejah)學名「バラギユームオボロンギフオリユーム」(P. oblongifolium)ト云フボルネオ島「パレジャルマシシ」市場相場ハ「バラム、ス」百斤ニ付七十五「ギルダ」タバパン「同十」ギルダ「バラム、メラ」同七「ギルダ」五十仙ナリ

此等「バラギユーム」ノ種類ニ屬シ護謨質最良ナルカ故瓜哇ニ移植シ官營ニテ之カ栽培ニ勉ツ、アルモノヲ「バラギユーム、グッタ」ト稱ス之レ所謂グッタペルカ樹ニシテ現ニ西瓜哇チベチール村ニ農務局所屬ノ廣大ナル官營栽培場アリ此栽培場ハ面積凡三百町歩ニシテ大部分ニハバラギユームグッタ樹ヲ植ヘ甚少カノ「フックス、エラステイカ」(Ficus elastica)

即チ印度護樹及「ヘヴェア、ブラジグエレス」(Hevea brasiliensis)即チパラ護樹ヲ植ユバキエトムグッタ樹ノ小ナルモノハ二三年生大ナルハ十八年生ナリ十八年生ニ至レハ幹ノ目通徑一尺高サ十間餘トナル十年生ヨリ護樹ヲ採取シ得ヘクシテ一年二回ノ刻付ヲナシ一本ノ樹ヨリ七百乃至千グラムノ年收穫アリト云フ刻付ハ幹ヲ廻リテ半輪狀ニ之ヲナス故ニ刻ミ付ケラレタル幹ヲ遠方ヨリ見ルトキハ竹ノ節ノ如シ此ノ如ク幹ヨリ護樹ヲ取ルノミナラス又葉ヨリ護樹ヲ採取ス植付樹間ノ距離ヲ十二「フット」平方トシ其間ニコカ樹ノ間作ヲナス之レ雜草ノ蔓延ヲ防クト共ニコカ樹ノ間收入ヲ得シカ爲メナリコカ樹ノ葉ヨリ「コカイン」ト稱スル藥用(麻醉劑)品ヲ取り得現時「ロンドン」市價一「キログラム」ニ付一「ギルダ」四十五仙ナリト云フ

「バキエトム、グッタ」ノ護樹ハ電線ヲ包ムノ用ニ供セラレ殊ニ海底電線ニハ必要缺クヘカラスルモノニシテ瓜哇ニ於ケル時價一「キログラム」ニ付七乃至八「ギルダ」ナルモ葉ヨリ取リタルモノハ五「ギルダ」ヲ價ス

此外西部瓜哇並ニ「スマトラ」ノ北部ニハ蘭人英人及支那人ノ經營ニ係ル「ヘヴェア、ブラジグエレス」即チ「パラ」護樹ノ農園多ク存ス此モノハ馬來半島及「シンカポール」ニテ近來盛ニ植付ラル、モノト同種ニシテ馬來半島及「シンカポール」ヲ除キテハ此等地方ヲ以テ最モ適地トナス此護樹カ他ノ護樹樹ニ比シ利益ノ點ハ植付後五六年ニシテ充分護樹ヲ採收シ得ルコト、他ノ護樹樹ヨリ蟲害ニ對シ抵抗力最モ強キコト生産護樹ノ品質上等ニシテ收穫多量ナルト利用廣キコト等ナリ故ニ蘭領政府ニ於テハ近來此護樹ノ培養ヲ獎勵シツ、アリ

パラ護樹ノ葉ハ三小葉ヨリ成リ一小葉ノ長約四寸幅一寸六分アリ全縁ニシテ長楕圓形ヲナス種子ハ褐色ニシテ光澤アリ指頭大ナリ播種後早キモノハ三四日間ニテ發芽ス發芽後六ヶ月間苗床ニ置キ山出ス此時已ニ二尺位ノ長サニ達ス植付地ハ畑地ノ如ク町疇ニ開墾シ若シ森林地ナルトキハ伐木跡地ノ根株ヲ掘リ起シ枝條ト共ニ之レヲ燒キ拂ヒ白蟻ノ害ヲ防カサルヘカラス植付ハ平方形又ハ長方形ニナシ一町步五百本乃至七百本トス從來ハ七百本以上ノ密植ヲナセシモ近來ハ植付距離ヲ可成遠クスルコトニ傾ツ、アリ然レトモ如何ナル程度カ最モ良好ナルヤ成績未タ分明ナラス元來

熱帶地方ニ於テハ伐木跡地ニハ印度チガヤ即チ俗ニ「ララン」ト稱スル荳類多ク蔓リ耕作ヲ害スルコト甚ク之レカ驅除ニハ事業者ノ大ニ苦心スル所ナリト雖トモ未ダ良法ヲ見出サス或ハ言フ「ムンタール」ト稱スル野草ヲ蒔クトキハ「ララン」ヲ撲滅ス「ムンタール」ハ野猪好シテ之レヲ食スルカ故被害ナシト云フモ實際ハ行ハレス只「ララン」ヲ一時モ早ク消失セシムルノハ法ハ開墾地ヲ町疇ニ鋪キ返シ毎年ノ手入ヲ充分ニシ護樹樹ヲ密植シテ可成早ク閉鎖計ルニアリ(閉鎖後ト雖トモ兩三年間、尙「ララン」絶ヘス)然レトモ護樹樹ノ密植ハ樹幹ノ肥大カラ減シ護樹ノ收穫ヲ少クスル恐アルヲ以テ勞力ノ供給充分ナラハ護樹樹ノ疎ニ植ヘ其間ニ作物例ヘハ珈琲、コカ樹又ハ「バインアップル」等ヲ間作スルヲ良トス

パラ護樹ハ五年生ニ至レハ已ニ護樹ノ採收ヲナスニ適スヘシ護樹ヲ採收スルニハ毎朝日出頃ニ採收小刀ヲ以テ幹部ニ傷ヲ付ケ其ヨリ流れ出テタル白乳汁ヲ受器ニ取り之ヲ集メテ平タキブリキ製ノ盤ニ入レ酢酸ヲ混和セハ水分ト護樹質分トニ分ル此固リタル護樹ロールニテ壓搾シテ水分ヲ去リ之レヲ日ニテ乾カシ後腐敗ヲ防ク爲メ燒燻シテ輸出ス「護樹採收ノ爲メ幹ヲ傷クルニハ地上一尺以上ヨリ五六尺迄ノ間トシ傷附方ニハ半魚骨式魚骨式等アリ魚骨式ヲ以テ最良ノ方法トス

パラ護樹ノ收支

馬來半島ニ於テ現時日本人カ經營セル護樹園ノ實例ニ基キ森林ヲ新タニ開墾シテ護樹採收ノ出來得ル年度迄ニ要スル經費ヲ充分ニ見積リ一「エーカー」(我約四)ニ付二百圓トス今一「エーカー」ニハ二百四十本ノ護樹樹存在スルモノトシ一本ヨリ一「ポンド」(我九十九)ツ、ノ護樹ヲ採取シ得ルトセハ開墾着手ヨリ六年後即チ護樹採取ノ初年ノ金額收入ハ一「エーカー」ニ付三百五十一圓三十六錢トナル但シ一「ポンド」ノ護樹ノ相場ヲ三「シルリング」(我四十八錢八厘)即チ一圓四十六錢四厘トス而シテ二百圓ノ資金ハ計算ヲ簡便ニナス爲メ之レヲ五朱ノ利率ヲ以テ借受ケ護樹採取ノ初年迄六年間据置トセハ其元利ハ二百六十八圓二錢トナル故ニ六年目ニ於ケル收支差引八十三圓三十四錢ハ純利益ニシテ資本ニ對



右ノ計算ハ收入ヲ内輸ニナシ支出ヲ餘分ニ見積リ尙且三割餘ノ利益ヲ得タルモノナルモ護謨樹ノ年々肥大スルニ從ヒ護謨ノ採取量ハ一本ヨリ二ポント乃至三ポントト漸次増加スルガ故ニ經費ヲ充分節約シ事業ニ熟練スルニ至レハ假令護謨價ノ低落スルコトアルモ利益ハ確實ナルヘシ

椰子類ハ南洋諸島ヲ通シテ十種以上アリト雖トモ利用サル、モノハ次ノ數種ニ過キス

右々椰子 學名ハ「コハス、メシフエ」Cocos nuciferaト云ヒ馬來語ニテ「カラッパ」ト云フ葉ハ羽狀ニシテ幹ノ上部ニノミ蘇生ス幹ノ高サ百尺ニ至ル人頭大ノ實ヲ結フ幹ハ少シク屈曲スル特性アリ此實ノ利用ハ甚廣クシテ果殼内ニ滿テル五六合ノ透明ナル水ハ甘クシテ飲料トナスニ足リ果肉即チ胚乳ハ料理ノ味付ニ用ラレ又之レヲ製シテ人造バター作り乾燥シタルモノハ「コブラ」ト稱シ歐洲ニ多大ノ輸出アリ油ノ原料ニ供ス果殼ハ硬クシテ種々ノ細工ヲ施スヘク土人ハ此レニテ食器ヲ造ル果殼ノ周圍ニアル毛狀纖維ハ之ヲ撚リテ繩ヲ作り編ミテ敷物トナシ又靴拭ヲ造ル若キ纖維ハベツドノ綿ノ代用トナリ又病院ニテ傷口ノ上ニ覆ヒ脱脂綿ノ代リニ用フ「コブラ」ノ輸出高ハ年約二百萬圓ニ達スト云フ古々椰子ヲ造林スルニハ「エトカー」即チ四反歩ニ付七十個乃至八十個ノ實ヲ取播ニス六ヶ月ニテ發芽シ又ハ三年ヲ要スルモノアリ十年後ニ至リ實ヲ結ブ一本ノ樹ヨリ一年間ノ實ノ收穫平均二圓ヲ得ヘシ故ニ土人ハ此木百本ヲ有スルトキハ裕ニ生活ヲ支ヘ得ヘシト云フ

ニハ椰子 學名ヲ「ニハ、フルティカンス」(Nipa fruticans)ト云ヒ馬來語ニテ「ニハ」ト云フ殆ント幹ヲ見ス葉ハ羽狀ニシテ頗ル長ク一丈餘ニ達シ地上ニ直チニ生ス湿地ニ産シ巨大ノ實ヲ結フ葉ハ土人カ家根ヲ葺クニ用ヒ又小舟ノ苦トス又土人ハ此若葉ヲ取リテ乾カシ煙草ヲ卷キテ喫ス火付良ク臭ナシ

檳榔子 學名ヲ「アレカ、カテキュー」(Areca catechu)ト云ヒ馬來語ニテ「ビナン」ト云フ葉羽狀ニシテ長カラス小葉ハ彎曲シテ深綠色ヲナス卵形ノ黃色ノ實房狀ヲナシ葉ノ叢生部ヨリ二三尺下ノ幹ニ生ス幹ハ節ヲ有シ綠色ヲナス

恰モ竹ノ如シ堅クシテ柱ニ用ラル此實ハ「シリ」ト稱シ南洋土人及馬來半島全體ノ土人カ好ンテ常ニ口ニ入レ嚙ム所ノモノニ用ラル「シリ」ノ製法ハ檳榔子ノ果肉ヲ燒キ此レト石灰ヲ混シテ「ビベル、ベトル」ナル植物ノ葉ニ包ムニアリ之レカ爲メニ用フル所ノ檳榔子ノ實ハ多額ニシテ瓜哇ノミヨリ六十二萬「ギルダ」ヲ馬來半島及「シンカポール」ニ輸出ス

砂糖椰子 學名ヲ「アレnga、サッカリフエ」(Arenga Saccharica)ト稱シ土語ニテ「アレng」ト云フ葉ハ羽狀ニシテ長ク黒綠色ヲ呈ス幹高シ此花柄ノ軸ヘ穴ヲ穿チテ甘液ヲ取り砂糖ヲ製ス又此液ヲ醱酵セシメテ酒ヲ製ス

サゴ椰子 學名ヲ「メトロキンロン、ラムフキ」(Metroxylon rumphii)ト稱シ土語ニテ「トレンブルント」云フ葉羽狀ニシテ長シ此幹中ニハ「サゴ」ト稱スル澱粉ヲ多ク含ム故ニ土人ハ此幹ヲ切り倒シ割リテ水ニ浸シ澱粉ヲ沈澱セシム又幹ノ割タルモノヲ其儘鶏ニ與ヘ飼料トナス此澱粉ハ料理用トシテ賞用セラレ「スーブ」ニ入レテ食ス眞珠「スーブ」ト稱スルモノ之レナリ多ク歐洲其他ニ輸出ス葉ハ編ミテ敷物ヲ製ス

此外椰子類ニテ葉ヲ編ミ敷物トシテ造ラル、モノハ「コリフア、ゲバンガ」(Corypha gebanga)「バンダ、マス、オドラテマシムス」(Pandanus odoratissimus)等ナリ後者ハ我國ニテ嶋ノ木ト稱セラル、モノニシテ美麗ナル帽ニ製セラレ

沈香類 沈香類ハスマトラ島及ボルネオ島ノ深山ニ産ス其種類少カラサルモ埋木トナリテ産スルヲ以テ生立木不分ニ歸シ確實ナル學名ヲ定メ難キモノ多シ學者ノ說ニ依ルニ良好ナル沈香ハ五十年以上ヲ經過セル埋木ヨリ生スト此埋木ノ外觀ハ不規則ニシテ黒色ノ樹脂分ノ小斑點ヲナシテ凝固セル部分ノミ殘リ他ハ腐朽ス沈香ノ良否ハ實ニ此黒斑點ノ多寡ニ依リテ判定セラレ

沈香ノ主ナルモノハ、「アタイラリヤ、マラセセンシス」(Aquilaria malaccensis)、「ホニステイルス、ミクエリアヌス」(Gonystylus migneanus)以上二種ヲ土語ニテ「カユ、ガロ」ト云フ「」ハ「ギンソフアルムアデノボドウム」(Xantho

Phylum adenopodum) (土語ニテ「カユ、カストリ」ト云フ) 四、「カナリユーム」(Canarium, sp) (土語ニテ「カユ、ラサ  
 マタ」ト云フ) 五、「サンタルームアルブム」(Santalum album) (土語ニテ「ドングラト」云フ) 六、「ガル、メリンガット」  
 (學名不明) 七、「ダルベルギア、クンミンギアナ」(Dalbergia Cummingiana) (土語ニテ「カユ、ラツカ」ト云フ) 八、「リ  
 ノストマ、スカンデンス」(Linostoma Scandens) (土語ニテ「ガル、デメンタガカル」) 九、「シクナモمام、バルセノシ  
 ヲ」(Cinnamomum parthenocylon) (土語ニテ「バカナンギ」ト云フ) 十、「セルテイス、レディキユラーター」(Celtis  
 reticulata) (土語ニテ「カユ、タイ」ト云フ) 十一、「エキスカカリヤ、アガロカ」(Excoecaria gallocha) (土語ニテ「ブタ  
 ブタ」ト云フ) 十二、「デルベルギヤ、ユングーニー」(Dalbergia jinguhinii) (土語ニテ「カユ、タロ」ト云フ)  
 以上ノ内一ハ最モ良好ナルモノニシテ二、ハ之レニ次ク八、及十二、ハ蔓莖植物ナリ

第六章 労働者ノ状態並ニ勞銀

蘭領政府ハ領土内ノ労働者ヲ契約移民トシテ海外ニ出スコトヲ絶對ニ禁止ス然レトモ佛領「ニユカレドニヤ」、佛領交  
 趾支那、馬來半島及英領「ボルネオ」ニ農夫トシテ出稼スルハ例外トス而シテ此特種ノ場合ニハ總督ニ於テ許可スルコ  
 トアリ  
 許可ノ條件ハ(一)雇入人ニ於テ出發前ニ旅費及支度料ノ一部ヲ出稼人ニ渡シ出稼地ニ着後其殘額ヲ支給スルコト、  
 (二)食料、飲料水、住家、醫藥ノ費用ヲ全部雇入人ニ於テ負擔スル外給トシテ「シヤバ」人ノ労働者ハ男一名日給二十  
 五仙(シンガポール貨)女一名十五仙ヲ給スルコト、(三)歸國ノ旅費ハ雇主ノ負擔トス、(四)労働者死亡セルトキ三ヶ  
 月以内ニ其遺族カ本籍地ニ歸スルトキハ雇主ハ其旅費ヲ支給スルコト、(五)シンガポール領事ハ此契約ノ履行ヲ監視  
 シ歸國者アルトキハ其船名等ヲ蘭領政府ニ通知スルコト、(六)出稼中食料ヲ労働者ノ自辨トスルトキハ雇主ハ一ヶ月  
 ニ男一人十五弗女一人十二弗ノ給料ヲ支給スルコト

シヤバ労働者ノ舊慣ハ一ヶ月二回ノ休日ト回々祝祭日ニ休業ス若シ基督信者ナルトキハ毎日曜日及宗教上ノ祭日ヲ  
 休日トス而シテ妻子アル者ハ何處ニ行クモ必ス之レヲ携帶シ給料ハ三ヶ月分ヲ前借スルコトナリ  
 瓜哇移民ヲ取扱フ會社ハ瓜哇島内重要ノ地ニアリ而シテ移民取扱手數料ハ一名十「ギルダ」ナリ  
 以上ハ瓜哇島民ノ海外出稼ナルモ領土内移民即チ瓜哇ヨリ「スマトラ」、「ボルネオ」其他ノ諸島へ出稼スル者ナルトキ  
 ハ普通一ヶ月男十二「ギルダ」女八乃至九「ギルダ」(一「ギルダ」ハ我ノ給料ヲ與ヘ其作業ハ午前六時ヨリ午後六時マテ  
 ニシテ其間ニ二時間ノ休暇ヲ與フ然レトモ一日ノ作業ハ面積ヲ以テ定メラル、カ故ニ若シ功程面積ヲ終ラサルトキハ  
 此時間外ニ且リ労働スルコトアリ或ハ又面積ノ割合ニ應ジ賃金ヲ割引スルコトアリ  
 瓜哇人ハ性質柔順ニシテ監督者ノ監督行届クトキハ能ク労働スルモ監督不充分ナルトキハ怠惰ニ流ル、ノ風アリ熱帯  
 地方ノ労働者トシテハ瓜哇人ハ他人種ニ優リ必要缺クヘカラサル者ナルモ支那人ニ比較スルトキハ劣ル故ニ支那人ノ  
 労働者ハ概シテ瓜哇人ノ五割増又ハ倍額ノ賃金ヲ受ク  
 労働者賃金 労働者ノ賃金ハ地方ニ依リ多少異ル今其一例ヲ示セハ  
 瓜哇バタバヤ市

	土	支	那	人
人 夫・頭	最高	最低	〇・七五	一・五〇
臨時人夫	〇・八〇	〇・五〇	〇・五〇	一・五〇
鐵道人夫	〇・三〇	〇・三〇	〇・三〇	〇・五〇
定 備	〇・四〇	〇・四〇	〇・四〇	〇・五〇
石工大工治金工	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	一・〇〇
瓜哇シヤバヤ市	〇・五〇	〇・五〇	〇・五〇	一・〇〇

ボルネオ島、バンジャルマシ「地方		スマトラ島西海岸	
人夫頭	最低	最高	土
人夫頭	〇、八二二	〇、八四二	人
臨時人夫	〇、四三八	〇、四三三	支那
鐵道人夫	〇、四〇〇	〇、四〇〇	人
定備	〇、四六二	〇、四三三	支那
石工大工治金工	〇、一八八	〇、一八八	人
人夫頭	〇、七六〇	〇、七六〇	支那
臨時人夫	〇、三三七	〇、三三七	人
鐵道人夫	〇、四三七	〇、四三七	支那
定備	〇、四二五	〇、四二五	人

石工大工治金工 〇、一三三  
 シンカポール地方ニテ日本人カ經營スル護謨事業ニハ多ク支那人(南清地方)ヲ使役シ其賃金ハ普通シンカポール貨ニテ六十仙ヲ支給ス  
 南洋土人ハ自己ノ住居地ヨリ他へ移ルコトヲ嫌フ性質アリ故ニ瓜哇島ノ如キ人口稠密ナル箇所ニ於テモ労働者ヲ他へ移スコトハ困難ナリ

第七章 土地貸與方法

蘭領政府ハ從來ノ歴史ニ依リ土地ヲ所有スル者ヲ除キ新タニ土地ヲ所有スルコトハ蘭本國人ト雖トモ之レヲ禁止ス只永借地ノ姿ニ於テ一定ノ借地料ヲ徴收シ一定ノ年間土地ノ貸下ヲ許スノミ而シテ其最長期間ヲ七十五年間トス然レトモ政府ノ土地條例ニ依レハ永借地權ヲ所有シ得ル資格者ハ(一)和蘭人(二)蘭領印度住民(三)蘭本國又ハ蘭領印度ニ設立セラレタル商會社ニ限ラル故ニ外國人カ土地ノ永借地權ヲ得ントスルニハ和蘭人ノ名義ヲ以テナスカ又ハ蘭領印度ノ住民トナルカ或ハ蘭本國又ハ蘭領印度ニ商會社ヲ設立シタル者ナラサルヘカラス  
 瓜哇島ニ於ケル政府所有地ハ資格者ニシテ借地料以上ヲ納入シ得ヘキ者ニ競争入札ヲナサシメ其落札者ニ永借地權ヲ獲得セシムヘキ規定ナリ而シテ競争入札ニ附スルニハ公告ノ一箇月前其土地ノ隣接者ニ告知シ異議ヲ申出ツル機會ヲ得セシム公告後四箇月目ニ開札シ開札後一箇月以内ニ總督ハ其落札者ヲ決定ス

第八章 輸入木工品

南洋諸島ニ於テハ樹木ノ生長旺盛ニシテ且其種類富ニ軟キハ桐ノ如キヨリ硬キハ鐵ノ如キニ至ルマテ存在シ天然ハ自由ニ其等材ノ利用ヲ人ノ撰擇ニ委ネツ、アリト雖トモ前章已ニ述ヘタル如ク白蟻ノ害ヲ逞フスルコト甚シク「チ

ク」其他一二ノモノヲ除キテハ殆ント皆其被害ヲ受サルモノナシ故ニ木工品ノ如キハ細工容易ニシテ保存永キ「チーク」ノミ用ラル而シテ「チーク」ハ領土内ニ於テ多額ニ産出スルヲ以テ他國ヨリ各種木工品ノ輸入ヲ受クルノ必要決シテアルコトナシ繁華ナル市ニテハ二三ノ日本雜貨店アリテ我箱根細工ノ少許ヲ店頭ニ陳列スルモ賣行餘リ面白カラス只當領土内ニハ「マツ」チ「トナス」ヘキ適當ノ材ナキ爲メ「マツ」チ「ノミ」ハ日本、歐洲及支那ヨリ輸入ヲ仰ク

最近ノ統計ニ依ルトキハ日本ヨリ蘭領ヘ輸入シタル「マツ」チ「ハ」二百八十九萬六千二百六十七「グロス」(十二ダースハ)其金額百二十八萬三千九百十五圓ニシテ歐洲ヨリ輸入シタルモノ百八萬三千三百三十三「グロス」其金額八十七萬三千三百十三圓ナリ即チ日本ヨリ輸入スル「マツ」チ「ハ」歐洲ヲ凌駕シ尙且年々増加スル例ヘハ瓜哇島ノミニテ

- 一九〇五年 八四九、一二六
- 一九〇六年 一、二四、五八五
- 一九〇七年 一、一五七、五七一
- 一九〇八年 一、四〇二、三六五
- 一九〇九年 一、八五一、九七七

支那ヨリ輸入スルモノハ甚少カニテ日本ヨリ支那ヘ輸入シタル「マツ」チ「ノ」(「ペーパー」)ヲ取替ヘ支那製トシテ輸入スルモノ、如シ

蘭人カ日本「マツ」チ「ニ」對スル批評ハ日本ノ「マツ」チ「ヲ」歐洲ノモノニ比較スルトキハ品質劣レリト云フ其非難ノ點ハ日本「マツ」チ「ハ」軸木細クシ「折」レ易キコト發火スルトキハ軸木ノ燃差シ床上ニ落下スルコト等ナリ案スルニ日本「マツ」チ「ノ」輸出先ノ主ナルモノハ支那ニシテ全輸出額一千餘萬圓ノ約半ハ之レヲ支那ニ出ス然ルニ支那人ハ一箱中ノ軸木ノ數多キヲ好ムカ故ニ一般輸出「マツ」チ「ハ」自然軸木ヲ細ク作ル傾アリ之レ折レ易キ原因ヲナスモノナリ又發火後燃差ノ落下スルハ軸木ヲ或ル藥液(明礬ナリト云フ)ニ浸サ、ルニ歸因ス將來ノ輸出上宜シク鑑ムヘキコトナリトス

### 第九章 白蟻船蟲ニ關スル豫防並ニ之レニ抵抗強キ樹種

熱帶地方ニ於ケル白蟻ノ害ハ非常ニシテ殆ント總テノ木材ハ此被害ヲ受ク然レモ幸ニ南洋地方ニハ「チーク」及鐵木ノ存スルアリテ此等木材ハ白蟻ノ害ニ罹ルコトナク從テ家屋ノ建築、家具、電柱、鐵道枕木、棧橋用材ニ至ルマテ苟モ樞要ナル木材利用部ニハ「チーク」又ハ鐵木各其用途ニ從ヒ使用ス各樹種トモ蓄積多キヲ以テ他樹種ニ蟲害豫防ノ方法ヲ施シ之レカ代用ヲ講スルコトナシ只西瓜哇、ブシアンゲル、州、スカブミ、小林區署ニ於テ近時「ラサマラ」(アルチンギア、エキセルサ)ノ枕木ニ防腐劑ヲ塗抹シ試驗施行中ノモノアリト雖トモ結果未タ分明ナラス此防腐劑ハ「アヴェナリ」ユース、カルボニウムト稱スル褐色ノ液ニシテ蘭國ノ都「ロッテルダム」ニテ製造スルモノナリ

船蟲ニ對シテハ鐵木(カユアシー)抵抗強キカ故水中ニ用フル枕ニハ此丸木ヲ多ク用フ

此ノ如ク南洋ニ於テハ蟲害ニ堪ユルノ樹種ヲ利用シテ適當ニ用フルヲ以テ足レリトシ未タ木材防腐事業ヲ起スモノ一ツモナシ

### 第十章 電柱、鐵道枕木、本道、棧橋、燐寸、製紙等ニ關スル木材利用ノ狀況

電柱ニハ主ニ「チーク」ノ間伐材ヲ用ヒ機那園附近ニ於テハ機那ノ皮剝材ヲ用フ又私設鐵道沿線ニ於テハ「レール」ノ不用ニ歸シタルモノヲ建テ電柱ニ代用ス繁華ナル市中ニテハ鐵製ノ電柱ヲ用フルモ田舎ノ町ニ於テハ並木ニ直接腕木ヲ取付ケ電線ヲ張ル、鐵道枕木ハ總テ「チーク」ノミニシテ他ノ木ヲ用ユルヲ見ス

本道ハ南洋地方ニ於テハ之レヲ作ラス棧橋ニハ皆鐵木ヲ用フ之レ他ノ木材ニテハ腐朽早キカ爲メニシテ殊ニ水中ノ枕木ハ鐵木ナラサレハ船蟲ノ害ヲ受クルコト夥シキカ故ナリ燐寸ニハ適材ナキヲ以テ之レヲ作ラス皆外國ヨリノ輸入ヲ待ツ製紙モ亦原料トナスヘキ樹種ナキ爲メ此事業ヲ營マス

第十一章 木材市場ノ狀況

「チーク」及「ラサマラ」ノ如キ主ナル樹種ハ官營ニテ伐木、造材、運搬ヲナシ鐵道沿線ノ土場ニ於テ之レヲ公賣ニ付スルコトハ前章ニテ已ニ之レヲ述タリ而シテ「チーク」ハ丸材ニ木取り「ラサマラ」ハ角材ニ木取ルヲ法トスルモ拂受ケタル木材商ニシテ鋸工場ヲ有スル者ハ「チーク」ノ丸太ヲ角材ニ製シ及板並ニ小角ニ作リテ之レヲ販賣ス材積ノ單位ニハ立方「センチメートル」ヲ用ヒ直徑ニハ「インチ」長サニハ「メートル」ヲ單位トス政府ニテハ製材工場ヲ有セス「スラバヤ」市及「スマラン」市ニ蘭人經營ノ鋸工場三箇所英人經營ノ鋸工場一ツアリ  
木材ノ輸入税ハ無税ナルモ燐寸軸木及木工品ハ從價ノ六分ヲ課シ燐寸ニシテ硝藥ヲ附シタルモノハ從價ノ十八割ヲ課ス

第十二章 結 論

敘上記述セル所ハ短日月ニ於テ南洋諸島ノ一部ヲ觀察シタル管見ニ過キス若シ夫レ全諸島ニ亘リ較詳細ナル調査ヲ爲サント欲セハ少クトモ一兩年ノ日子ヲ要ス之レ諸島間ノ航行不便ナルコト言語ノ不通ナルコト參考トスヘキ書類並ニ書籍力盡ク蘭語ナルコト等主ナル原因ニシテ瓜哇島ヲ除キテハ島内ノ交通頗ル不便ナリ故ニ内部ニ立入ルニハ唯一ノ交通機關タル川ニ依ルノ外道ナク土人ノ木舟ニ乘リ之レニ宿泊シテ調査ヲ續ケサルヘカラス森林ノ調査ニ於テハ殊ニ然カリトス且ツ瘴氣ハ常ニ吾人ノ身邊ヲ圍ミ健康ヲ害スルコト多ク山地ノ土審ハ時ニ被害ヲ加フルコトナシトセス故ニ小官ノ觀察ハ或ハ其一斑ヲ見テ全豹ヲ想定スルカ如キ嫌ナキニアラサルモ要スルニ南洋諸島ノ如キ熱帶地方ト我國トハ氣候風土大ニ異ナルヲ以テ彼國ノ林木ヲ取リテ我國ニ造林ヲ試ムルコト頗ル難シ例ヘハ臺灣琉球又ハ八丈島ノ

如キ我國ノ所謂熱帶地方ニ「チーク」又ハ護謨樹ノ如キ試植ヲナスト雖トモ其生長彼ニ如カス或ハ種類ニ依リテハ全然生長ヲ遂ケサルモノアルカ如シ之レ彼國ニ於テハ春夏秋冬ノ氣溫ノ差少クシテ年中ノ雨量多ク風ハ強風烈風ナクシテ軟風常ニ輕ク我國ニ於テハ四季ノ氣溫ノ差多クシテ年中雨量少ク時ニ強風烈風又ハ颶風ノ起ルコトアル所以ナリ  
風ノ害ハ林木ノ生育ニ大ナル影響ヲ及ス熱帶地方ノ樹木ハ概ネ葉面大ニシテ風ニ對スル抵抗力弱シ又強風以上ノ風ハ屢々花ヲ落シ未熟ノ果實ヲ奪ヒ其繁殖ヲ妨グノミナラス遠ニハ其幹ヲ挫折シ根ヲ倒スニ至ルコトアリ故ニ熱帶樹木ノ移植ニハ其氣候地味略之レニ叶フト雖トモ風害ヲ防グノ方法ヲ講スルコト我國ニ取リテハ最モ緊要ナル手段トス  
船艦用材トシテ將又建築並ニ器具用材トシテ最モ必要ナルチーク樹ハ我臺灣地方ニ之レヲ繁殖セシムルトキハ國ヲ利スルコト大ナリト考フルモ氣候風土能ク之レニ適スルヤ否ヤ造林ノ方法ヲ如何ニスヘキヤ等ハ實地ノ調査ヲ經タル後ニアラサレハ之レヲ斷定スルコト能ハス然レトモチーク材ハ瓜哇島ニ多ク産ス之レカ品質暹羅ノ材ニ比シ少シク劣ルカ如キモ價格ハ遙カニ低廉ナリ宜シク取リテ以テ利用ノ途ヲ開クニ如カス然ルニ從來我國ニ瓜哇チーク材ノ輸入ヲ見サリシハ直接瓜哇ヘノ日本船航路ノ開始ナキニ依ルモノナランカ  
護謨樹ハ我臺灣ニ於テ已ニ試植セルモノアルモ其結果良好ナラズト聞ク之レ氣溫及雨量ノ關係カ然ラシムルモノナラシ故ニ之レカ植栽ハ馬來半島、シンカポール「附近又ハ南洋諸島等荷モ護謨樹ノ生育ニ最適地ト認メラル、所ニ於テナスヲ良策トス何トナレハ護謨實液汁ノ多寡カ直チニ專業ノ收支ニ關係スルモノニシテ生長ノ盛ナル樹ハ護謨ノ分沁亦多キカ故ナリ而シテ馬來半島、シンカポール「附近ニテハ已ニ日本ノ企業者多ク入り込ミ夫々事業ニ從事スルモ未タ南洋諸島ニ於テ着手シタルモノアルヲ聞カス然ルニ南洋地方ハ馬來半島ニ比シ勞力賃低廉ナルヲ以テ從テ企業利益大ナルヘシ只瓜哇島ニ於テハ人口稠密ニシテ土地又餘裕アルヲ見ス宜シクスマトラ島又ハボルネオ島ノ如キ未開ノ地ヲ選定計畫スルヲ要ス今瓜哇島及スマトラ島ニ於テ蘭人又ハ英人カ盛ニ護謨事業ヲ營ム地方ノ月別雨量ヲ調査スヘシ

月別雨量 (ミリメートル)

又之レト略同様ノ雨量アル地ニシテ比較的開ケタル箇所ハ

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
瓜哇島	一九七	一六九	二四七	二四四	一三三	八九	六八	四七	八〇	一五五	三三七	三三三	一八五八
スマトラ島	一三三	九六	九〇	二二六	一八七	二三〇	二二六	一四一	三三六	二六〇	二四八	三三四	二〇五九

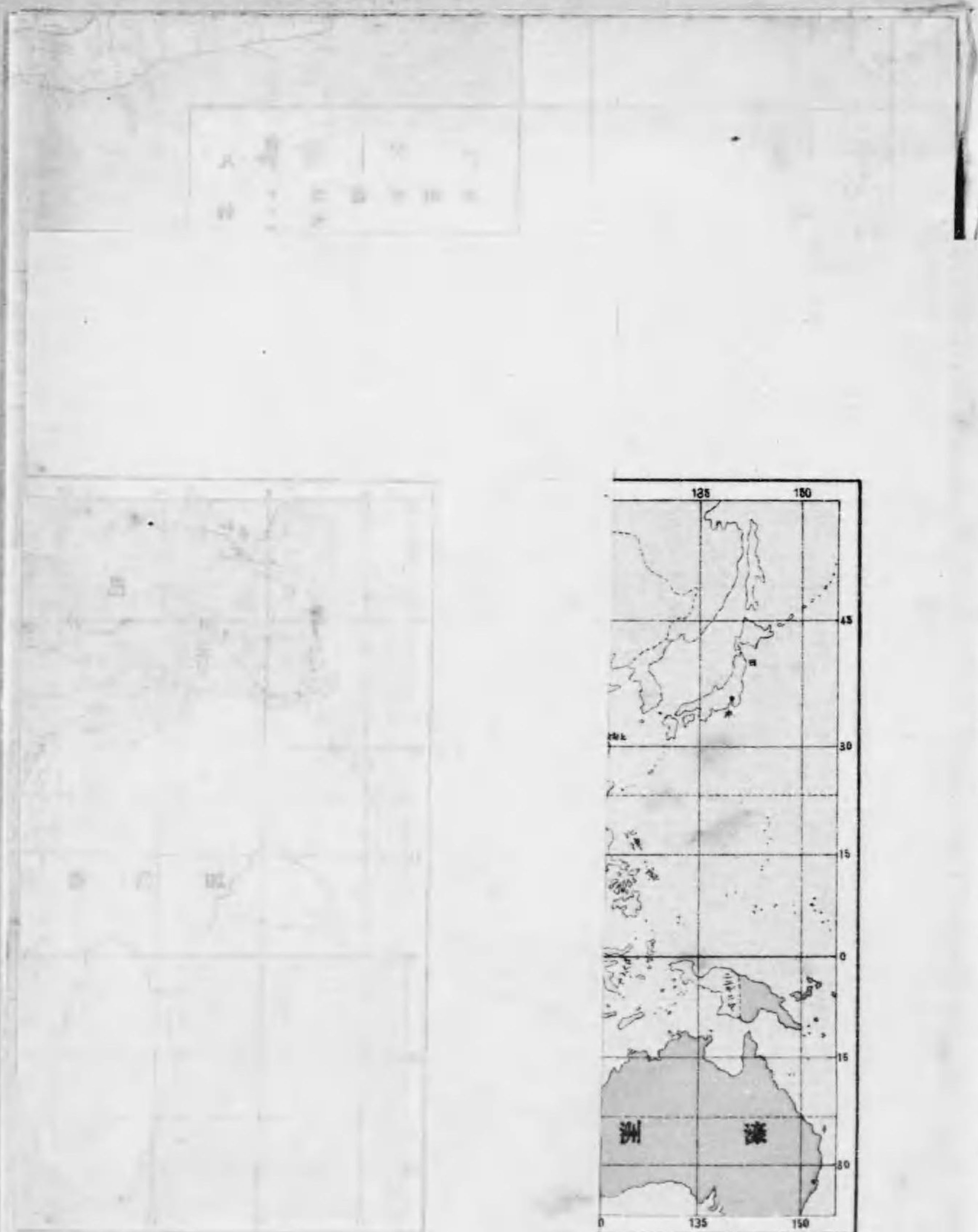
月別雨量 (ミリメートル)

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
スマトラ島	三三九	二九三	三〇九	二二三	二七一	二四九	二〇四	九九	八九	一四二	二二五	三三六	二四三八
ボルネオ島	三三九	二六四	三三五	二八三	一九六	二一九	二〇九	二〇〇	一三六	二二八	二八三	三三六	二六七四
シニルマシ	三三九	二九三	三〇九	二二三	二七一	二四九	二〇四	九九	八九	一四二	二二五	三三六	二四三八

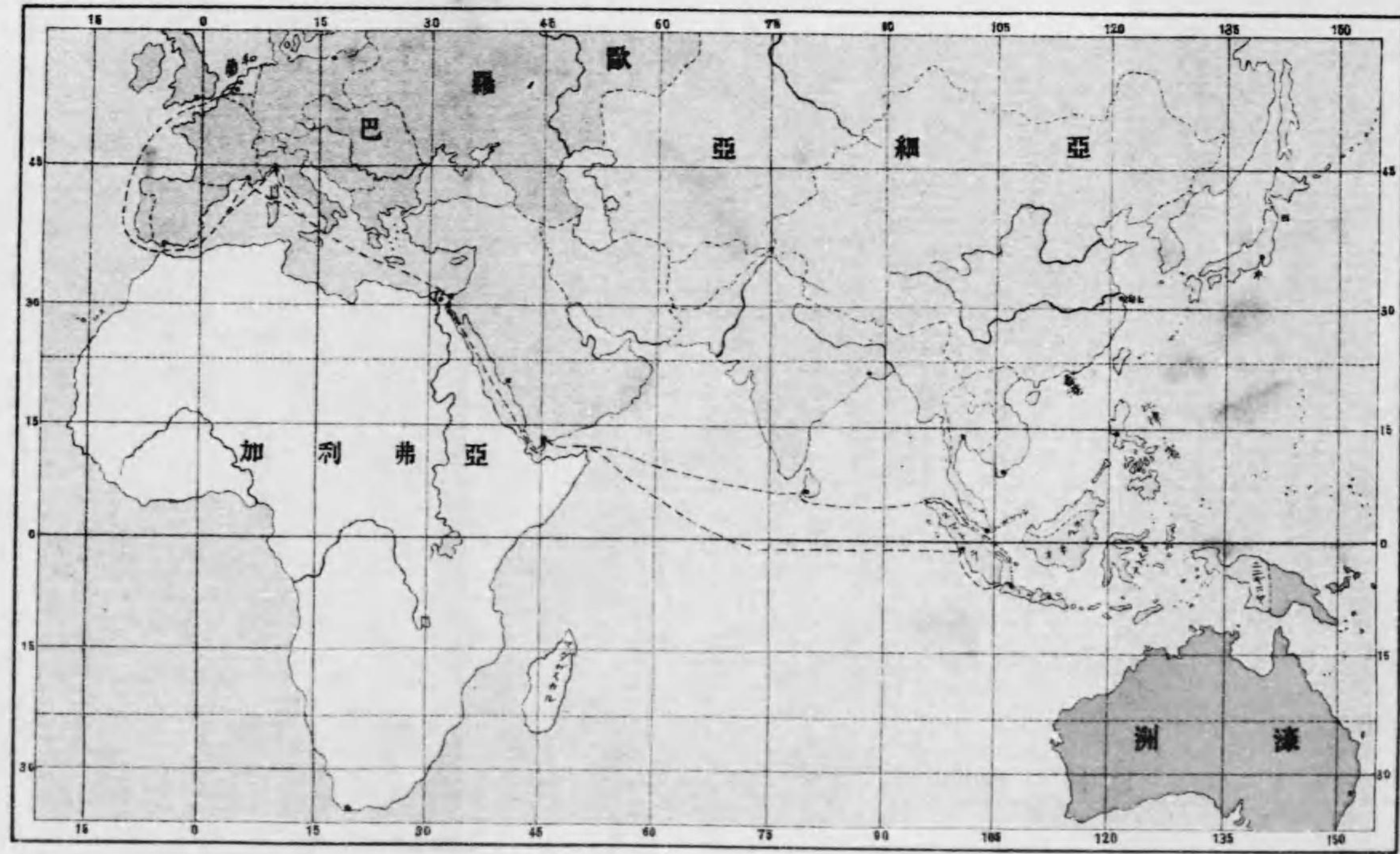
此ノ如ク年中ヲ通シ雨量多キ地ヲ相シ事業ヲ營マハ蓋シ誤リナカラン然レトモ此等ノ地ニ於テハ新タニ森林ヲ開墾シ永住ノ目的ヲ以テ事業ヲ計畫セサルヘカラス而シテ開墾ノ當初ニ於テハ瘴氣ニ襲ハルハコト多キヲ以テ實地事業ニ當ルモノハ頗ル健康者タルヲ要ス

以上ハ只南洋ニ於テ事業發展ノ餘地充分アルヲ示スモノニシテ現今「シンカポール」其他馬來半島ニ開墾スハキ土地未タ裕カナル間ハ同地方ニ於テ事業ヲ經營スルニ如カス蓋シ馬來半島ハ南洋地方ニ比シ土地ヲ得ルコト容易ニシテ護謨樹ノ生長優秀ナルト共ニ生産物ノ歐洲ニ輸出スルニ便利多クレハナリ

又彼ノ地ヘ輸出スヘキ我國ノ木材ノ有無如何ト云フニ已ニ屢記述セル如ク彼ノ地ハ樹木ノ種類多シト雖トモ白蟻ノ害逞クシテ「チーク」外一種ヲ除キテハ如何ナル木材モ皆此被害ヲ蒙ラサルモノナキニ依リ我國ヨリ彼ノ地ヘ輸出スヘキ木材ハ白蟻ノ害ヲ受ケサル種類ノ物ヲササルヘカラス然ルニ我國ニ於テ此ノ如キ材種ナキ以上ハ彼ノ地ニ多ク産スルチーク材ヲ凌駕シテ之レカ輸出ヲ計ルコト能ハサルハ明ナリ



露光量違いの為重複撮影



又之レト略同様ノ雨量アル地ニシテ比較的開ケタル箇所ハ  
月別雨量 (ミリメートル)

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
スマトラ島	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
ボルネオ島	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
マニラ	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
シエラレオネ	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

此ノ如ク年中ヲ通シ雨量多キ地ヲ相シ事業ヲ營マハ蓋シ誤リナカラン然レトモ此等ノ地ニ於テハ新タニ森林ヲ開墾シ  
永住ノ目的ヲ以テ事業ヲ計畫セサルヘカラス而シテ開墾ノ當初ニ於テハ瘴氣ニ襲ハル、コト多キヲ以テ實地事業ニ當  
ルモノハ頗ル健康者タルヲ要ス

以上ハ只南洋ニ於テ事業發展ノ餘地充分アルヲ示スモノニシテ現今「シンガポール」其他馬來半島ニ開墾スヘキ土地未  
タ裕カナル間ハ同地方ニ於テ事業ヲ經營スルニ如カス蓋シ馬來半島ハ南洋地方ニ比シ土地ヲ得ルコト容易ニシテ護謨  
樹ノ生長優秀ナルト共ニ生産物ノ歐洲ニ輸出スルニ便利多ケレハナリ

又彼ノ地ヘ輸出スヘキ我國ノ木材ノ有無如何ト云フニ已ニ屢記述セル如ク彼ノ地ハ樹木ノ種類多シト雖トモ白蟻ノ害  
逞クシテ「チーク」外一種ヲ除キテハ如何ナル木材モ皆此被害ヲ蒙ラサルモノナキニ依リ我國ヨリ彼ノ地ヘ輸出スヘキ  
木材ハ白蟻ノ害ヲ受ケサル種類ノ物ヲササルヘカラス然ルニ我國ニ於テ此ノ如キ材種ナキ以上ハ彼ノ地ニ多ク産スル  
チーク材ヲ凌駕シテ之レカ輸出ヲ計ルコト能ハサルハ明ナリ

# 露光量違いの為重複撮影

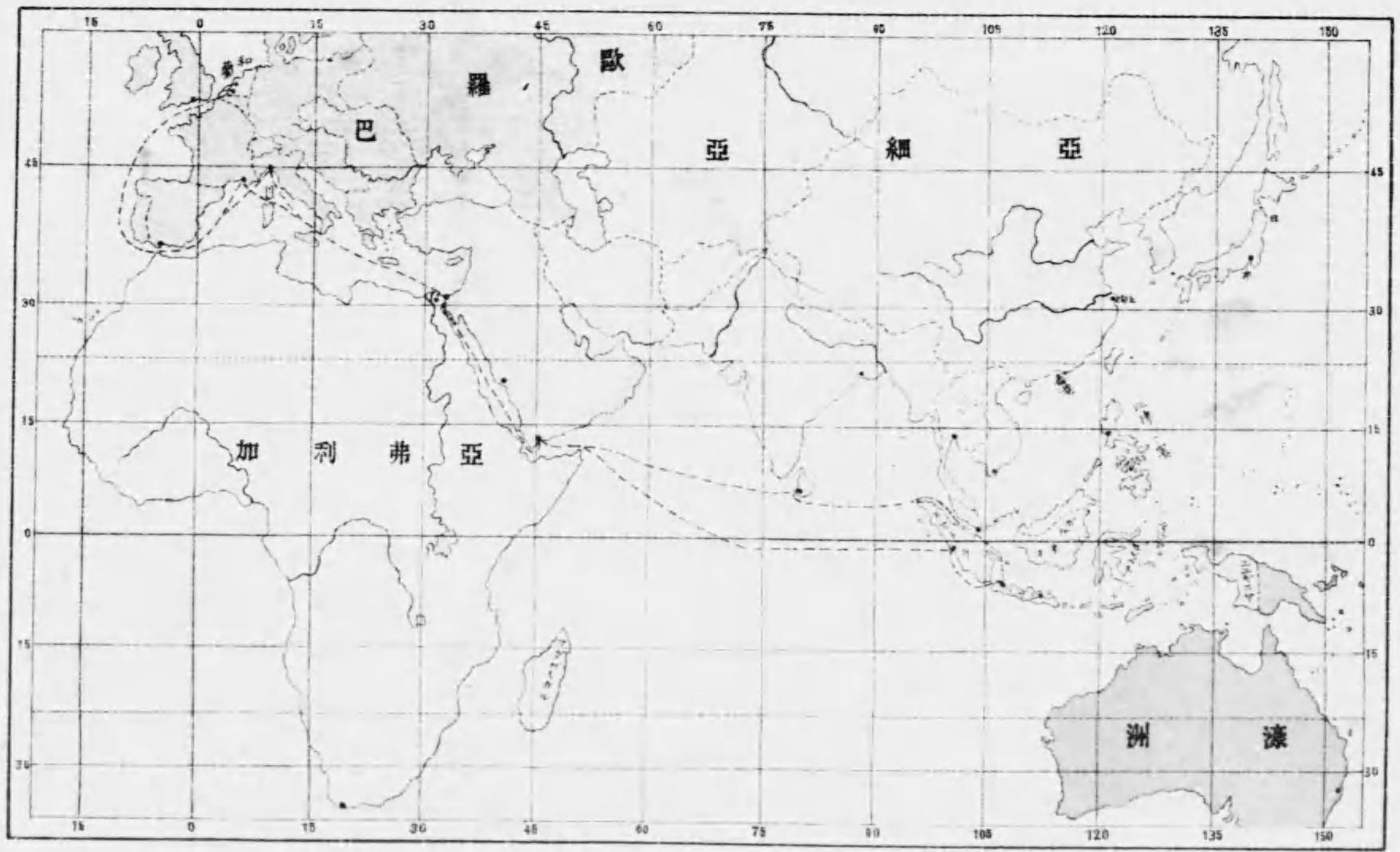
又之レト略同様ノ雨量アル地ニシテ比較的開ケタル箇所ハ  
月別雨量 (ミリメートル)

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
スマトラ島	三三九	二六四	三三五	二六三	一九六	二一九	一〇九	一一〇	二二六	二二八	二六三	三三六	二、六七〇
ボルネオ島	三三九	二九三	三〇九	二二三	一七二	一四九	一〇四	九九	八九	一四二	二二五	三三六	二、四二八
シエラレオン	三三九	二九三	三〇九	二二三	一七二	一四九	一〇四	九九	八九	一四二	二二五	三三六	二、四二八

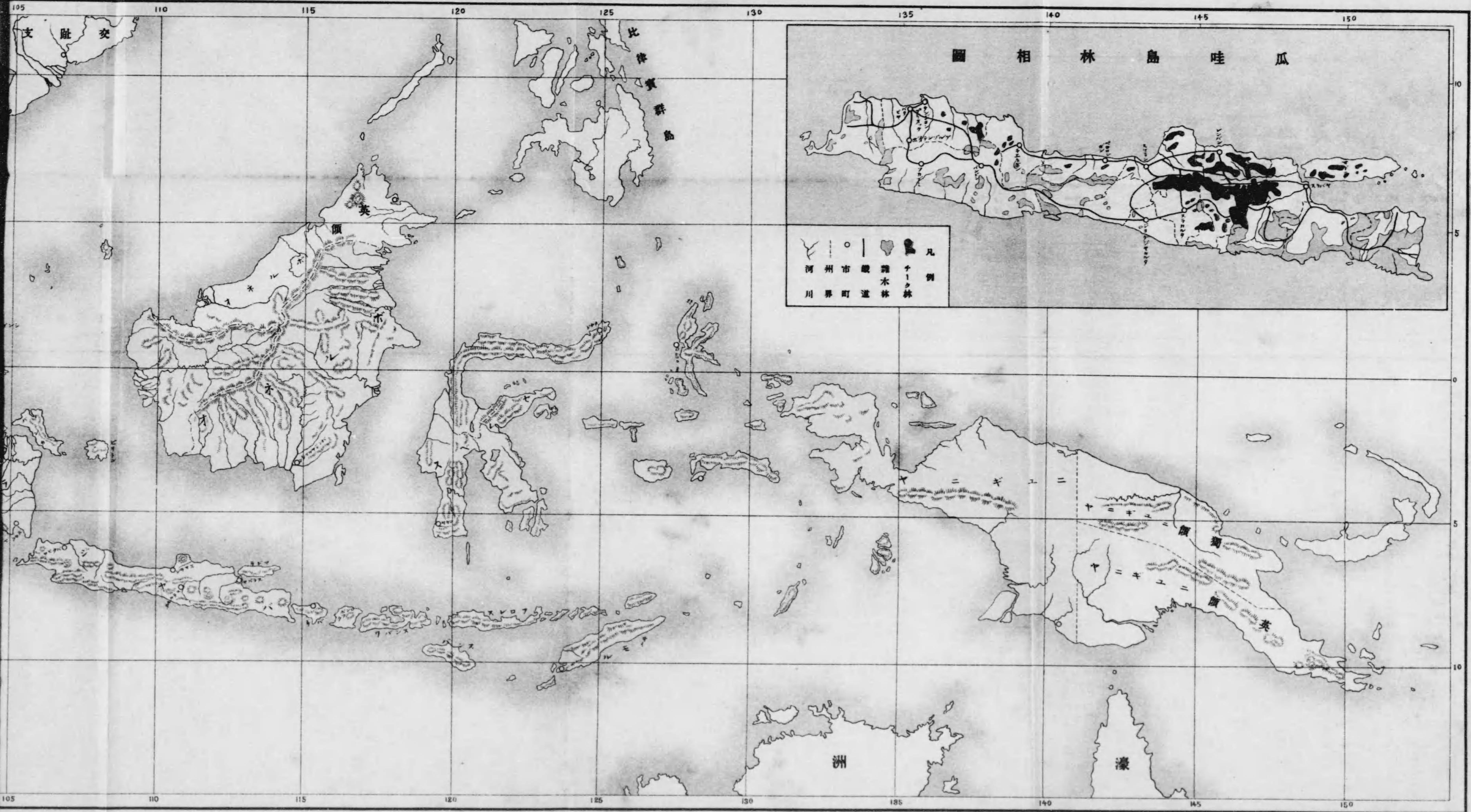
此ノ如ク年中ヲ通シ雨量多キ地ヲ相シ事業ヲ營マハ蓋シ誤リナカラン然レトキ此等ノ地ニ於テハ新タニ森林ヲ開墾シ  
永住ノ目的ヲ以テ事業ヲ計畫セサルヘカラス而シテ開墾ノ當初ニ於テハ瘴氣ニ襲ハル、コト多キヲ以テ實地事業ニ當  
ルモノハ頗ル健康者タルヲ要ス

以上ハ只南洋ニ於テ事業發展ノ餘地充分アルヲ示スモノニシテ現今「シンカポール」其他馬來半島ニ開墾スヘキ土地未  
タ裕カナル間ハ同地方ニ於テ事業ヲ經營スルニ如カス蓋シ馬來半島ハ南洋地方ニ比シ土地ヲ得ルコト容易ニシテ護謨  
樹ノ生長優秀ナルト共ニ生産物ノ歐洲ニ輸出スルニ便利多ケレハナリ

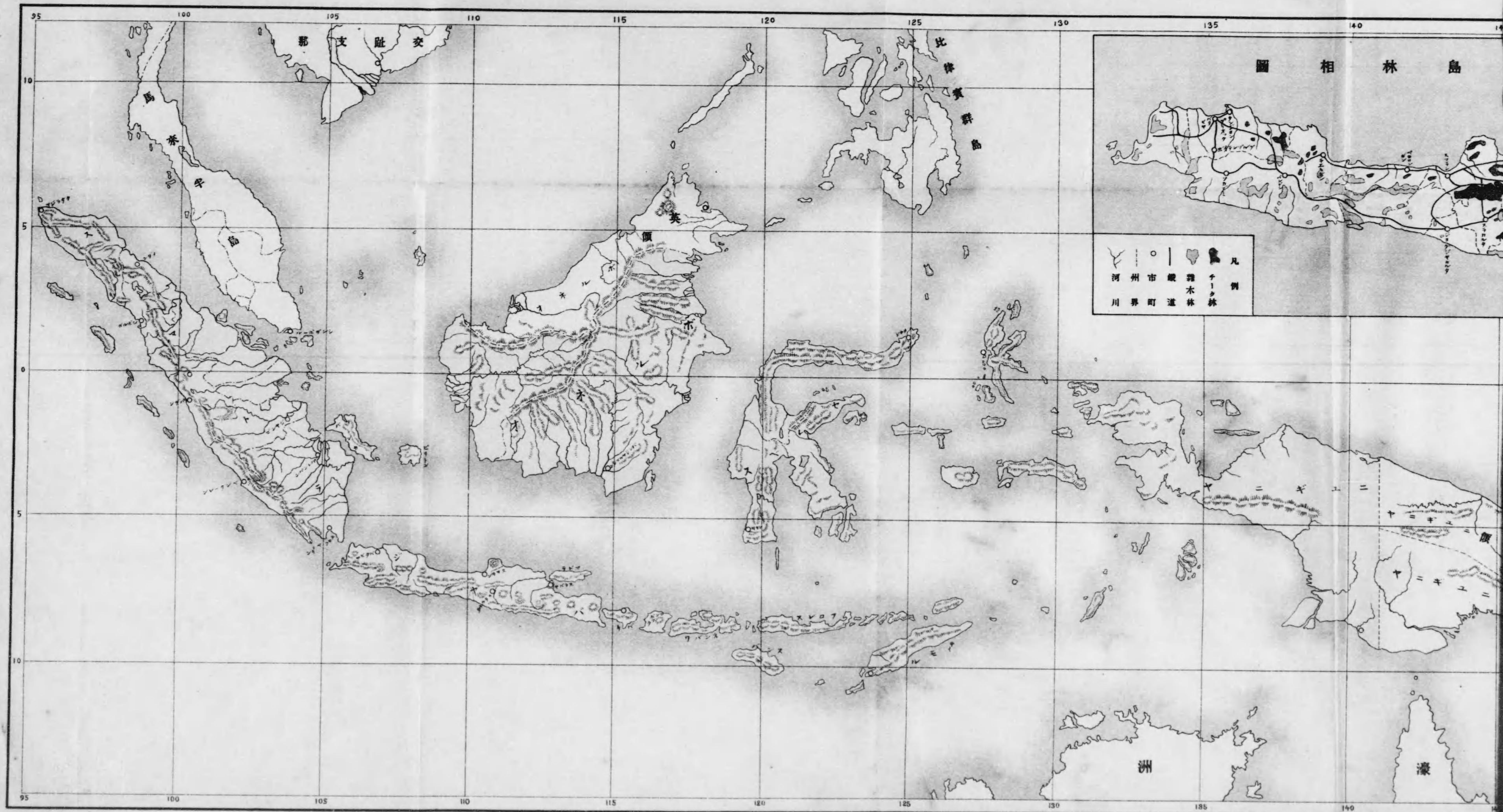
又彼ノ地ヘ輸出スヘキ我國ノ木材ノ有無如何ト云フニ已ニ屢記述セル如ク彼ノ地ハ樹木ノ種類多シト雖トモ白蟻ノ害  
選クシテ「チーク」外一種ヲ除キテハ如何ナル木材モ皆此被害ヲ蒙ラサルモノナキニ依リ我國ヨリ彼ノ地ヘ輸出スヘキ  
木材ハ白蟻ノ害ヲ受ケサル種類ノ物ヲササルヘカラス然ルニ我國ニ於テ此ノ如キ材種ナキ以上ハ彼ノ地ニ多ク産スル  
チーク材ヲ凌駕シテ之レカ輸出ヲ計ルコト能ハサルハ明ナリ







0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15



島林相圖

- |   |     |
|---|-----|
| 凡 | 例   |
| ○ | 市   |
| ● | 鎮   |
| — | 道   |
| — | 州界  |
| — | 河川  |
| ■ | 森林  |
| ■ | 雜木林 |



大正二年一月二十四日印刷

大正二年二月十八日發行

# 農商務省山林局

印刷者 松本 魁  
東京市芝區濱松町一丁目七番地

印刷所 會社資 東京國文社  
東京市京橋區宗十郎町十五番地

11-399

終

